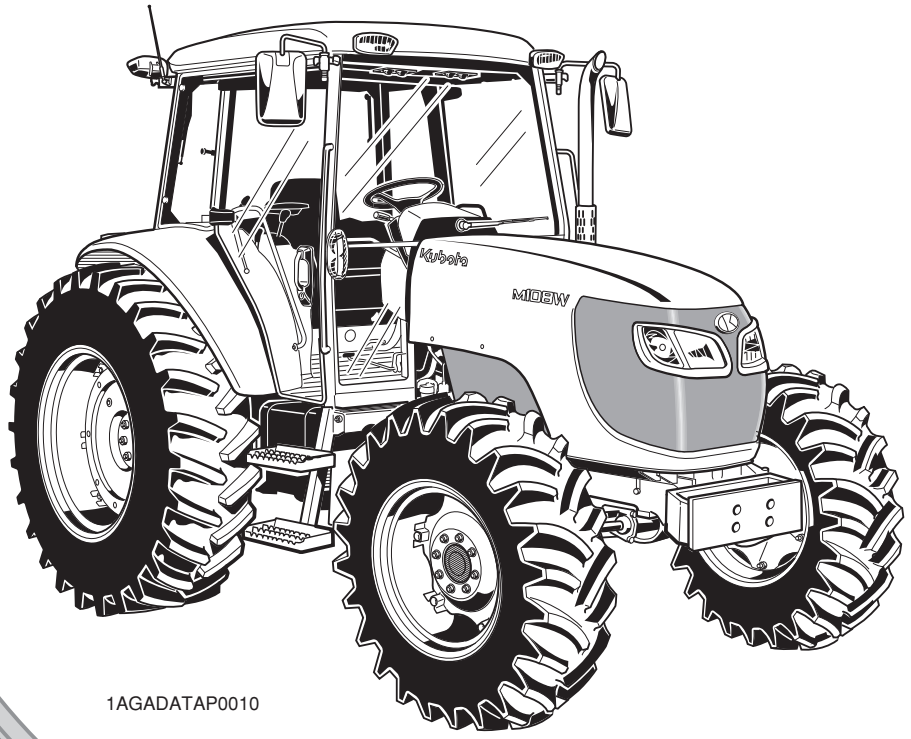
クボタトラクタ

取扱説明書

M108W



1AGADATAP0010

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	注意マーク
	火気厳禁
	ディーゼル軽油
	燃料残量警告
	燃料計（残量）
	アワーメータ （積算時間計）
	エンジン予熱
	エンジンオイル圧力
	バッテリ充電異常
	エンジン異常警告
	水温計
	ホーン
	方向指示器表示
	ハザードランプ
	作業灯
	ヘッドライト（上向き）
	ヘッドライト（下向き）
	駐車ブレーキ 油圧ブレーキオイル
	駐車ブレーキ
	高速又は高
	低速又は低
	超低速（クリープ）
	エンジン回転
	前輪駆動（入）
	DT（4 輪駆動）
	ブレーキ連結解除
	デフロック
	ポジション コントロール（上げ）
	ポジション コントロール（下げ）
	ドラフトコントロール （浅）
	ドラフトコントロール （深）
	油圧補助コン シリンダ（縮み）
	油圧補助コン シリンダ（伸び）
	PTO（入）
	PTO（入）
	PTO（切）
	フロントワイパ
	リヤワイパ
	シガライタ
	デフォッガ
	固定（ロック）
	チルトステアリング
	空
	充満

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は M108W-DTQ を基本とし，M108W-DTQ と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 安全キャブ付き……Q 仕様
- ４輪駆動付き……ＤＴ 仕様
- デュアルスピード付き……ＤＳ 仕様

本書の見方

この取扱説明書には必要な情報が容易に検索できるよう，一般目次以外に下記３つの目次を掲載しています。
目的に応じ使い分けの上，必要な情報の検索にご活用ください。

１．目的目次　　困った事，知りたい事などから関連する項目の説明ページが検索できます。

２．絵目次　　レバーやスイッチの名称が分からなくても，イラストから確認したいレバーやスイッチの説明ページが検索できます。

３．索引（巻末）　　調べたい名称から掲載ページが検索できます。
例えば[エンジンオイルの交換のしかた]のページを調べたい場合，「あ行」の［エンジンオイルの交換］で説明ページが検索できます。

目　次

⚠安全に作業するために

安全キャブについて **1**
運転前に **1**
始動時に **2**
運転時に **3**
作業機使用時に **5**
道路走行時に **6**
駐車，格納時に **7**
点検・給油・整備時に **7**
表示ラベルと貼付け位置 **11**
表示ラベルの手入れ **14**

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証 **1**
ご相談窓口 1
補修用部品の供給年限について 2
小型特殊自動車としての取扱い **3**
小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け 3
運転免許 3
損害賠償保険について 3
輪距 3

運転のしかた

運転前の点検 **4**
エンジンの始動と停止 **5**
始動のしかた 5
寒冷時の始動のしかた 9
停止のしかた 9
寒冷時の暖機運転 10
バッテリあがりの処置 10
ならし運転（最初の約 50 時間） 11
運転席周りの調節 **12**
シート 12
安全キャブとシートベルト 12
チルトステアリングハンドル 13
バックミラー 13
灯火類の操作 **13**
ヘッドライトスイッチ 13
ウインカスイッチ 14
ハザードスイッチ 14
ホーンボタン 14
作業灯スイッチ（前） 15
作業灯スイッチ（後） 15
バックランプ 15
ブレーキランプ 15
車幅灯・尾灯 15
外部電源取出端子 **16**
電源取出し 16
トレーラカプラ電源 16
トレーラ用カプラ（オプション） 16
発進・走行 **17**
ブレーキペダル 17
クラッチペダル 18
主変速レバー 19
副変速レバー 19
シャトルレバー 20
Dual speed（デュアルスピード）変速スイッチ 20
クリープレバー 21
DT スイッチ 22
アクセルレバーとアクセルペダル 22
駐車ブレーキ 23
停車・駐車 **23**
運転中の作動確認 **24**
イージーチェッカ 24
燃料計 25
エンジン回転計 25
水温計 26
PTO 回転計・スピードメータ **27**
表示の切替え 27
PTO 回転計の設定と確認 29
車速係数の入力 30
状況に応じた操作 **31**
デフロックの使い方 31
旋回のしかた 31
坂道での運転 32
ほ場への出入り時の注意 32
道路走行中の注意 32
トラックへの積み・降ろし 33
パワーステアリングの取扱い 33
ロータ作業 34

作業のしかた

作業機昇降装置 **35**
ドラフトストッパ 35
ポジションコントロールレバー 35
ドラフトコントロールレバー 35
ミックスコントロール 36
作業機落下速度の調整 36
外部油圧取出し **37**
油圧補助コントロールレバー 37
補助コントロールバルブ単複切換えつまみ 38
三点リンク **39**
各部の名称 39
ロアーリンク取付け穴の選択 40
リフトロッド（左）の長さ調整 40
トップリンク 40
リフトロッド（右）の調整 41
チェックチェーン 42
作業機を取付けないときの注意 42
けん引ヒッチ（ドローバ） **42**
PTO **43**

目　次

PTO クラッチコントロールレバー..... 43
PTO 変速レバー..... 43
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 44
タイヤ..... 44
タイヤの空気圧 44
輪距の調整..... 45
前輪 45
後輪 45
前輪輪距 46
後輪輪距 46
前輪切れ角の調整..... 47
ストッパボルトの調整 47
ウエイト（別売）..... 48
前部ウエイト（オプション）..... 48
後輪ウエイト（オプション）..... 48

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック..... 49
ドア 49
リヤウインド 50
クォータウインド 50
ルームランプ..... 50
ルームランプ 50
ワイパ..... 51
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 51
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 51
寒冷時のワイパの使用 51
リヤデフォッガスイッチ（熱線リヤスイッチ）
..... 51
その他のアクセサリ..... 52
サンバイザ 52
シガライタ 52
エアコン..... 53
空気の流れ 53
風向調整 53
コントロールパネルの名称と働き 55
操作方法 55
ヒータ使用上の注意 56
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ 57
共通部の操作のしかた 57
ラジオを聴くには 59
CD を聴くには..... 60
取扱い上の注意 61
お問合わせ 62
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方
..... 62
アンテナ 62
インプルメントの装着..... 63
インプルメント用操作ボックスの取付 63

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について..... 64
洗車時の注意..... 64
定期点検箇所一覧表 66
給油（水）一覧表 68
トラクタの給油（水)..... 68
推奨オイル・グリース一覧表 69
エンジンオイル・ミッションオイル..... 69
グリース..... 69
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方..... 70
ボンネットの開閉..... 70
サイドカバーの取り外し..... 70
日常点検 71
前日の異常箇所..... 71
トラクタの周りを歩いて..... 71
エンジンオイルの量及び汚れ..... 71
ミッションオイルの量及び汚れ..... 72
冷却水の量..... 72
ブレーキオイルの量..... 73
セパレータの水の排出..... 73
バキュエータバルブの清掃..... 73
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点
検・交換..... 74
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷..... 74
防虫網の清掃..... 75
ブレーキペダルの遊び・点検..... 76
駐車ブレーキの作動点検..... 77
メータ・ランプ類の作動..... 77
燃料の補給..... 78
50 時間ごとの点検・整備..... 78
エンジン始動システムの点検..... 78
タイヤ取付けボルトの点検..... 79
クラッチハウジングの水抜き..... 79
パワーステアリングホースの点検..... 79
燃料ホースの点検..... 79
100 時間ごとの点検・整備..... 80
バッテリ電解液の点検..... 80
ダブルエアクリーナエレメントの清掃.... 82
ファンベルトの点検・調整..... 82
油圧ブレーキの点検..... 83
駐車ブレーキの点検・調整..... 83
グリースの注入..... 83
エンジンの始動確認..... 84
エンジンの排気の状態..... 84
エキゾーストパイプ及びマフラの状態.... 84
200 時間ごとの点検・整備..... 85
ラジエータホースの点検..... 85
オイルクーラホースの点検..... 85
吸気ホースの点検..... 85
油圧オイルフィルタカートリッジの交換.. 86
トーイン調整・タイロッドの点検..... 86
燃料タンクの水抜き..... 87
室内エアフィルタの清掃..... 87
外気フィルタの清掃..... 88
エアコンコンデンサの詰まり..... 89
エアコンベルトの張り..... 89
300 時間ごとの点検・整備..... 90

目　次

エンジンオイルの交換 90
400 時間ごとの点検・整備 91
燃料フィルタカートリッジの交換 91
セパレータの清掃 91
600 時間ごとの点検・整備 92
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 92
ミッションオイルの交換 92
前部デフケースのオイル交換 93
前輪ケース左・右のオイル交換 93
前部デフケースの前後遊びの調整 93
ブレーキオイルの交換 93
前輪ケース回動トルクの調整 94
800 時間ごとの点検・整備 94
エンジンバルブクリアランスの点検 94
1500 時間ごとの点検・整備 94
インジェクタの点検 94
3000 時間ごとの点検・整備 94
ターボチャージャの点検 94
サプライポンプの点検 94
インテークエアヒータの点検 94
1 年ごとの点検・整備 94
エアクリーナエレメントの交換 94
エアコン配管，ホースの点検 94
2 年ごとの点検・整備 95
冷却水の交換 95
ラジエータの洗浄 96
ラジエータホースの交換 96
パワーステアリングホースの交換 96
吸気ホースの交換 96
燃料ホースの交換 96
ブレーキホース / ブレーキタンクホースの交換 96
マスタシリンダ / イコライザキットの交換96
ブレーキシール 1，2 の交換 96
オイルクーラホースの交換 96
駐車ブレーキワイヤの交換 96
必要に応じた点検・整備 96
燃料の空気抜きのしかた 96
ブレーキの空気抜き 97
ヒューズの交換 97
スローブローヒューズの交換 98
ヘッドランプの交換 99
ランプ一覧 99
注油 99
ウォッシャ液の補充 99
冷媒（ガス）量の点検 100
格納 100
長期格納時の手入れ 100
不調と処置 102
エンジンの不調と処置 102
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置 104

付表

主要諸元 105
トラクタの主要諸元 105
走行速度表 106
標準付属品 107
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう） 108
アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう） 110
補助コントロールバルブ一覧表 111
検査成績表 112

索引

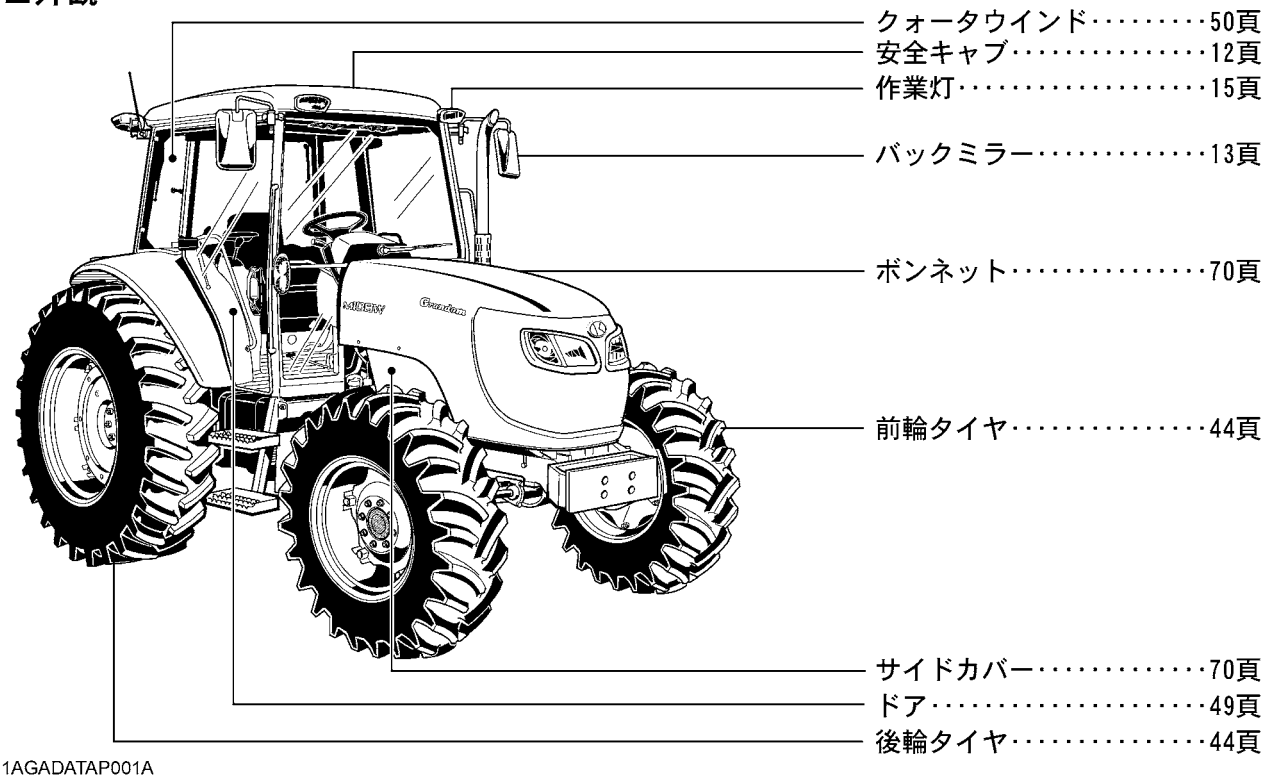
困ったときには

目的目次

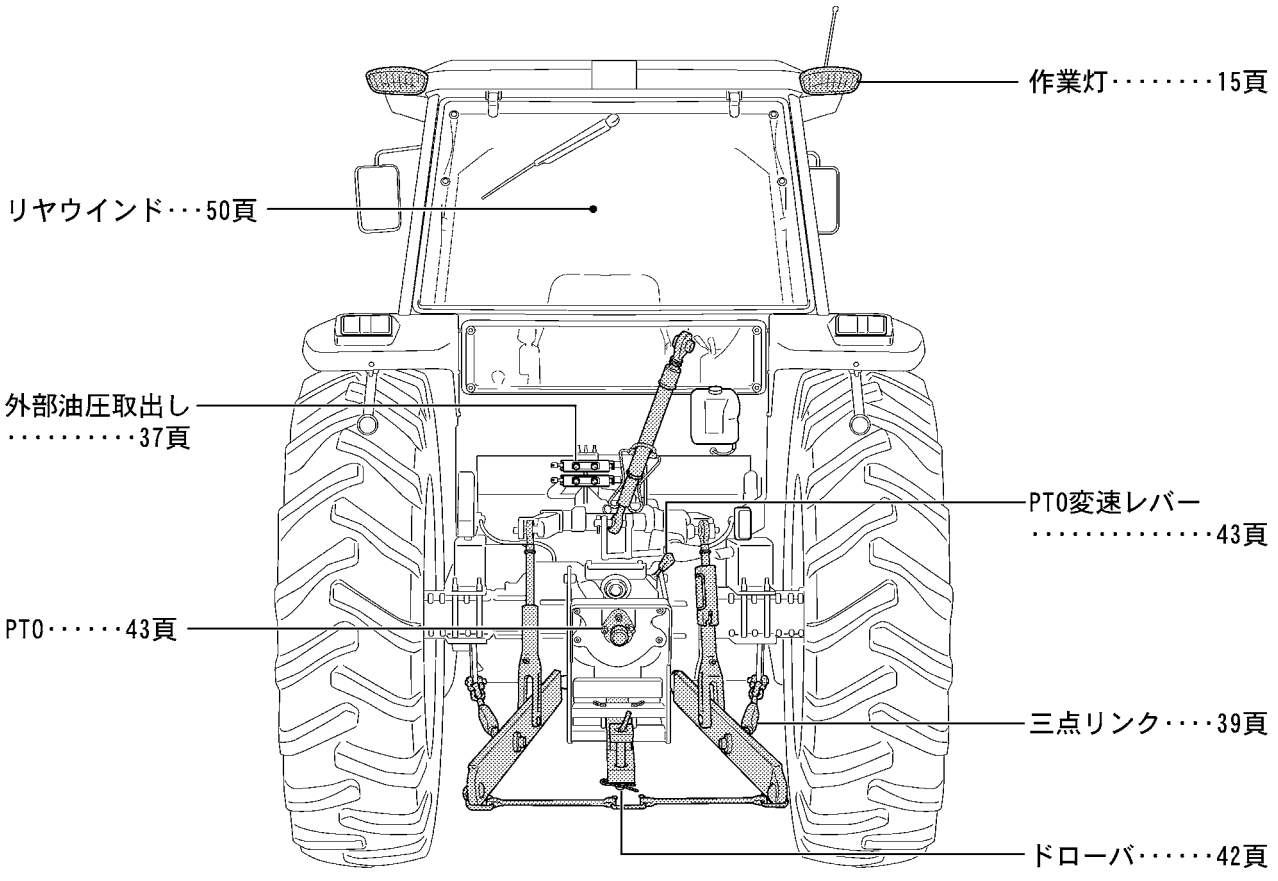
	目的・場面	項目	参照ページ
エンジン始動時に	寒冷時の始動方法について知りたい	オートグロー	5
	寒冷時暖機運転時間がどの程度必要か	寒冷時の暖機運転	10
	エンジンの調子が悪い	エンジンの不調と処置	102
道路走行時に	2WD, 4WD を切換えたい	DT スイッチ	22
	インプルメントの落下防止を施したい	落下速度調整グリップ	36
	トレーラ用電源コンセントを接続したい	トレーラ用カプラ	16
作業時に	ドラフトコントロールを使いたい	作業機昇降装置	35
	インプルメントを装着したい	三点リンク	39
	油圧取出しを使いたい	外部油圧取出し	37
	インプルメントに電源を接続したい	外部電源取出端子	16
	インプルメント用操作ボックスを取付けたい	インプルメント用操作ボックスの取付	63
	インプルメントがロックされ下降できない	落下速度調整グリップ	36
	タイヤがスリップする	デフロックの使い方	31
	電子メータ内の赤色ランプが点灯（点滅）した	運転中の作動確認	24
	使用時間が知りたい	PTO 回転計 / スピードメータ	27
	走行速度が知りたい	PTO 回転計 / スピードメータ	27
	PTO 軸回転数が知りたい	PTO 回転計 / スピードメータ	27
	PTO 回転数を変更したい	PTO 変速レバー	43
メンテナンス時に	ボンネットの開け方を知りたい	ボンネットの開閉	70
	日常点検ですべきことは	日常点検	71
	オイル，冷却水量を知りたい	給油（水）一覧表	68
	適切なオイルの種類を知りたい	推奨オイル・グリース一覧表	69
	電球が切れた時には	主な消耗部品一覧表	108
	燃料切れでエンジンが止まった	燃料の空気抜きのしかた	96

絵目次

■外観



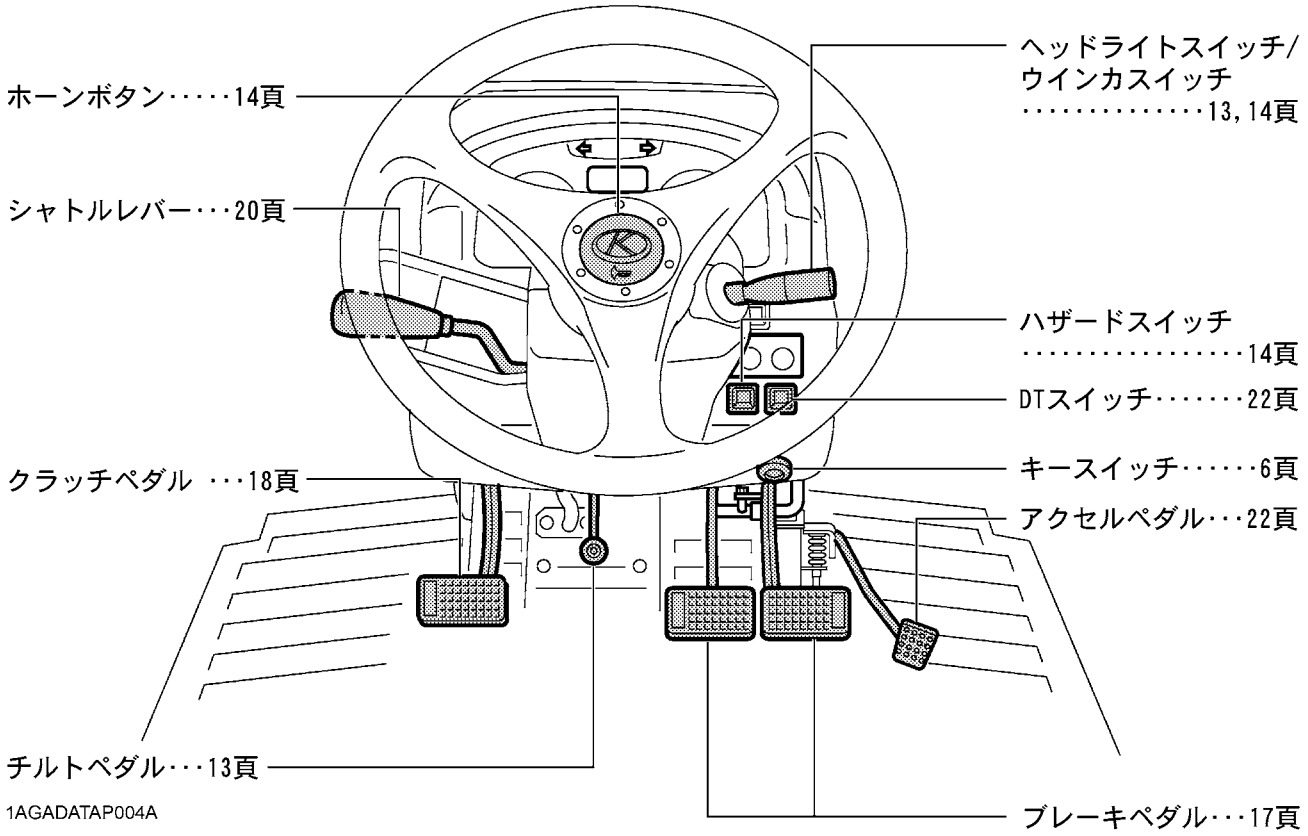
1AGADATAP001A



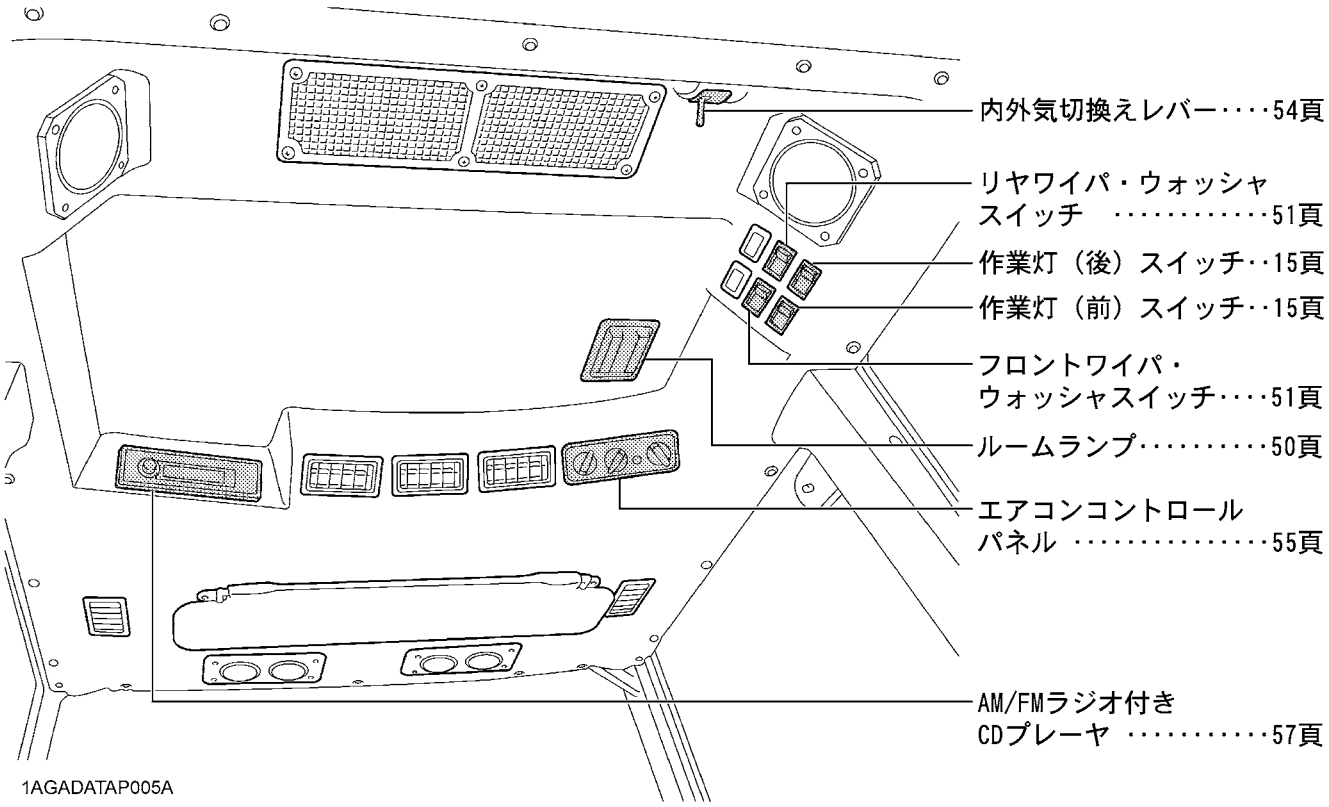
1AGADATAP003A

絵目次

■ハンドル部

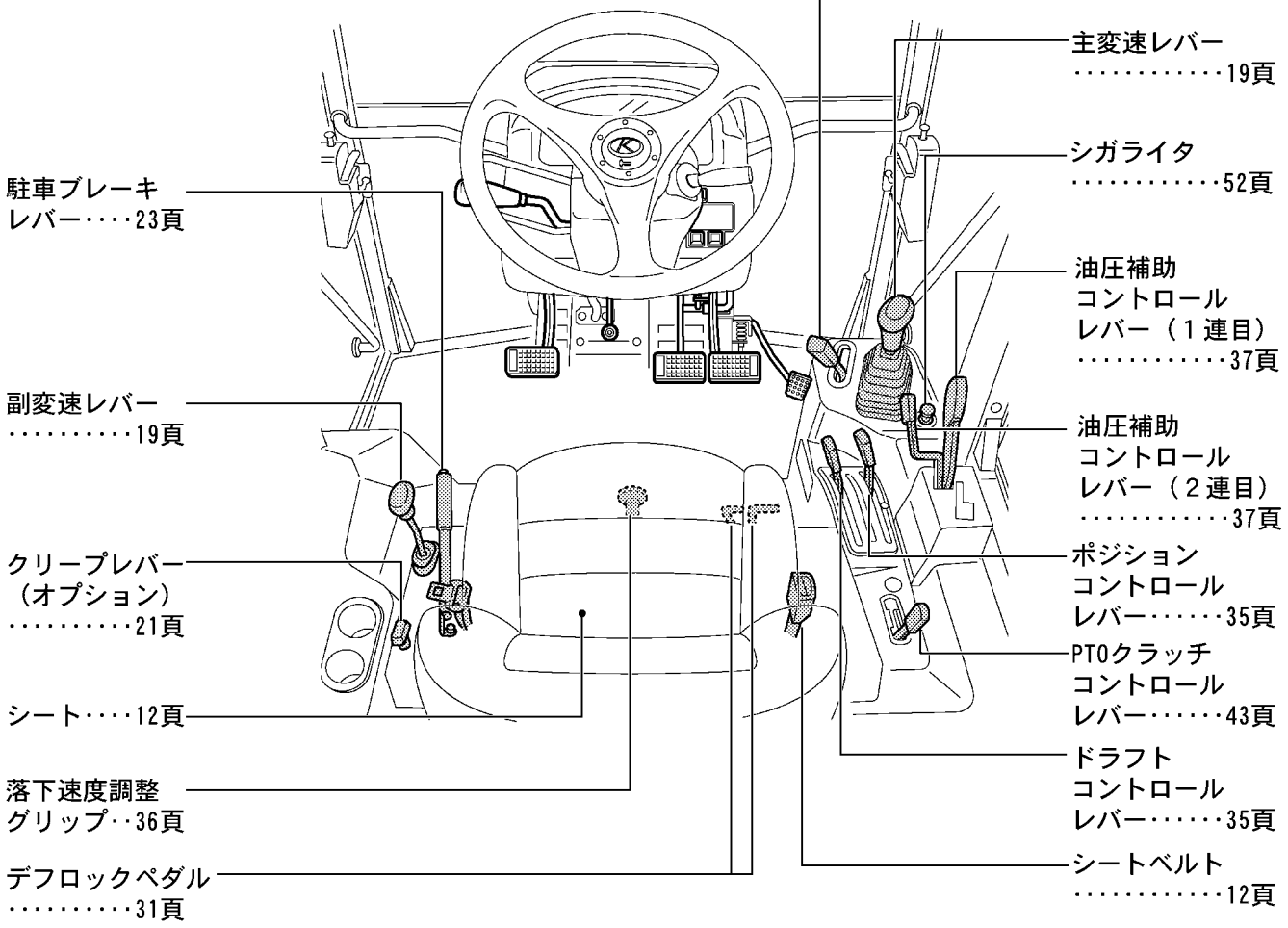


■安全キャブ部



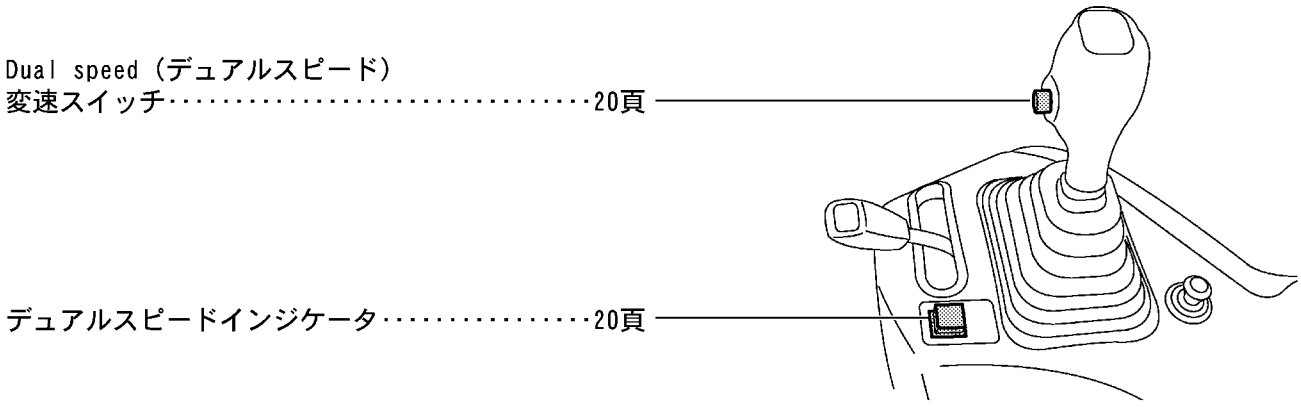
絵目次

■運転席部



1AGADATAP006A

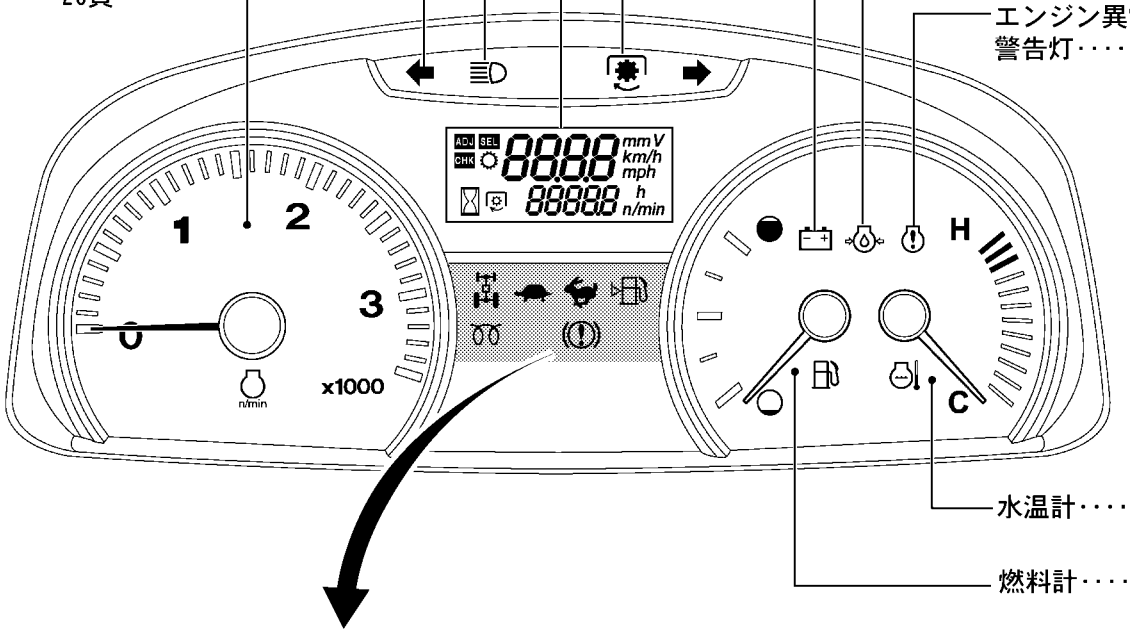
［DS仕様］



1AGAICHAP115O

絵目次

■メータパネル部



ハイビームランプ
・・・・・・・・・・・・13頁

パイロットランプ
（ウインカ，ハザード）
・・・・・・・・・・・・14頁

エンジン回転計
・・・・・・・・・・・・25頁

液晶表示部・・・・・・・27頁

PTOランプ・・・・・・・・43頁

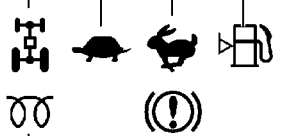
充電異常警告灯
（チャージランプ）
・・・・・・・・・・・・・・・・24頁

エンジンオイル
油圧警告灯・・・・・・・25頁

エンジン異常
警告灯・・・・・・・25頁

水温計・・・・・・26頁

燃料計・・・・・・25頁



DT（４輪駆動）ランプ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22頁

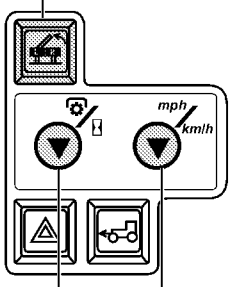
パイロットランプ（低速）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19頁

パイロットランプ（高速）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19頁

燃料残量警告灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24頁

駐車ブレーキ警告灯/
ブレーキオイル残量警告灯
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25頁

エンジン予熱ランプ
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6頁



ブレーキ連結解除
警告灯・・・・7,25頁

車速表示
切替スイッチ
・・・・・・・・・・・・27頁

PTO/アワーメータ
表示切替スイッチ
・・・・・・・・・・・・27頁

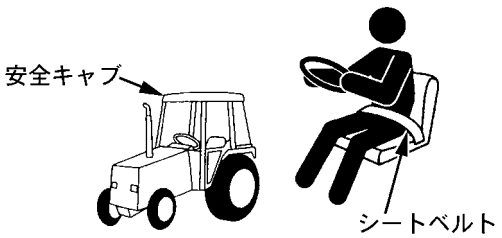
1AGADATAP007A

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

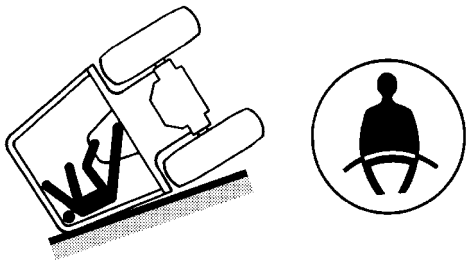
安全キャブについて

安全キャブは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

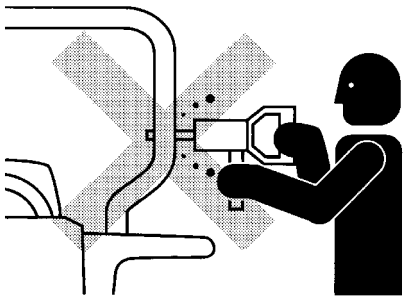


1AGADALAP001A

1. 運転時は安全キャブとシートベルトを常に使用するようにしてください。


1AGALAFAP050A

2. 安全キャブを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP034B

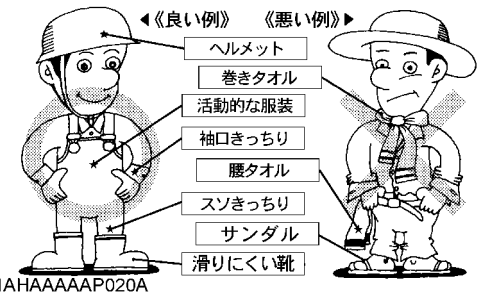
運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

1AGALAFAP035A

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護めがねや手袋などを使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章参照）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

作業時の服装



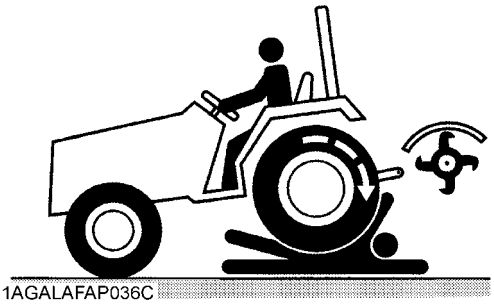
1AHAAAAAP020A

始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーや主変速レバーが**［中立］**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
   PTO クラッチコントロールレバーも**［切］**にしてください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出すおそれがあります。

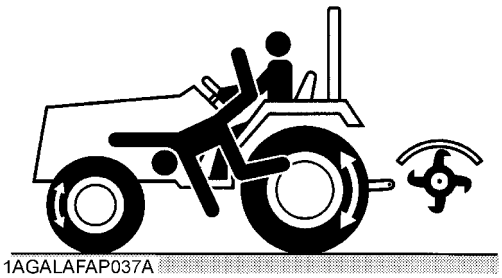
1AGALAFAP058B

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
   又，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。

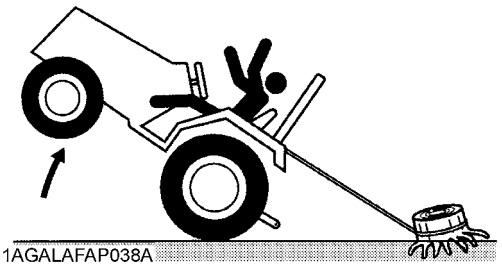

1AGALAFAP036C

運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。


1AGALAFAP037A

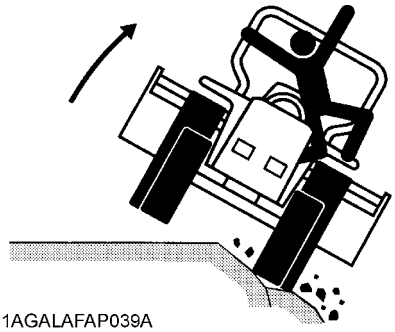
2. けん引作業には，けん引ヒッチを用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。


1AGALAFAP038A

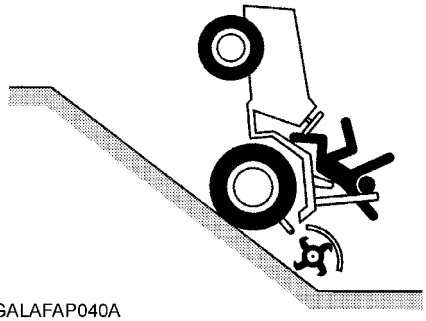
3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
   排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

1AGALAFAP052A

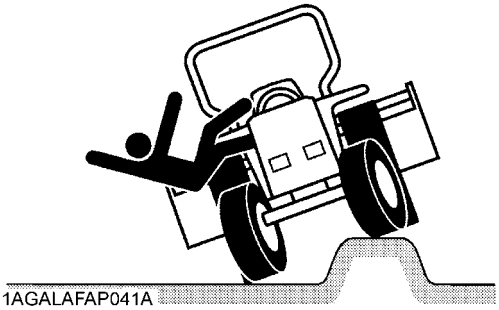
4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
   また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


1AGALAFAP039A

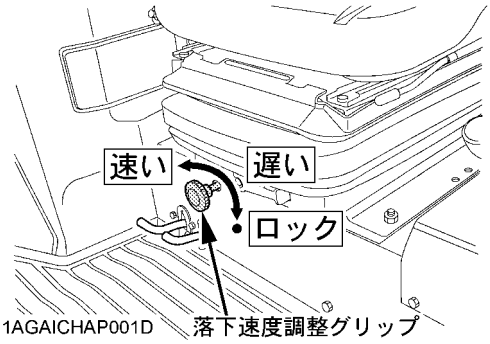
5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。


1AGALAFAP040A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを**【連結】**し，デフロックの解除を確認してください。

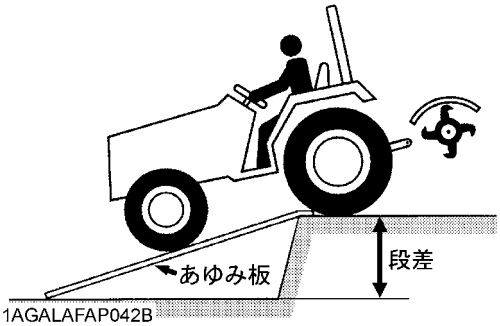

1AGALAFAP041A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
【遅い】方向に締めきるとロック（停止）します。



1AGAICHAP001D

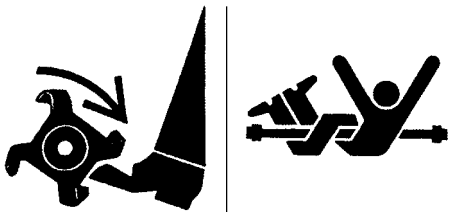
9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



1AGALAFAP042B

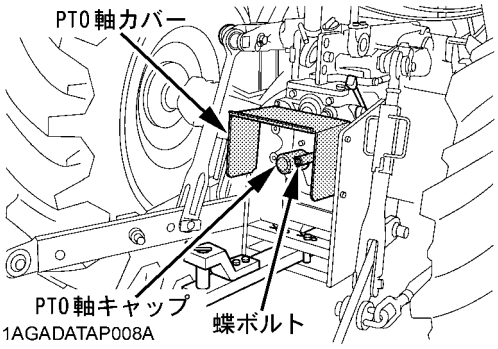
作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。



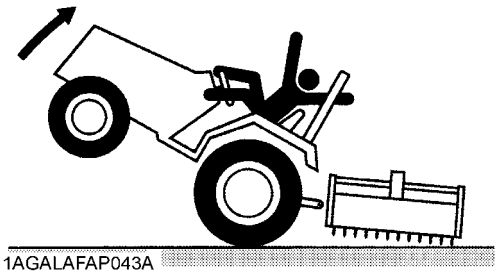
1AGALAFAP054A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
5. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
   機械の破損や人身事故のおそれがあります。



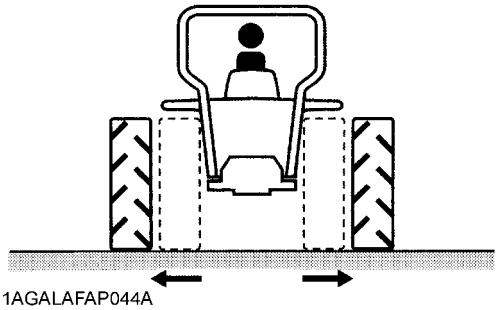
1AGADATAP008A

6. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
   前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
7. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
   大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
   詳細は購入先にご相談ください。



1AGALAFAP043A

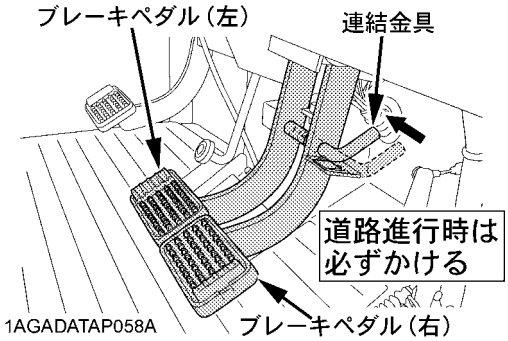
8. 傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距（タイヤ中心間の距離）を大きくしてください。



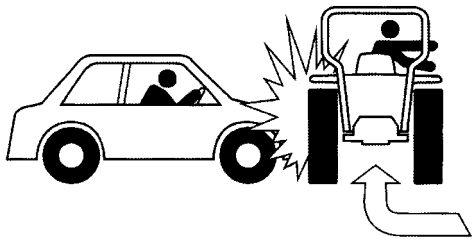
1AGALAFAP044A

道路走行時に

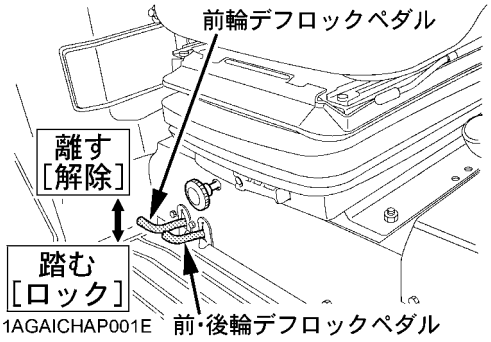
1. 道路走行時は，左右のブレーキペダルを**【連結】**してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。
2. 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。



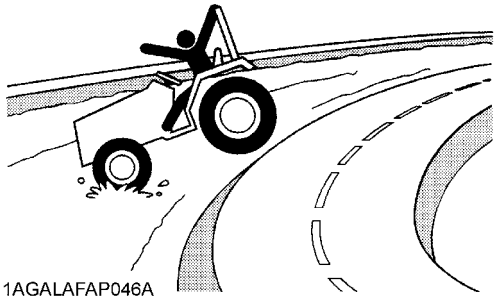
1AGADATAP058A


1AGALAFAP045A

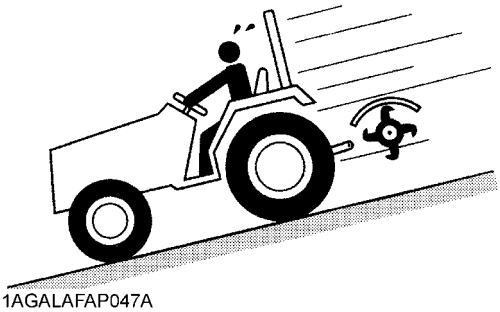
3. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
4. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。



1AGAICHAP001E

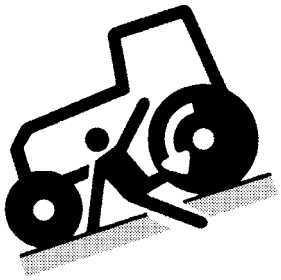

1AGALAFAP046A

5. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
操縦ができなくなるおそれがあります。
6. トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。
(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。
7. 交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。


1AGALAFAP047A

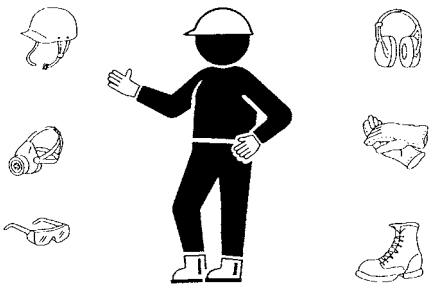
駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**［切］**，作業機を**［下げ］**，各変速レバーを**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを**［抜いて］**ください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。

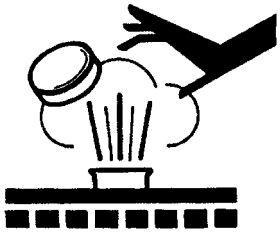

1AGALAFAP053A

点検・給油・整備時に

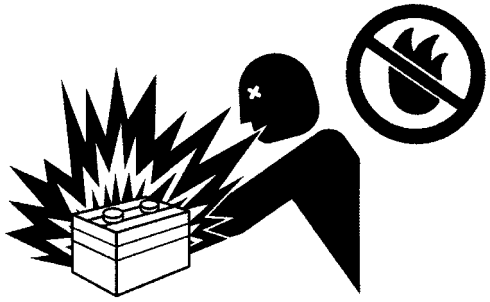
1. 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。
作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
各保護具は使用前に機能を確認してください。


1AGADAPAP122A

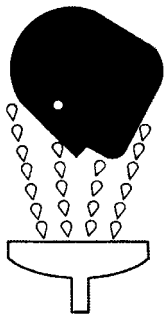
2. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，各変速レバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを**［停止］**してください。
3. エンジン・マフラ・ラジエータなどがじゅうぶん冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。


1AGALAFAP055A

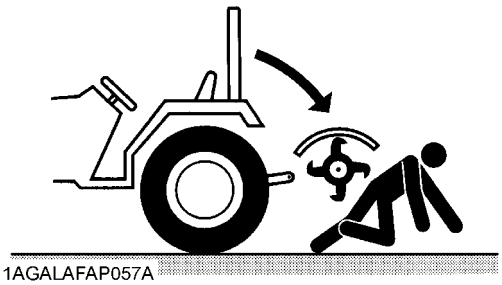
4. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
5. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
（**［運転のしかた］**の章の**［バッテリあがりの処置］**の項を参照）


1AGALAFAP048A

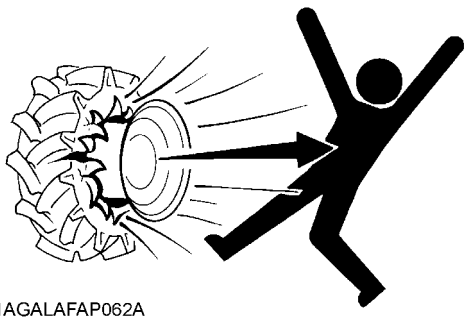
6. バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
7. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
8. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


1ARAEABAP014B

9. ３点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGALAFAP057A

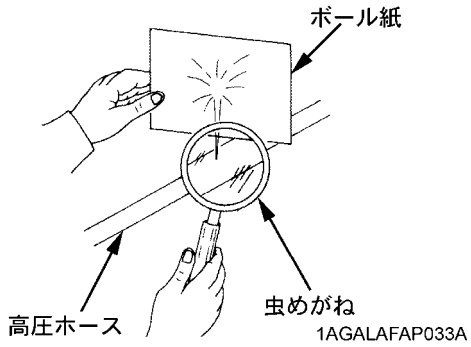
10. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
11. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
12. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP062A

13. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

1BAACAAAP010D

14. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP033A

15. 点検・整備時に，後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないでください。ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっていますので前輪が回転し，トラクタが動き出すおそれがあります。

16. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018D

17. コモンレール仕様エンジンには高電圧や高圧力の燃料が通る部分があります。
次の注意事項を守らないと，感電事故や高圧燃料のもれによるケガをするおそれがあります。
＊ 掃除などでエンジンを制御する電子部品や，そのコネクタ，ハーネスをさわる場合は，キースイッチを**[切]**にしてください。
＊ エンジンの高圧燃料が通る部品は，分解や修理を行なわないでください。
付近のボルト・ナット類もゆるめないでください。
高圧燃料が通るのは，燃料噴射ポンプからインジェクタの間です。
＊ エンジンの不調時は，購入先にご相談ください。

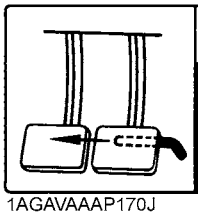
表示ラベルと貼付け位置

①品番　3F740-9857-1

⚠ 警告
傾斜地での前、後進切替時、一時的に中立になることにより、トラクタの自重による自走を防止するため、ブレーキ及びクラッチを使用し切替完了後クラッチで発進すること。

1AGADALAP236J

②品番　3F760-9847-1



⚠ 警　告
転倒や衝突による死傷事故をふせぐために、道路走行時は左右のブレーキペダルを連結すること

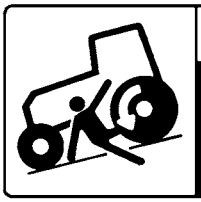
1AGAVAAAP170J

③品番　3R600-9824-1

⚠ 警　告
点検・整備時に、後輪だけを地面から浮かせた状態にしてエンジンを始動させないで下さい。
　ブレーキを踏むと前後輪を連結状態にする機構になっている為、前輪が回転しトラクタが動き出す恐れがあります。

1AGAVAAAP173J

④品番　T0180-4906-1



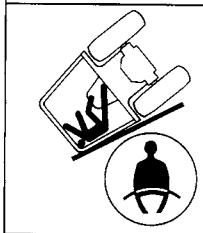
⚠ 警　告
駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず駐車ブレーキをかけること
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません

1AGAVAAAP177J

⑤品番　T1065-4902-2

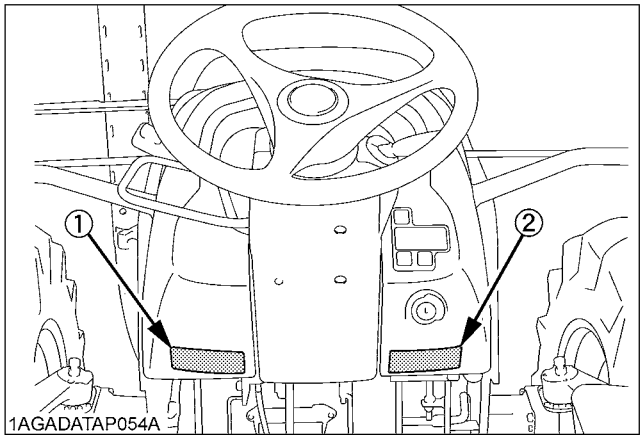
⚠ 注　意
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください
始動時
●シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
●前後左右に人がいないことを確認すること
運転時
●運転者以外に人を乗せないこと
●排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れかあるので換気の不十分な所で使用しないこと
●溝や穴のちかく、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
●急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
●道路走行時はデフロックを使用しないこと
●道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）
駐車時
●PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること
点検、整備時
●エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
●3点リンクで作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

⚠ 警　告

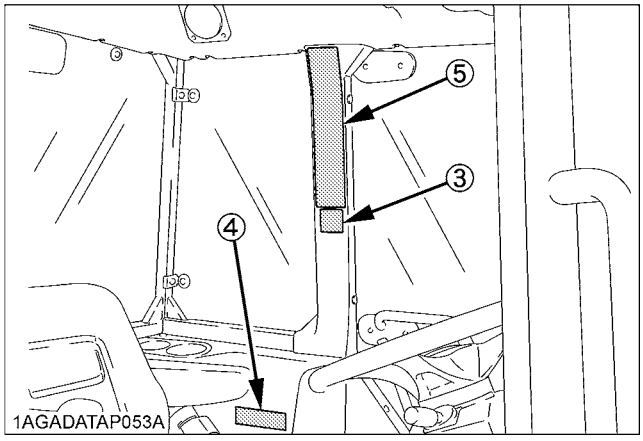


転倒、転落による死傷事故軽減のために、運転時は必ずシートベルトを着用すること

1AGALBAAP130J



1AGADATAP054A



1AGADATAP053A

①品番　T1060-4955-1

1AGALBAAP122J

②品番　3P300-4958-1

1AGADALAP248J

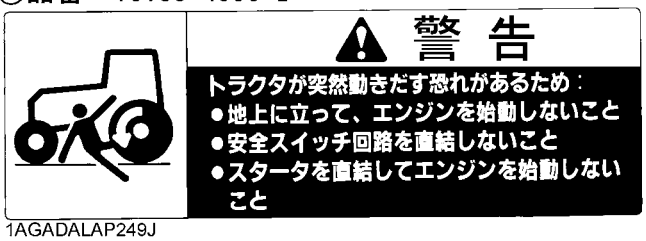
③品番　3F740-9828-2

1AGADALAP246J

④品番　3N695-9892-1

1AGADATAP075J

⑤品番　T0180-4965-2

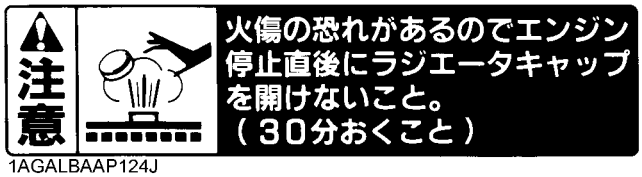


1AGADALAP249J

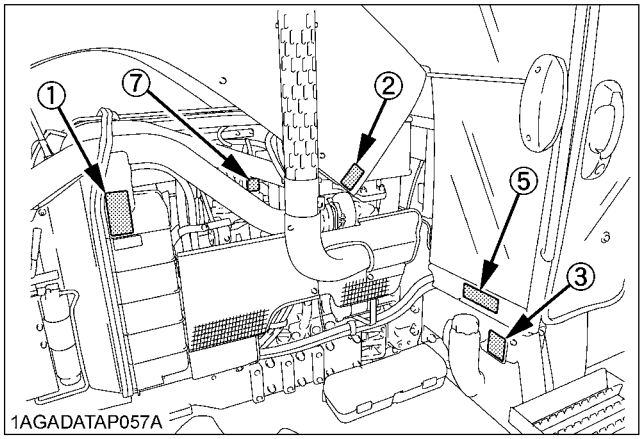
⑦品番　3T400-4958-1

1AGADAPAP098J

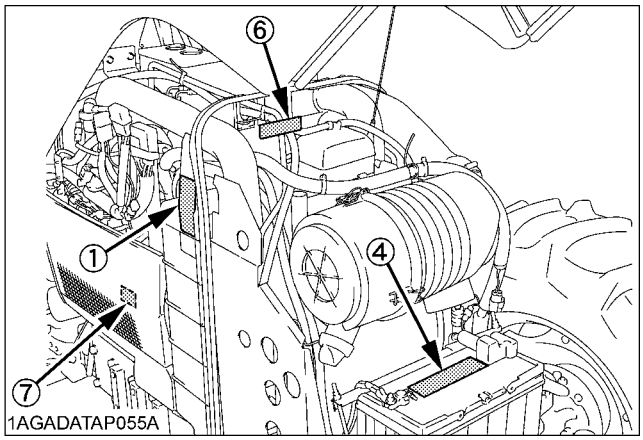
⑥品番　T1060-4954-1



1AGALBAAP124J

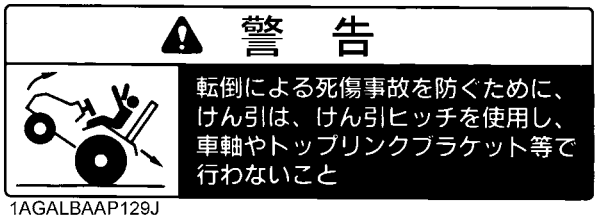


1AGADATAP057A



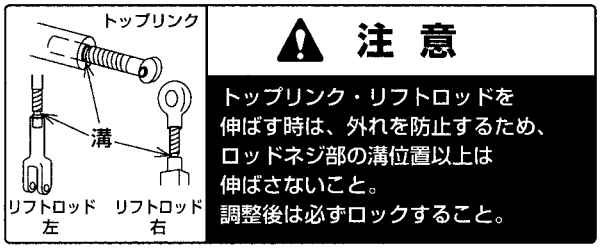
1AGADATAP055A

①品番　T1060-4904-1



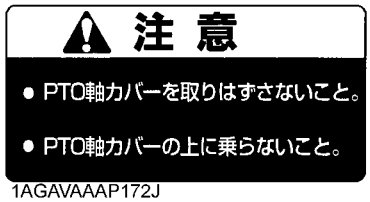
1AGALBAAP129J

②品番　3N695-9856-1



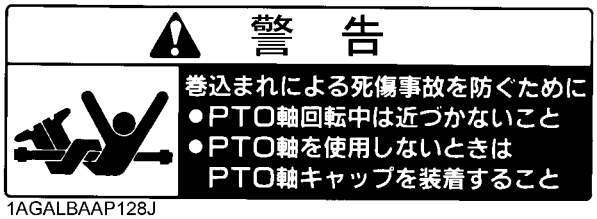
1AGADATAP071A

③品番　6A100-4772-1



1AGAVAAAP172J

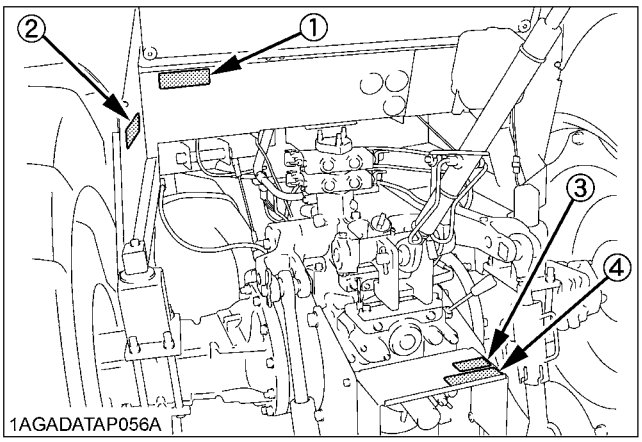
④品番　T1060-4959-1



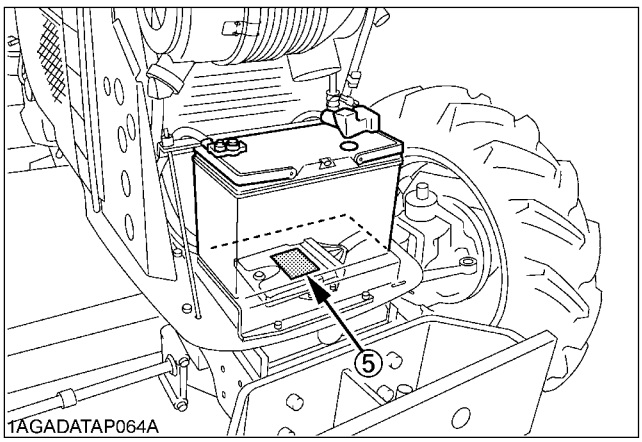
1AGALBAAP128J

⑤品番　1J574-8721-1

1AGAIEDAP019A



1AGADATAP056A



1AGADATAP064A

表示ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

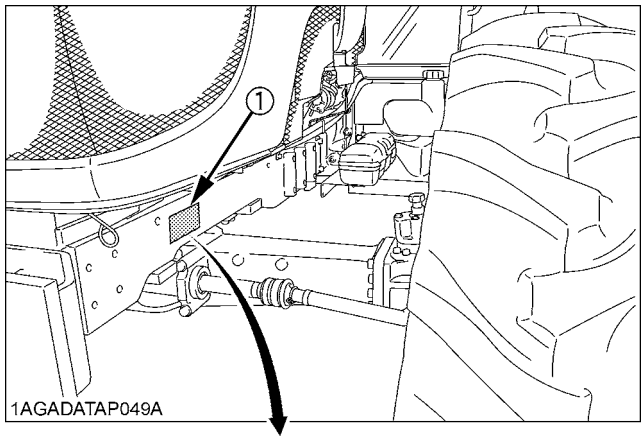
この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

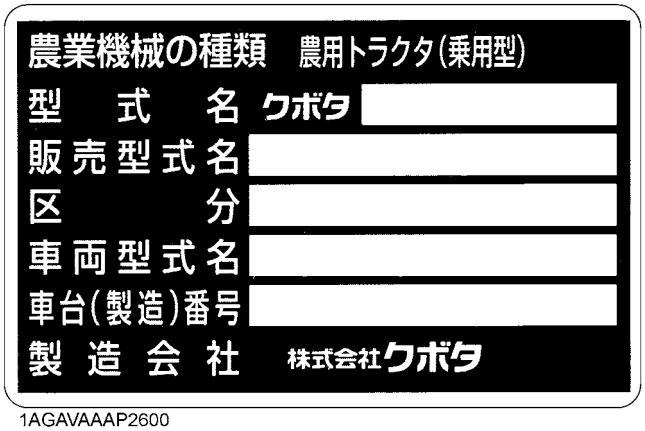
■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名
2. 車台（製造）番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

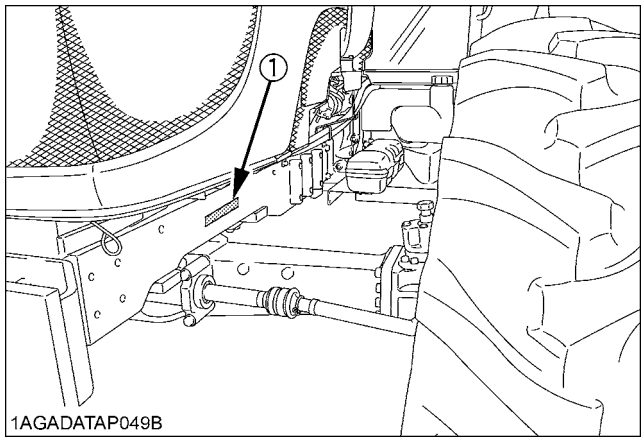
警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

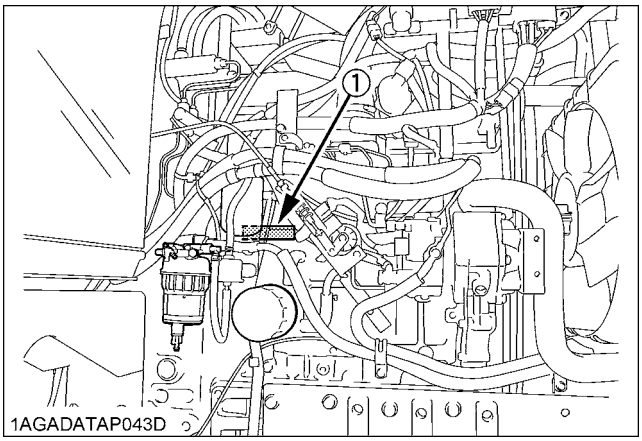




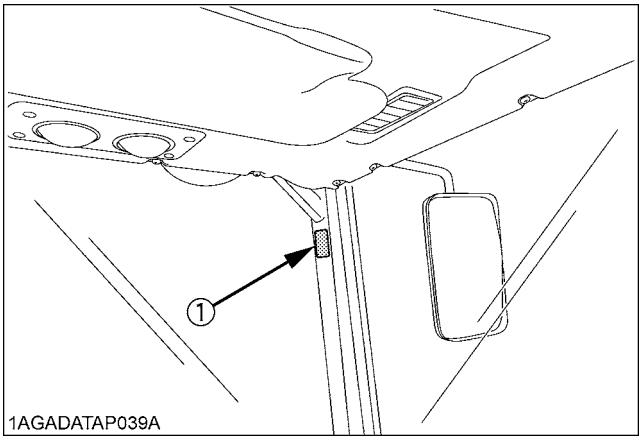
①銘板



①車台（製造）番号



①エンジン番号



①安全キャブ銘板

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

農機具（安全キャブ）	型式検査合格番号
クボタ IC108W	210028

農機型式名	安全鑑定番号
クボタ M108W	35124

小型特殊自動車 車両型式名	型式認定番号
クボタ EDR-SMF	農 3276

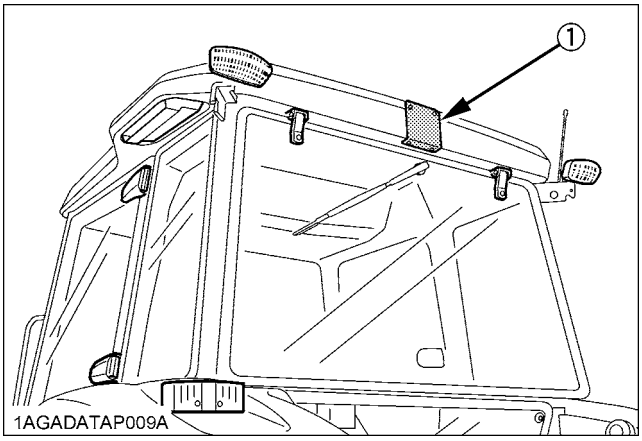
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。



①標識（ナンバープレート）取付け位置

■運転免許

公道を走行する場合は，大型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

重　要

＊ このトラクタは道路運送車両法上の小型特殊自動車に該当しますが，**【道路交通法】**では，大型特殊自動車に該当します。従って公道を走行する場合は，**【大型特殊自動車の運転免許証】**が必要です。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。（封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。）

補　足

＊ インプルメントやアタッチメントを装着した状態では**【道路運送車両法の保安基準】**を満たしませんので，道路走行することはできません。
＊ 作業灯は**【道路運送車両の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■輪距

公道走行は，必ず指定の輪距で走行してください。指定輪距は次表のとおりです。この輪距どおりでない場合は**【道路運送車両法の保安基準】**違反になり，道路を走行することができません。

◆ 前後輪タイヤ組合わせ表

型　式		前輪	
		タイヤサイズ	輪距（mm）
M108W	K	11.2-24	1540
	K1	13.6-24	1650

型　式		後輪	
		タイヤサイズ	輪距（mm）
M108W	K	13.6-38	1500
	K1	16.9-38	1600

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（点検方法の詳細は，**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）

注　意

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，ブレーキオイルは，必ず指定**［クボタ純オイル］**を使用してください。

エンジンの始動と停止

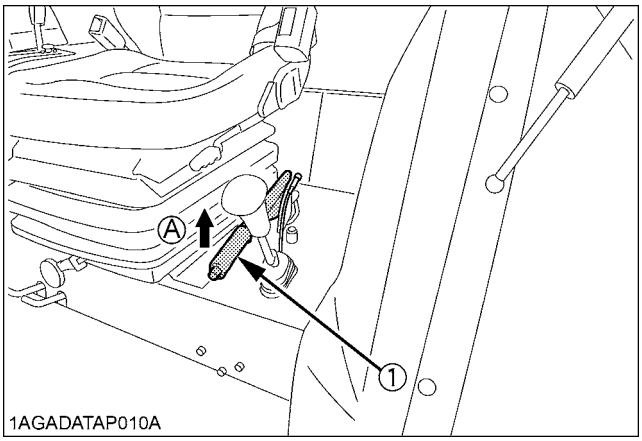
警　告

- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーや主変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **PTO クラッチコントロールレバーも［OFF］(切) にしてください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気をじゅうぶんに行なってください。**
  換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■始動のしかた

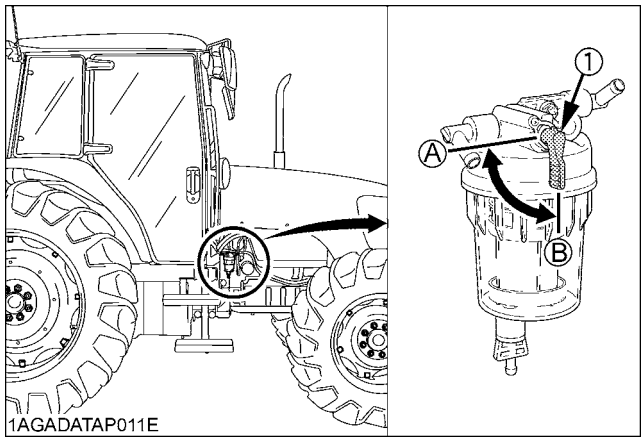
1. 駐車ブレーキをかけます。

レバーを引くと駐車ブレーキがかかり，キースイッチ **【入】** の位置では，メータパネル内の駐車ブレーキ警告灯が点灯します。



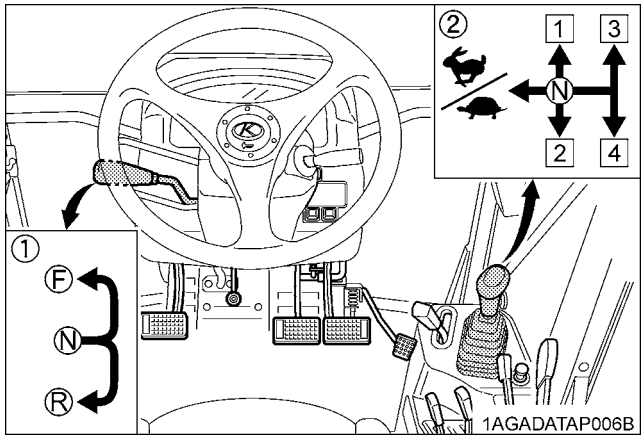
①駐車ブレーキレバー　　Ⓐ“引く”

2. 燃料コックを［開］にします。



①燃料コック　　Ⓐ“閉”　Ⓑ“開”

3. 変速レバーを［中立］にします。

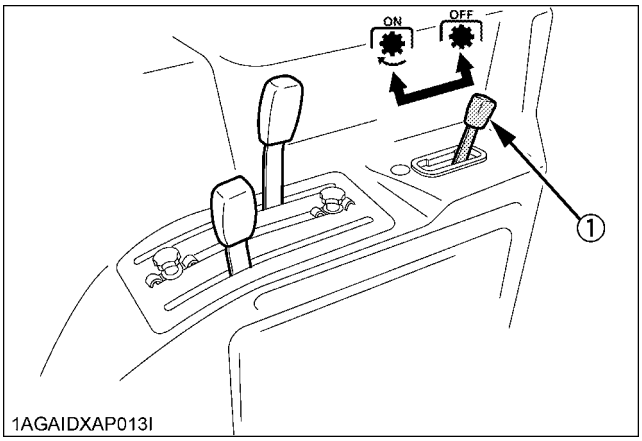


①シャトルレバー　　Ⓕ“前進”
②主変速レバー　　Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

補　足

- エンジンはシャトルレバーを **【中立】** (N) にしなくても始動できますが，安全確保のため中立にしてください。

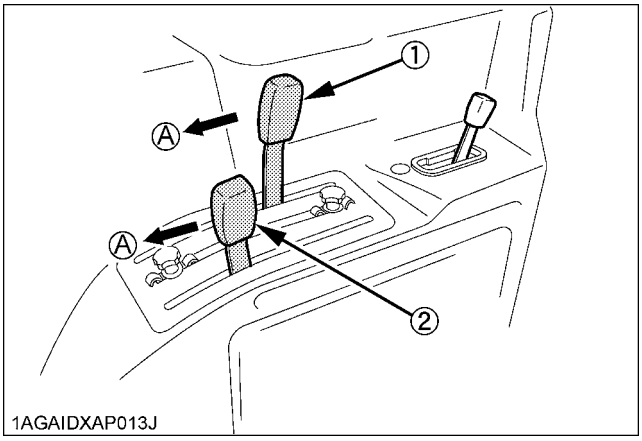
4. PTO クラッチコントロールレバーを［切］にします。



① PTO クラッチコントロールレバー　“入”　“切”

5. 作業機を下げます。

油圧レバーを前方に倒すと作業機が下がります。



①ポジションコントロールレバー　Ⓐ“下げ”
②ドラフトコントロールレバー

補　足

＊ 油圧ロックされている場合は下がりません。（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）

6. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

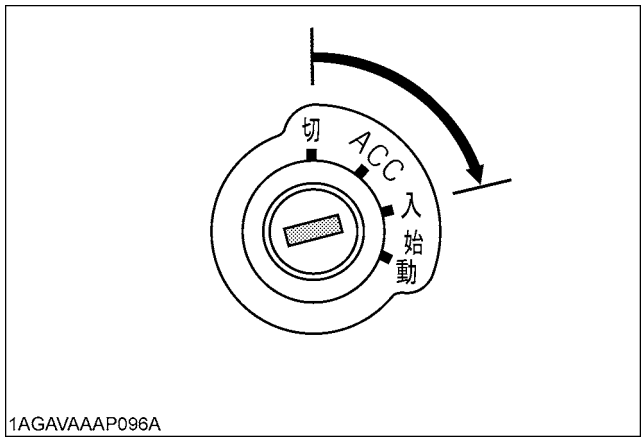
■ キースイッチ

切 . . . . . エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

ACC. . . . エンジン停止中，ラジオ，時計，送風ファン，ワイパ，ウォッシャ，シガライタ，作業灯などのアクセサリがすべて**［入］**になります。

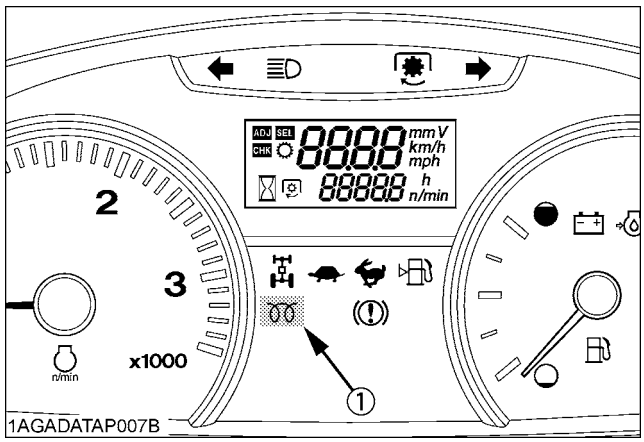
入 . . . . . エンジン回転中の位置，すべての電気装置が使えます。

始動 . . . エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に**［入］**に戻ります。



■ オートグロー

冷却水温が低いとき，キースイッチを**［入］**にすると，エンジン予熱ランプが点灯し，予熱が完了すると，自動的に消灯します。
寒冷時はエンジン予熱ランプが**［消灯］**したことを確認し，セルモータを回してください。



①エンジン予熱ランプ

■ モニタランプ

キースイッチ**【入】**時，下記ランプが点灯又は消灯しているか確認してください。

点灯ランプ…… ②③④⑤⑥
1. ⑤ランプは冷却水温が高い時は点灯しません。
2. ⑥ランプが消灯している時は，駐車ブレーキを掛けてください。

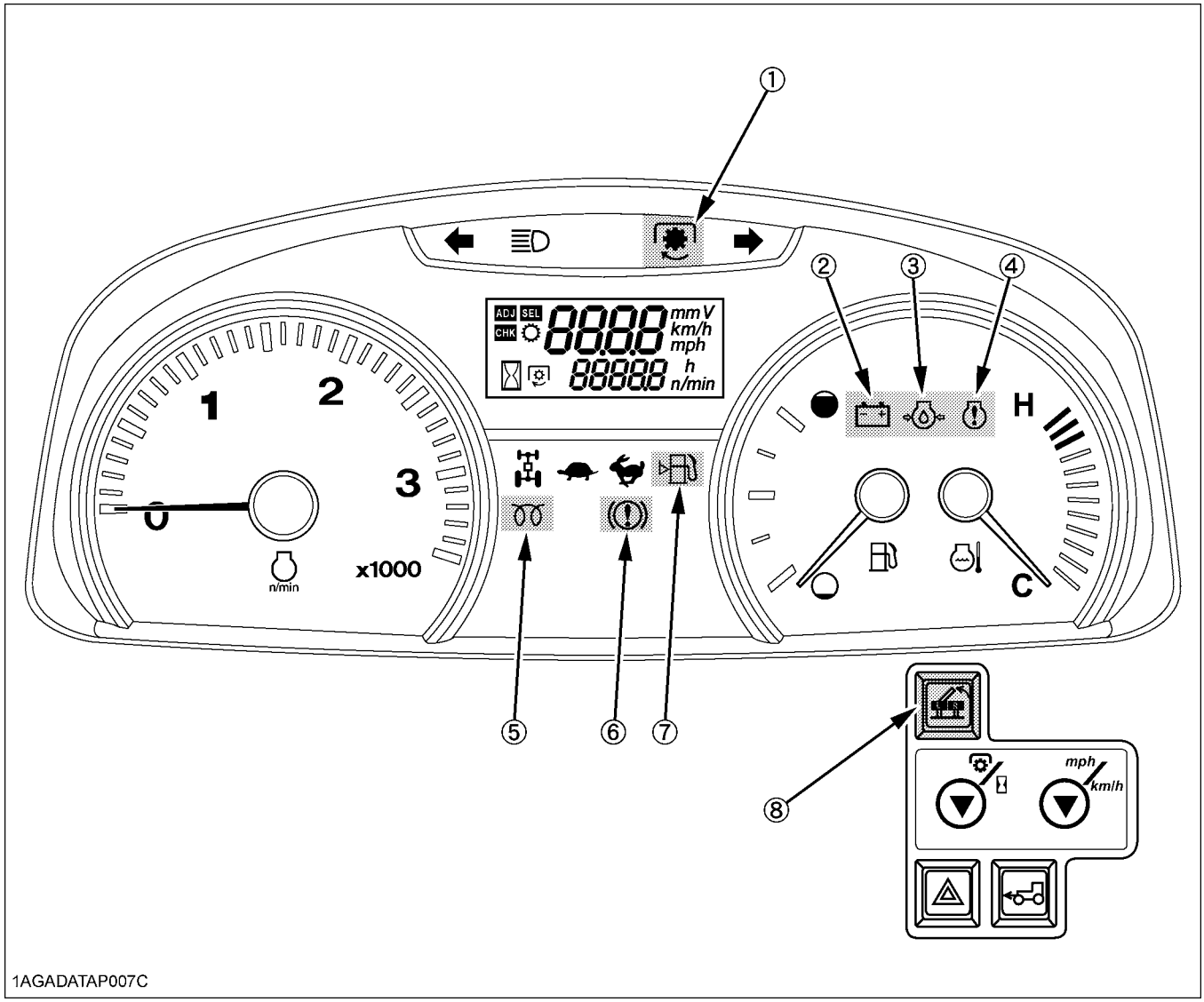
消灯ランプ…… ①⑦⑧
1. ①ランプが点灯している時は，PTO クラッチコントロールレバーを**【切】**にしてください。
2. ⑦ランプが点灯している時は，燃料を補給してください。
3. ⑧ランプが点灯している時は，ブレーキペダル連結金具を掛けてください。

重　要

＊ ランプに異常がある時は，購入先に点検・整備を依頼してください。

補　足

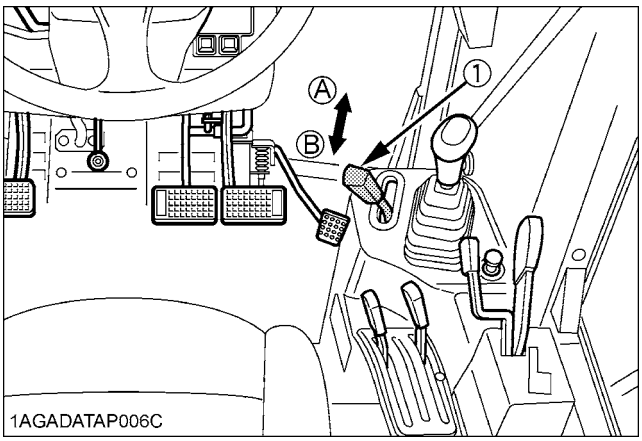
＊ レバーやスイッチの位置により，点灯又は点滅するランプもあります。(仕様により異なります)



1AGADATAP007C

① PTO ランプ
②充電異常警告灯（チャージランプ）
③エンジンオイル油圧警告灯
④エンジン異常警告灯
⑤エンジン予熱ランプ
⑥駐車ブレーキ警告灯 / ブレーキオイル残量警告灯
⑦燃料残量警告灯
⑧ブレーキペダル連結解除警告灯

7. アクセルレバーを［低速］に合わせます。

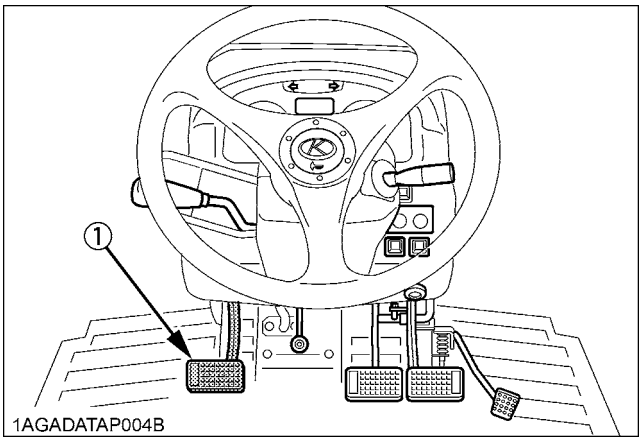


①アクセルレバー　　Ⓐ“高速”
Ⓑ“低速”

8. クラッチペダルを［踏込み］ます。

補　足

＊ エンジンはクラッチペダルを踏込まなくても始動できますが，安全確保のため踏込んでください。



①クラッチペダル

9. キーを［始動］位置に回します。

補　足

＊ 主変速レバーを**［中立］**，PTO クラッチコントロールレバーを**［OFF］**（切）にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10 秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

10. エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

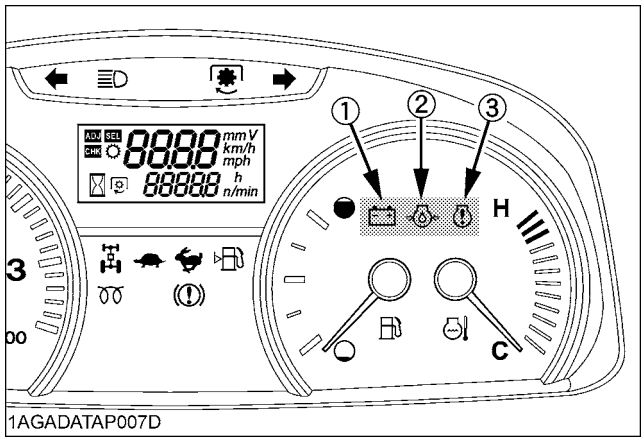
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

11. 以下のランプが［消灯］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。



エンジン始動後消灯するランプ：①，②，③

12. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま 5 分程度暖機運転しましょう。

■寒冷時の始動のしかた

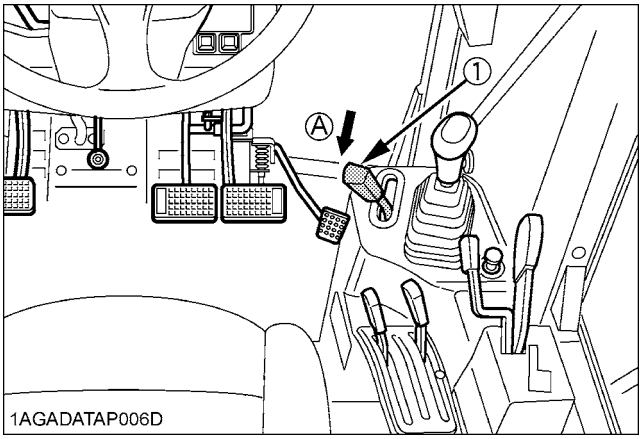
前に述べた **1.** ～ **9.** までの操作を行ないます。セルモータを約 10 秒まで回して始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから，再度 **6.** からの操作を繰返してください。バッテリ及びセルモータを保護するために，10 秒を越えない範囲で，セルモータを回してください。

補　足

＊ 寒冷時の始動直後約 1 分程度，青白煙を排出することがありますが，異常ではありません。また，それ以上に青白煙を排出し続ける場合でも，エンジンがじゅうぶんに加熱されれば，インジェクタのつまりなどの故障でない限り青白煙は消えます。

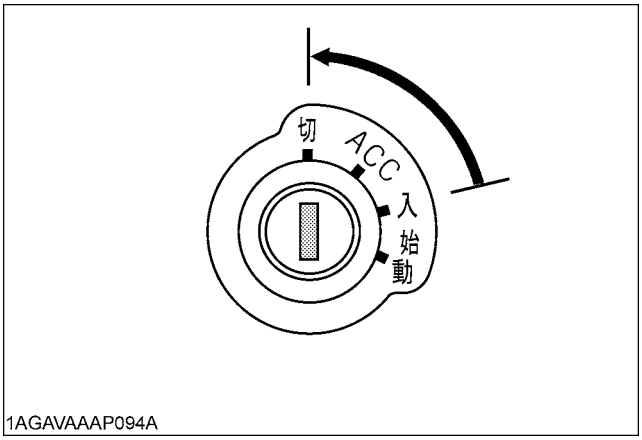
■停止のしかた

1.　アクセルレバーをいっぱい後へ［引き］，アイドリング状態にします。



①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

2.　キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。



重　要

＊ エンジンの停止は，５分間アイドリング運転してからにしてください。
高速負荷運転後，急にエンジンを停止するとターボチャージャに悪い影響を与えます。

3.　キーは必ず［抜き］ましょう。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーは抜いてください。

■寒冷時の暖機運転

注　意

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約 10 分間は負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください。オイルを各メタルに充分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。
このトラクタには油圧クラッチが採用されており，油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのためアイドリングでの暖機運転終了後は，アクセルレバーを**【低速】**にして必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションオイルを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な性能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　　温	暖機運転時間
10 ～ 0 ℃	0 ～ 10 分間
0 ～ -10 ℃	10 ～ 20 分間
-10 ～ -20 ℃	20 ～ 30 分間
-20 ℃以下	30 分間以上

補　足

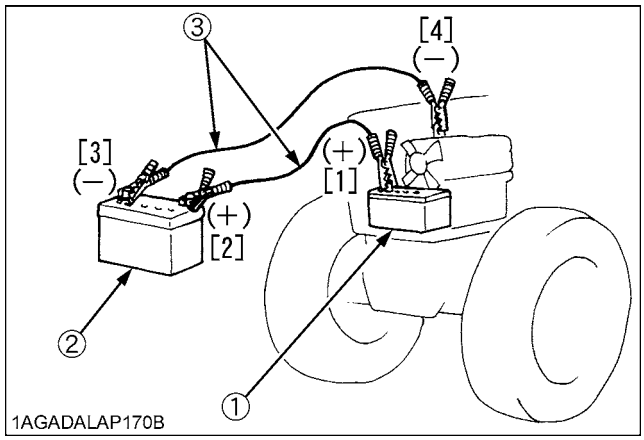
＊ エンジン始動後，エンジン回転を安定させるため，自動的に回転数が上がることがあります。
＊ 寒冷時の暖機運転では，マフラパイプ内で結露した水分が，水滴となって飛散することがあります。
アイドリング以外で暖機運転をすると，水滴の飛散量が多くなります。

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。

＊ トラクタのキースイッチを**【切】**にします。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します
＊ マイナスケーブルの他端**【4】**の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端**【4】**を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがありますので接続しないでください。）



①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（始動手順は**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。
＊ 救援車にこのトラクタを使用する場合は，必ず作業機を降してください。

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

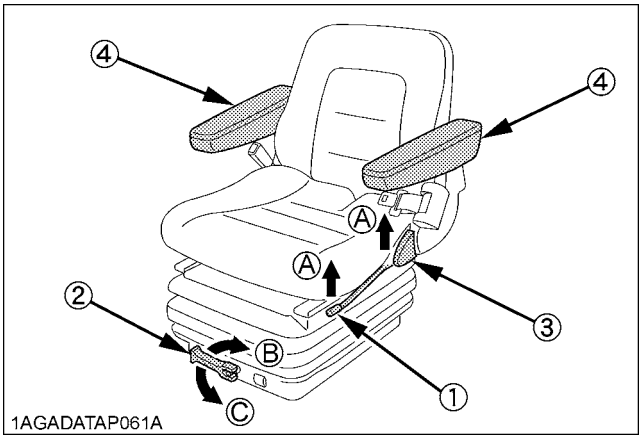
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンがじゅうぶん暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後，**【定期点検箇所一覧表】**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席周りの調節

■シート

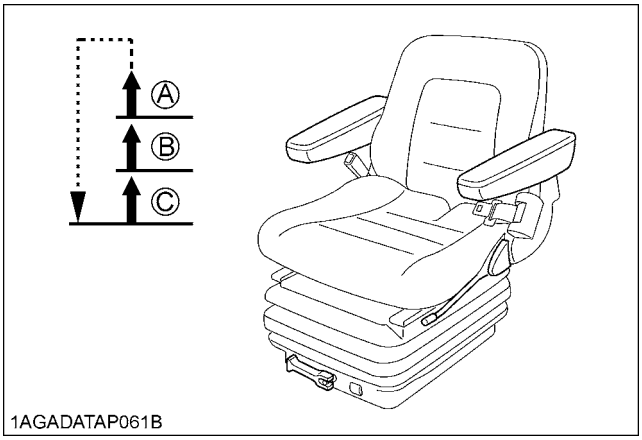
◆ 調整方法

1. 前後調節レバーを**［引く］**と，シートが前後に調節できます。
2. 体重調節ハンドルを**［回す］**と，クッションの強さが調節できます。
3. リクライニング調節レバーを**［上げる］**と，背もたれの角度が調節できます。
4. アームレストは，後方へ向けられます。



①前後調節レバー
②体重調節ハンドル
③リクライニング調節レバー
④アームレスト
Ⓐ“解除”
Ⓑ“強くなる”
Ⓒ“弱くなる”

5. シートの高さは，シート全体を持上げるだけで，３段階に変えられます。
   低い位置に戻すには，いったん最上昇位置まで持上げると最下位置まで下がります。



Ⓐ“高”
Ⓑ“中”
Ⓒ“低”

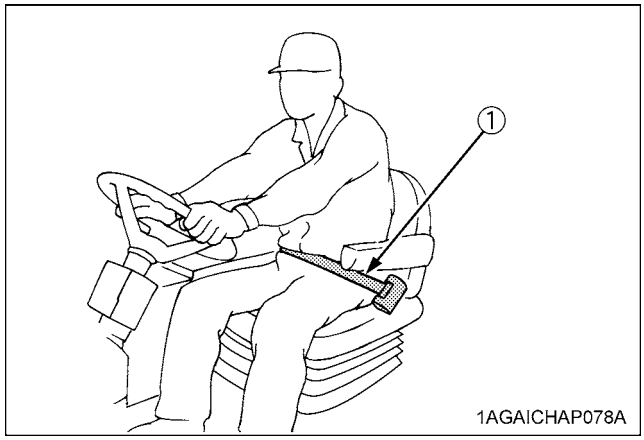
■安全キャブとシートベルト

警 告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。
＊ トラクタを使用するときは，必ずシートベルトを着用してください。
＊ 安全キャブの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。
＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。

補 足

＊ 安全キャブは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



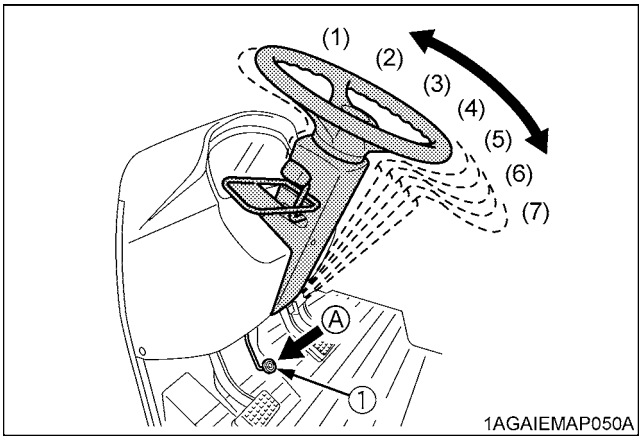
①シートベルト

■チルトステアリングハンドル

注　意

＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

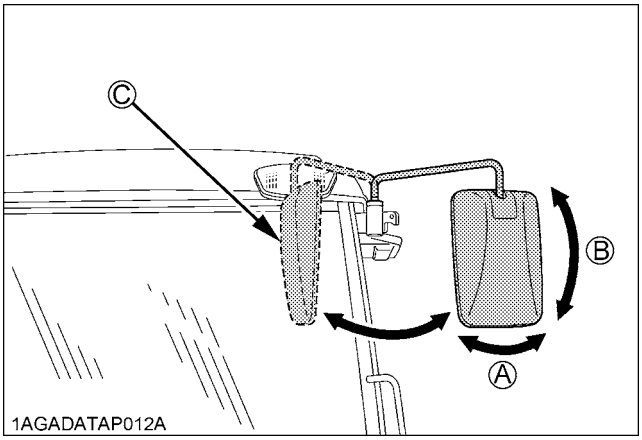
チルトステアリングハンドルの操作はチルトペダルを踏み込んで (1) ～ (7) の適当な位置でペダルをはなして位置を決めてください。
(1)…… 乗り降り時の位置
(2) ～ (7)…… 運転操作位置



①チルトペダル　　Ⓐ“踏み込む”

■バックミラー

1. バックミラーは，上下・左右に角度調節できます。運転席に座って見やすい位置に調節してください。
2. 狭い場所へ格納時折りたたんでください。

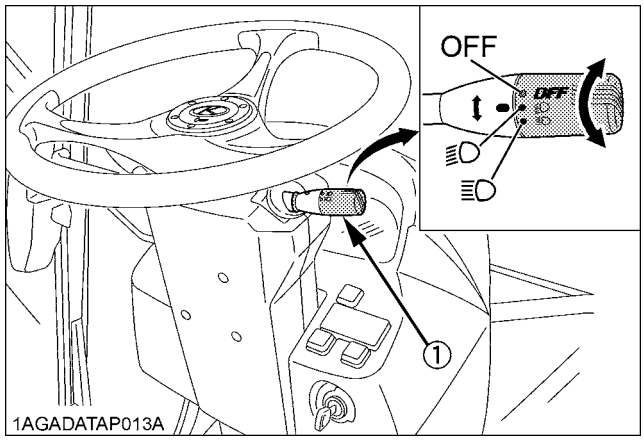


Ⓐ“左右”
Ⓑ“上下”
Ⓒ“格納位置”

灯火類の操作

■ヘッドライトスイッチ

ノブを回すとスイッチが入り，位置によって次のランプが点灯します。



①ヘッドライトスイッチ

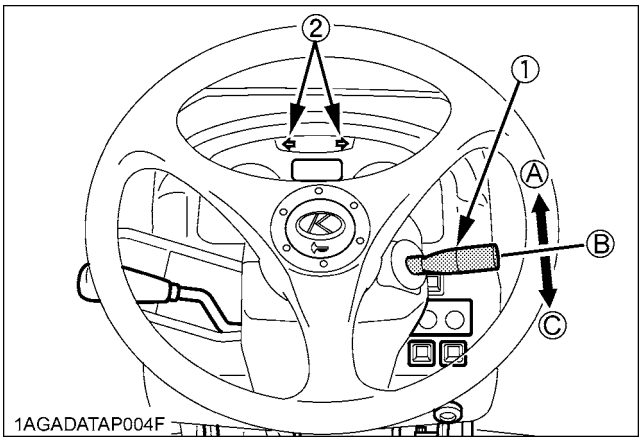
OFF……ヘッドライト消灯位置
≡D……ヘッドライト下向き照射位置
≡D……ヘッドライト上向き照射位置

補　足

＊ ヘッドライトが上向き照射時，メータパネル内の ≡D ランプが点灯します。
＊ キースイッチ**【切】**位置でも点灯します。

■ウインカスイッチ

1. スイッチを前後操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
   前……左折
   後……右折
2. スイッチはハンドルを戻すと，自動的に**【中立】**に戻る，オートリターン機構になっています。



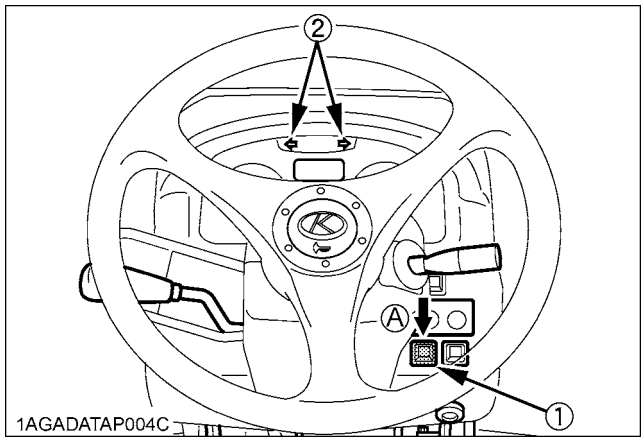
①ウインカスイッチ　　**Ⓐ“左折”**
②パイロットランプ　　**Ⓑ“中立”**
Ⓒ“右折”

補　足

＊ ハンドルを切る角度が小さいとレバーが**【中立】**に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。

■ハザードスイッチ

非常停止した場合，事故を防止するために使用します。スイッチを押すと，ウインカ前後及びメータパネル内のウインカ作動パイロットランプが点滅し，非常停止中を知らせます。
再度スイッチを押すと消灯します。



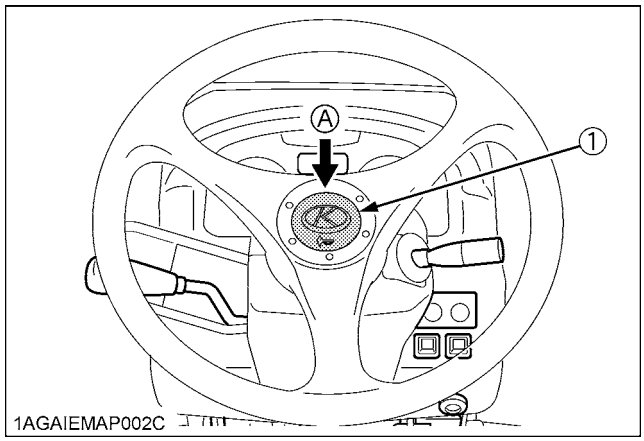
①ハザードスイッチ　　**Ⓐ“ON/OFF”**
②パイロットランプ

補　足

＊ ハザードランプはキースイッチ**【切】**位置でも作動します。

■ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



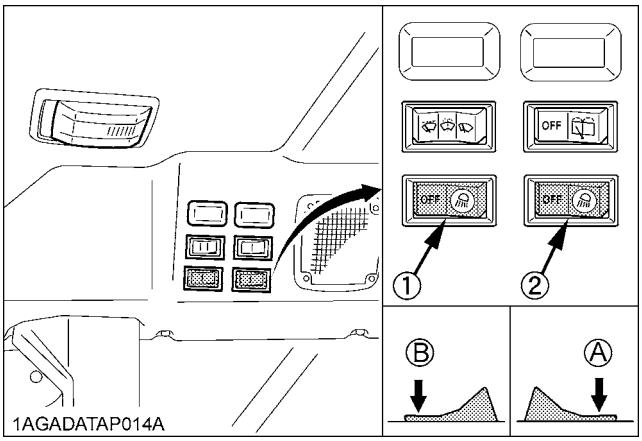
①ホーンボタン　　**Ⓐ“押す”**

補　足

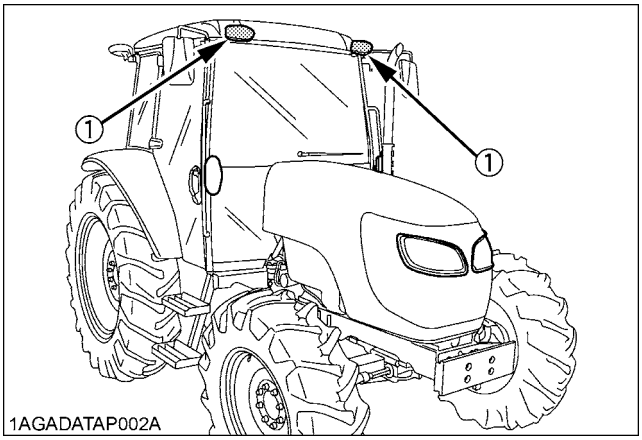
＊ ホーンはキースイッチ**【切】**の位置でも作動します。

■作業灯スイッチ（前）
キースイッチ**【ACC】【入】**位置にして作業灯スイッチの右側を押すと作業灯**【前】**が点灯します。スイッチの左側を押すと消灯します。

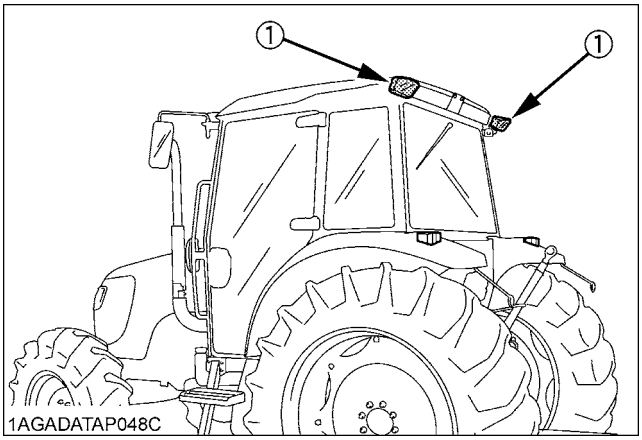
■作業灯スイッチ（後）
キースイッチ**【ACC】【入】**位置にして作業灯スイッチの右側を押すと作業灯**【後】**が点灯します。スイッチの左側を押すと消灯します。



①作業灯スイッチ（前）　　Ⓐ**“ON（入）”**
②作業灯スイッチ（後）　　Ⓑ**“OFF（切）”**



①作業灯（前）



①作業灯（後）

重　要

＊ バッテリがあがりますので，エアコン・作業灯・ヘッドランプなど電装品を使用する場合は，エンジン回転を 1800rpm 以上にしてください。

補　足

＊ 作業灯は**【道路運送車両の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■バックランプ
シャトルレバーを**【後進】**の位置に入れると，バックランプが点灯します。

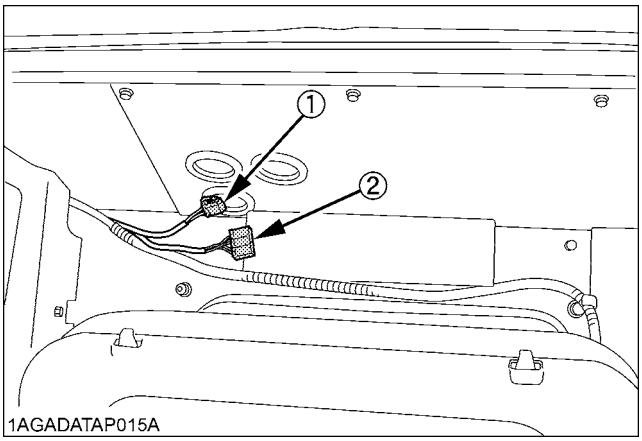
■ブレーキランプ
ブレーキペダル左右を連結金具で連結し，ブレーキペダルを踏むと，ブレーキランプが点灯します。

■車幅灯・尾灯
ヘッドライトに連動して点灯します。

外部電源取出端子

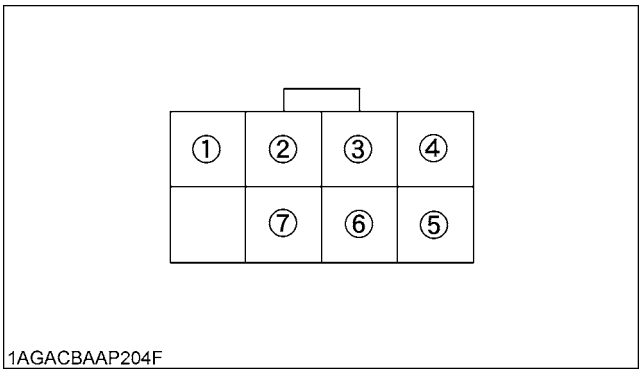
■電源取出し

シート後部に各種電源取出しを設けてあります。



①予備電源カプラ（25A）
②トレーラカプラ

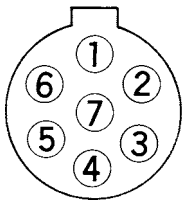
■トレーラカプラ電源



カプラ内ピン配置	電源
①，③	尾灯・車幅灯
②	アース
④	方向指示器（左）
⑤	制動灯
⑥	後退灯
⑦	方向指示器（右）

■トレーラ用カプラ（オプション）

1. トレーラと連結時に用いる電源カプラは別途購入してください。（オプション）
2. 電源は右図のとおりです。



トレーラハーネス	トレーラハーネス（ヨーロッパタイプ）
①アース ②尾灯（8W） 車幅灯（8W） 駐車灯（8W） ③方向指示器左（23W） ④制動灯（23W × 2） ⑤方向指示器右（23W） ⑥予備 ⑦後退灯（10W）	①方向指示器左（23W） ②後退灯（10W） ③アース ④方向指示器右（23W） ⑤尾灯（8W） 車幅灯（8W） 駐車灯（8W） ⑥制動灯（23W × 2） ⑦予備

発進・走行

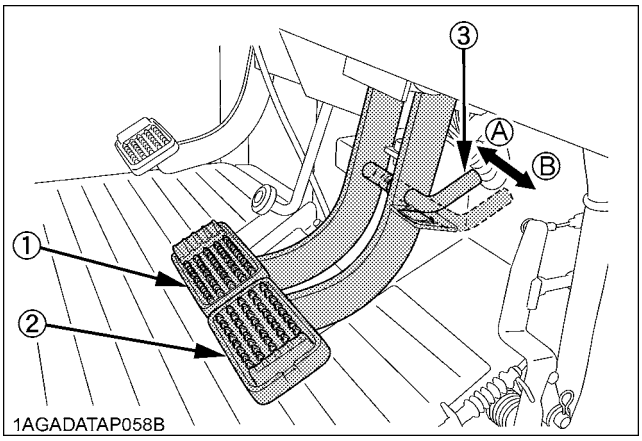
1. ブレーキペダルを確認します。

■ブレーキペダル

警 告

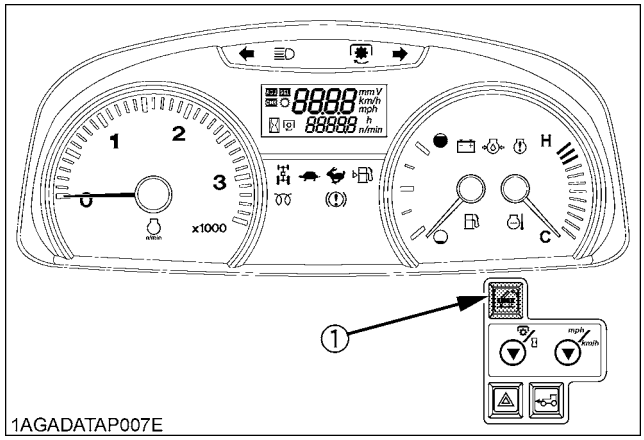
＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



①ブレーキペダル（左） **Ⓐ“連結（ロック）”**
②ブレーキペダル（右） **Ⓑ“解除”**
③連結金具

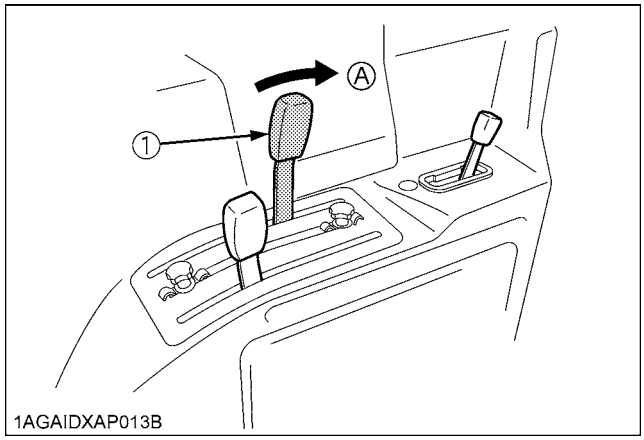
◆ ブレーキ連結解除警告灯
ブレーキペダル連結金具を外すと**ブレーキ連結解除警告灯**が点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ランプの消灯を確認してから，走行してください。



①ブレーキ連結解除警告灯

2. ポジションコントロールレバーを［後方に引き］作業機を上げます。

（詳細は**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）



①ポジションコントロールレバー **Ⓐ“上げる”**

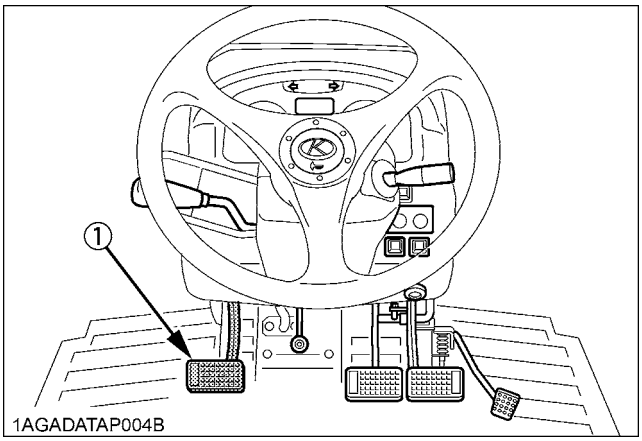
3. クラッチペダルを踏込みます。

注 意

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

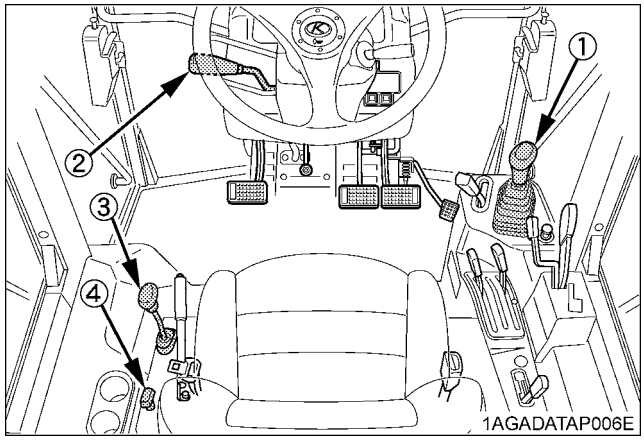
■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を走行部（車輪）に断続する装置です。
ペダルを踏み込む･･･････クラッチが切れる。
ペダルから足を離す･････クラッチがつながる。



①クラッチペダル

4. 走行速度を選択します。



①主変速レバー
②シャトルレバー
③副変速レバー
④クリープレバー（オプション）

変速レバーと変速スイッチの組み合わせで下記の車速段数が得られます。

	クリープ無し	クリープ付
標準仕様	前進 16 段 後進 16 段	前進 24 段 後進 24 段

	クリープ無し	クリープ付
DS 仕様	前進 32 段 後進 32 段	前進 48 段 後進 48 段

■主変速レバー

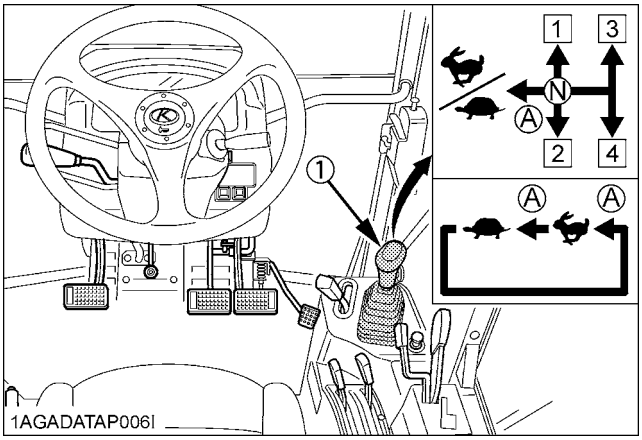
注 意

＊ 主変速レバー1⇔2⇔3⇔4の操作は，パイロットランプの点灯を確認してから行なってください。点灯しない状態が発生したときは，トラクタを完全に停止させ，変速をやり直してください。
＊ 下り坂で🐇・🐢切換えは行なわないでください。切換えができないことがあります。必ず，下り坂に入る前に行なってください。

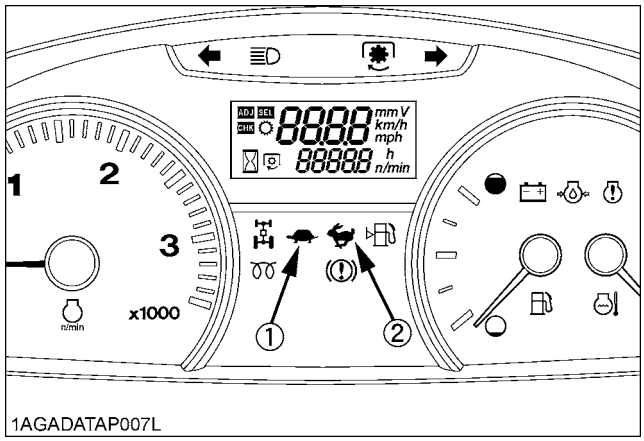
1. レバー１本で８段の車速が選択できます。
2. H 型変速部の４段は，フルシンクロメッシュ付きのため，走行時でも変速できます。
   変速時は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでからレバーを操作してください。

◆ 🐇・🐢の切換え

1. エンジン回転時，主変速レバー**［中立］**状態で，レバーを左側面に押付けるごとに，🐇・🐢が切換わります。
2. 🐇・🐢の切換わりは，パイロットランプ①，②で表示します。
3. 切換え時（パイロットランプ①，②が共に消灯時）ブザーが鳴ります。
4. 主変速レバーで🐇又は🐢を選択した後，１速～４速の車速段数を選択してください。



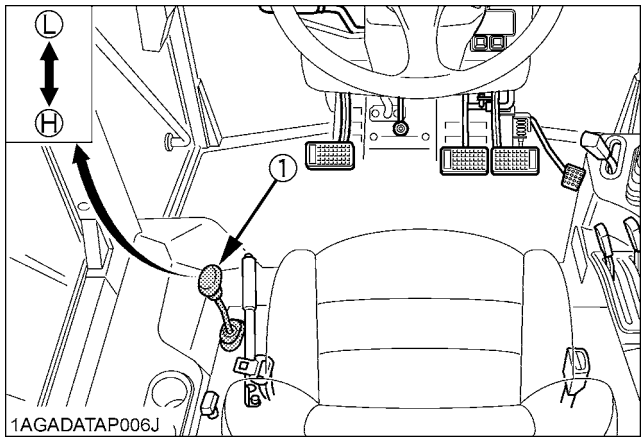
①主変速レバー　Ⓐ“押す”
🐢“低速”
🐇“高速”
Ⓝ“中立”



①パイロットランプ：🐢“低速”
②パイロットランプ：🐇“高速”

■副変速レバー

1. **［L］**位置で低速，**［H］**位置で高速が得られます。
2. 操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとトランスミッションの損傷につながります。



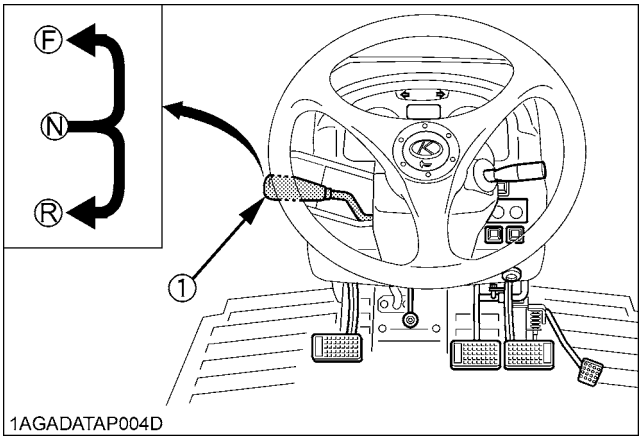
①副変速レバー　Ⓛ“低速”
Ⓗ“高速”

■シャトルレバー

警 告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。
＊ 急傾斜地で前進・後進の切換えをシャトルレバーのみの操作で行なうと，前進・後進が切換わるときトラクタの自重で自走し，危険な場合が予想されます。必ずクラッチペダル・ブレーキペダルを踏み込んで切換えを行ない，クラッチペダルで発進してください。

レバーを持ち上げ，前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。レバー操作は，クラッチペダルを踏まなくても（ノンクラッチ）変速することができます。



①シャトルレバー　　**Ⓕ“前進”**
Ⓝ“中立”
Ⓡ“後進”

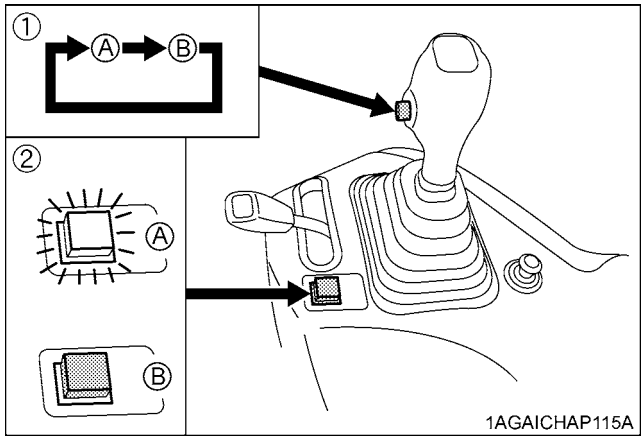
■ Dual speed（デュアルスピード）変速スイッチ

[DS 仕様]

走行中，クラッチペダル操作なしで，スイッチを押すごとに，車速を２段階に切換えることができます。
（車速は**［Hi］**（高速）から**［Lo］**（低速）に切換えることにより約 17％減速されます。）

◆ デュアルスピードインジケータ

デュアルスピード変速スイッチで**［Lo］**（低速）を選択時，インジケータが点灯します。
［Hi］（高速）を選択時は消灯します。



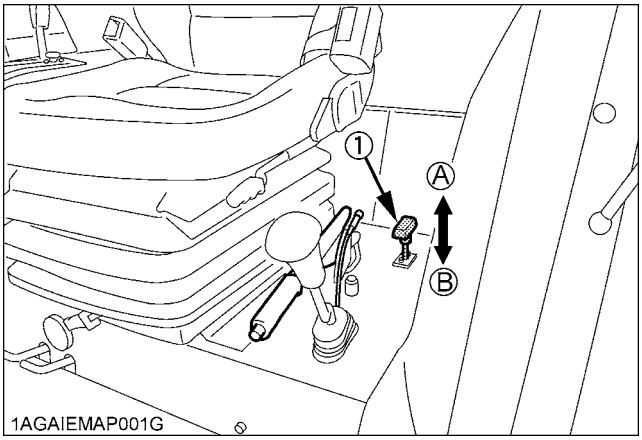
①デュアルスピード変速スイッチ　　**Ⓐ“Lo”（低速）**
②デュアルスピードインジケータ　　**Ⓑ“Hi”（高速）**

■クリープレバー
[オプション]

注 意

＊ クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。

副変速レバーが **[L]**（低速）の場合，クリープレバーを **[押し下げる]** とクリープ速度が得られます。
クリープ速度が **[ON]**（入）の時には副変速は **[H]** に変速できません。
（ **[H]**（高速）の場合はクリープ変速に入りません。）



①クリープレバー **Ⓐ“切”** **Ⓑ“入”**

クリープ速度は，使用する作業と取扱い方を誤ると故障の原因になります。
次のことに注意してお使いください。

1. 使用できる作業
   - ロータリでの深耕・細土耕うん作業。
   - ロータリで，ほ場がかたく標準速度で耕うんできない場合。
   - プランタによる移植作業。
   - 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）。
   - 車への積み・降ろしをするとき。
2. 使用できない作業（故障の原因になります）。
   - 湿田での沈没状態から脱出する作業。
   - けん引・トレーラ作業。
   - フロントローダ作業。
   - フロントブレード作業（除雪作業）。
   - 土木作業。
   - ほ場への出入り。
3. クリープ速度を使用するときは，必ず次のことを守ってください。
   - 変速は，クラッチペダルをいっぱい踏込んでから行なってください。
   - 発進は，必ず駐車ブレーキを外してから行なってください。
   - クリープ速度では車軸の回転力が非常に強くなるので，ブレーキペダルを強く踏んだだけではブレーキはききません。
     停止は，必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

重 要

＊ クリープ速度でブレーキペダルをあまり強く踏むと故障の原因になります。
＊ クリープ速度では，けん引作業をしないでください。
超低速で無理な負荷をかけると故障の原因になります。

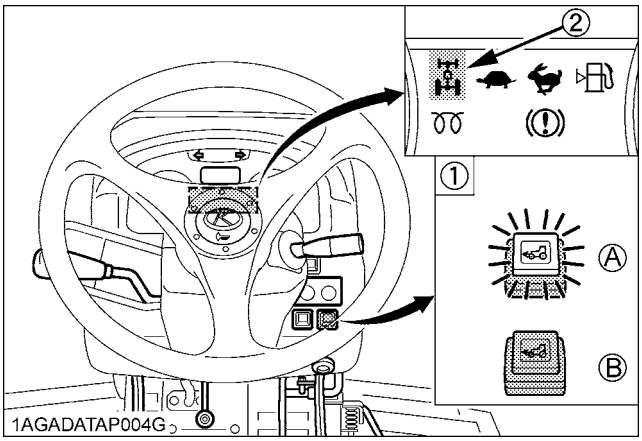
補 足

＊ クリープレバー操作時，レバー操作が重くなるときがあります。
そのときは，クラッチペダルを踏み直し，再度クリープレバーを操作してください。
＊ また，クラッチペダルを踏み直してもまだレバー操作が重いときは，いったん主変速レバーを **[中立]**（N）にしてから操作してください。

5. 走行モード（2WD，4WD）を選択します。

■ DT スイッチ

スイッチを押すごとに２輪駆動と４輪駆動に交互に切換わります。
４輪駆動選択時は，DT ランプが点灯します。
２輪駆動選択時は，DT ランプが消灯します。



①DT スイッチ　　Ⓐ4WD “ON”
②DT（４輪駆動）ランプ　　Ⓑ4WD “OFF”

補　足

＊ スイッチは停止，走行中に関係なく，また，クラッチ操作なしで操作することができます。

◆ 前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に威力を発揮します。

1. 傾斜地，湿田，トレーラの運搬・フロントローダ作業時で，けん引力が必要な場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. かたいほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
4. ほ場への出入り及び，あぜ越えを行なう場合。

補　足

＊ 舗装道路や高速走行時の前輪駆動は避けてください。思わぬ事故の原因にもなります。前輪駆動は必ず切ってDTランプが消えていることを確認してから走行してください。又，タイヤの摩耗を早める原因にもなります。
ただし，走行時ブレーキ性能向上のため，左右ブレーキペダルを連結した状態でブレーキを踏むと自動的に前輪駆動が入ります。

6. エンジンを加速します。

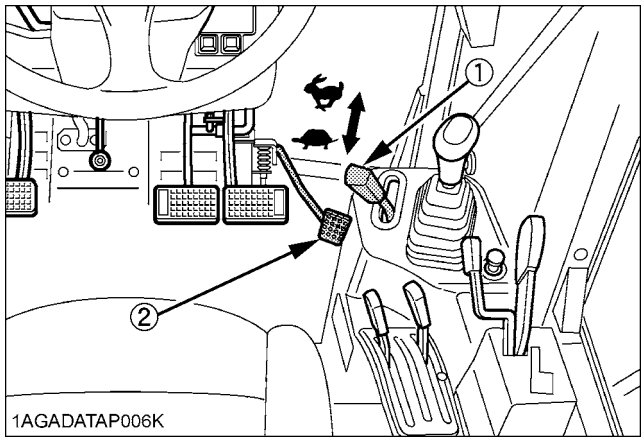
■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。
レバーを前側に押す……エンジン回転が上がる。
レバーを手前に引く……エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に走行時に使用する。
ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アイドリング状態。



①アクセルレバー　　：“高速”
②アクセルペダル　　：“低速”

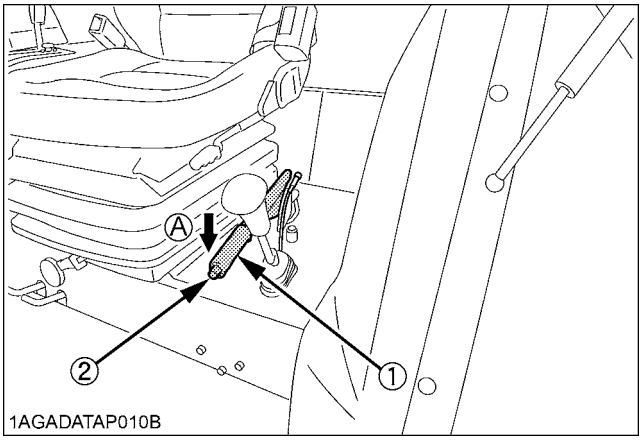
7. 駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し込みレバーを下げると，ブレーキが解除されます。

補　足

＊ メータパネルの(!)ランプの消灯を確認のこと。
＊ もし駐車ブレーキを掛けたまま発進すると，警告ブザーが鳴り，駐車ブレーキ警告灯が点滅します。



①駐車ブレーキレバー　　Ⓐ“下げる”
②解除ボタン

8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

重　要

＊ クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。
(1) 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
(2) 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
(3) クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。
知らないうちに半クラッチを使用していることになります。
＊ トレーラけん引作業時などの発進は，低速度段で行ない，次に必要な車速段に入れて走行してください。
(クラッチの寿命が長くなります)

停車・駐車

警　告

＊ 本機は油圧ミッションのため，変速ギヤーを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキを［掛けて］ください。

注　意

＊ 駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，変速レバーを［中立］(N)，PTO クラッチコントロールレバーを［OFF］(切)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［引き］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンがじゅうぶん冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. **アクセルレバーを手前に引き，エンジン回転をアイドリング状態にします。**

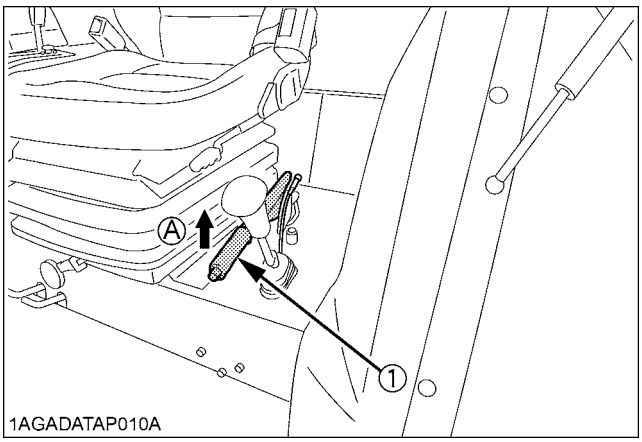
2. **クラッチ及びブレーキペダルを［踏込み］ます。**

3. **完全に停止してから，シャトルレバー，主変速レバーを［中立］(N) にします。**

4. **PTO を使用している場合は，PTO クラッチコントロールレバーを［OFF］（切）にして，PTO を停止させます。**

5. **作業機を取付けている場合は，ポジションコントロールレバーをゆっくり［前方に倒し］作業機を下げます。**

6. **駐車ブレーキを確実にかけてください。**



①駐車ブレーキレバー　　Ⓐ“引く”

7. **キースイッチを［切］にして，エンジンを停止します。**

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

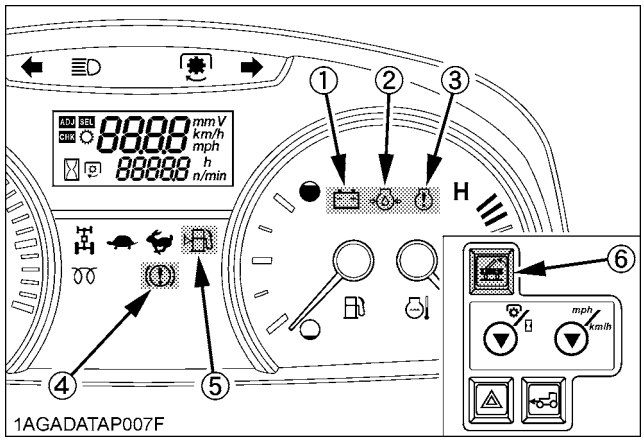
次の場合は，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。



①充電異常警告灯（チャージランプ）
②エンジンオイル油圧警告灯
③エンジン異常警告灯
④駐車ブレーキ警告灯 / ブレーキオイル残量警告灯
⑤燃料残量警告灯
⑥ブレーキペダル連結解除警告灯

燃料残量警告灯

燃料の残量が約18L 以下になったとき点灯して警告します。
点灯したままのときは燃料を補給してください。

充電異常警告灯（チャージランプ）

充電系統に異常があれば，エンジン回転中ランプが点灯して警告します。

エンジン異常警告灯

この警告灯は下記２つの機能を持っています。もし警告灯が点灯した場合，原因がどちらにあるかを調べ，適切な処置を行なってください。

◆ エンジン･コントロールシステムの異常

運転中，水温計の指針が常温範囲内を示しているが，電子メータ内エンジン異常警告灯が点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。

重　要

警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

＊ エンジンが突然止まった。
＊ エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。
＊ エンジン出力が充分でない。
＊ エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。

エンジン出力が充分でない場合，ただちに作業を中断し，安全な場所にトラクタを移動させ，エンジンを止めてください。

◆ エンジンのオーバヒート

水温計の指針が**［レッドゾーン］**を示し，警告灯が点灯した場合，エンジンのオーバヒートが予測されます。
［トラクタの簡単な手入れと処置］の章の**［エンジンの不調と処置］**の項を参照し，トラクタを点検してください。

ブレーキペダル連結解除警告灯

ブレーキペダル連結金具を外すと警告灯が点灯します。
道路走行時などは連結金具をかけ警告灯の消灯を確認してから走行してください。

駐車ブレーキ警告灯 / ブレーキオイル残量警告灯

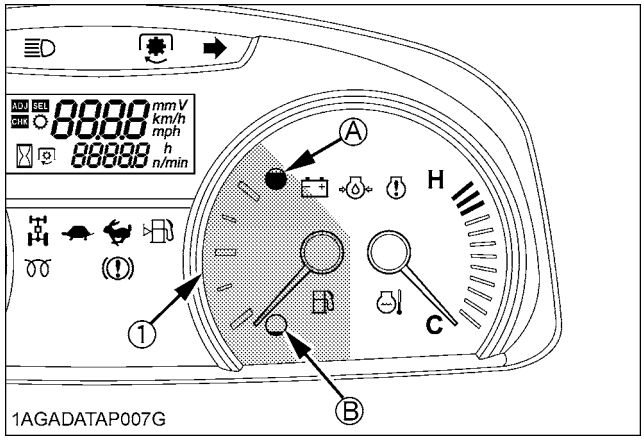
駐車ブレーキが掛かっているときやブレーキオイルの量が規定量以下になったとき，点灯して警告します。
点灯したままのときは，駐車ブレーキが掛かった状態になっていないか確認してください。
それでも消灯しないときは，ブレーキオイルの補給とブレーキ系統の油漏れの有無を確認してください。

エンジンオイル油圧警告灯

エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯して警告します。
点灯したままのときは，直ちにエンジンを止めてエンジンオイル量及び潤滑油系統を点検してください。

■燃料計

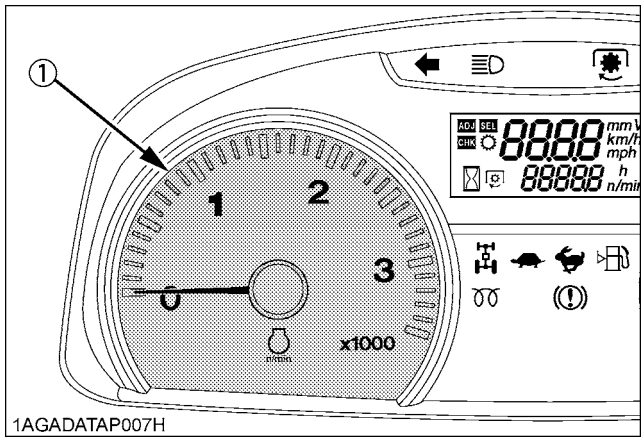
指針が**下方向**に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



①燃料計　　Ⓐ“満タン”　Ⓑ“空”

■エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。



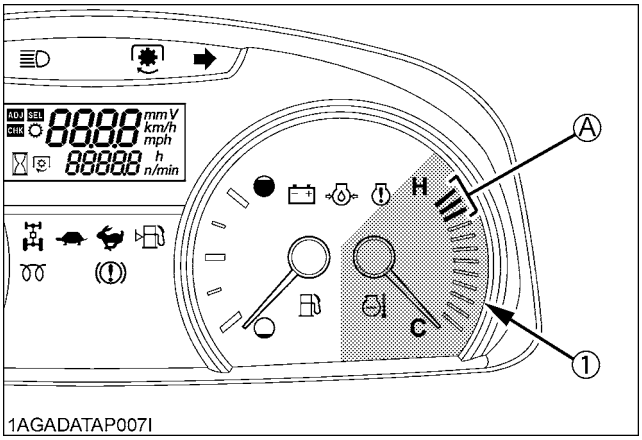
①エンジン回転計

■水温計

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**［レッドゾーン］**を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



①水温計　　Ⓐ“レッドゾーン”

◆ オーバヒートしたときの処置

オーバヒート（水温計の針が**［レッドゾーン］**を示す）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約５分間アイドリング回転にしてから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) フロントグリル，防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やごみが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

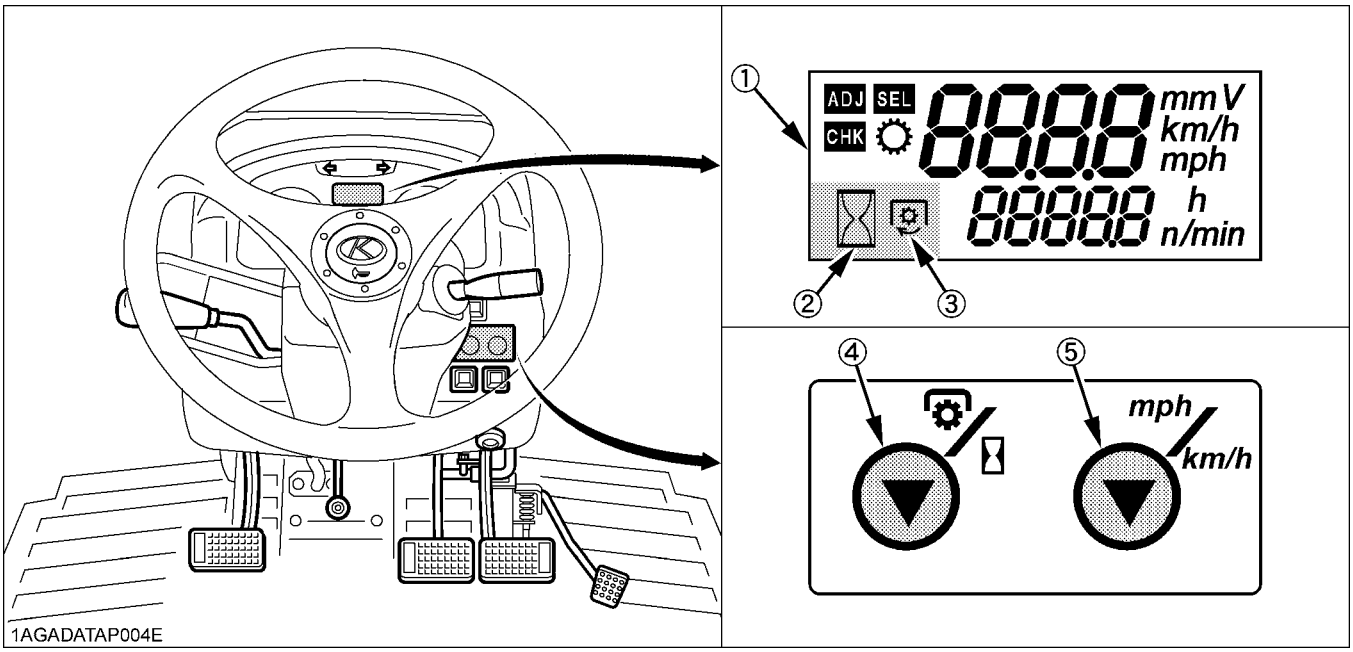
重　要

＊ ラジエータのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，前記**［オーバヒートしたときの処置］**を行なってください。

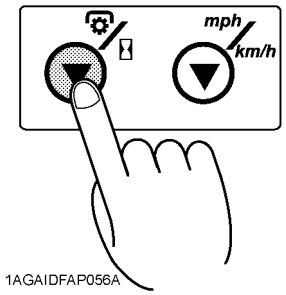
PTO 回転計・スピードメータ

■表示の切替え

電子メータパネルの液晶表示部は，次表のように切替えることができます。作業に応じ切替え，活用してください。

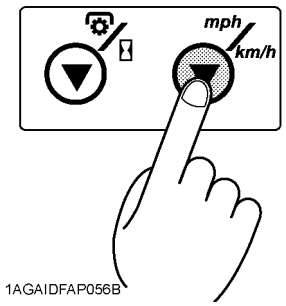


①液晶表示部
②アワーメータ（積算時間）表示マーク
③ PTO 表示マーク
④ PTO / アワーメータ表示切替スイッチ
⑤車速表示切替スイッチ

<table>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">スイッチを押すごとに
［走行速度とアワーメータ］
又は［走行速度と PTO 回転］
表示に切替わります。
 

1AGAIDFAP056A</td><td>アワーメータモード

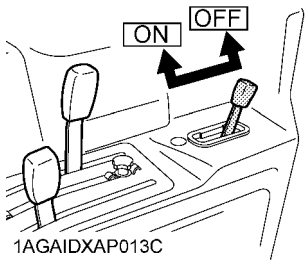
1AGAIDFAP072H</td><td>● 走行速度と積算使用時間が表示されます。
● 積算時間は 5 桁表示で，はじめの 4 桁は時間，最後の 1 桁は 1/10 時間（6 倍すると分単位）を示します。</td></tr>
<tr><td>PTO 回転モード

1AGAIDFAP072I</td><td>● 走行速度と PTO 回転数が表示されます。
● PTO クラッチコントロールレバー［切］時，［OFF］が表示されます。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>スイッチを押すごとに速度の表示単位が切替わります。
 

1AGAIDFAP056B</td><td>km/h 表示

1AGAIDFAP072C

mph（マイル）表示

1AGAIDFAP072D</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">PTOクラッチコントロールレバーを操作すると表示が切替わります。
 

1AGAIDXAP013C</td><td>PTO 切（OFF）時

1AGAIDFAP072H</td><td>● アワーメータモードの表示となります。
（走行速度と積算使用時間が表示されます。）</td></tr>
<tr><td>PTO 入（ON）時

1AGAIDFAP072I</td><td>● PTO 回転モードの表示となります。
（走行速度と PTO 回転数が表示されます。）</td></tr>
</table>

補　足

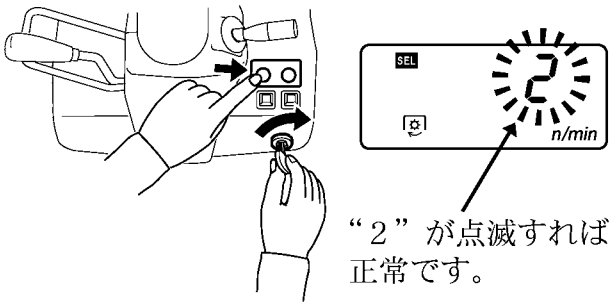
＊ けん引作業などでタイヤがスリップしている場合の表示車速は実車速と異なります。
＊ 低温時，液晶表示の動作が緩慢になる場合もあります。

■ PTO 回転計の設定と確認

工場出荷時，設定コードは2にセットされています。
設定コードの変更を行なうと PTO 回転が正しく表示されなくなりますので変更しないでください。
（設定コードは下記手順で確認することができます。）

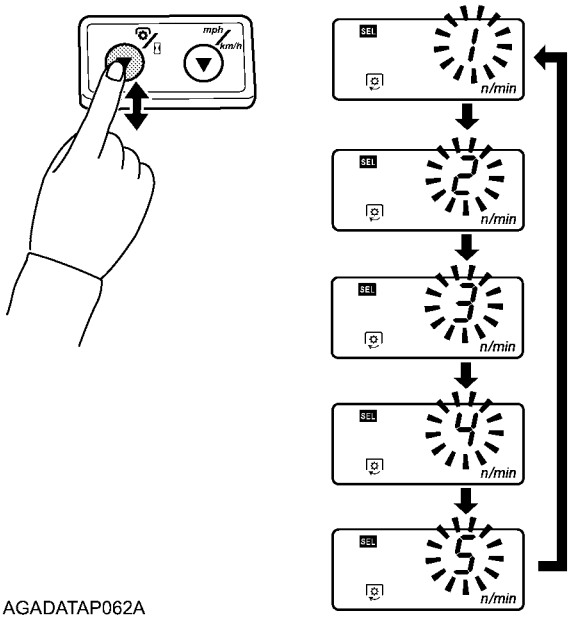
◆ 確認手順

1. PTO / アワーメータ表示切替スイッチを押しながら，キースイッチを **[ON]**（入）にします。



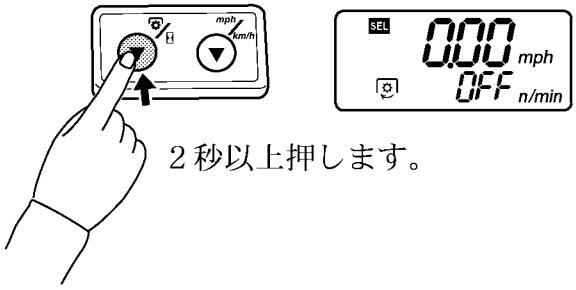
“2”が点滅すれば正常です。

2. PTO / アワーメータ表示切替スイッチを押すごとに，設定コードが切替わります。**[1]→[2]→[3]→[4]→[5]→[1]** 表より適切なコードを入力してください。



1AGADATAP062A

3. PTO / アワーメータ表示切替スイッチを２秒以上押してください。
液晶表示部が下図のように切替われば設定が完了です。



２秒以上押します。

補　足

＊設定途中でキースイッチを **[OFF]**（切）にするとキャンセルできます。

設定コード	PTO回転（rpm）
1	選択禁止
2	540/1000
3	選択禁止
4	
5	

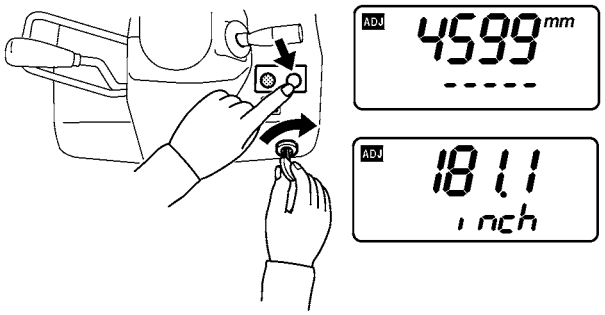
■車速係数の入力

サイズの異なるオプション採用のタイヤに交換した場合，スピードが正しく表示されません。
次表を参考に**［タイヤ外周長］**を入力してください。

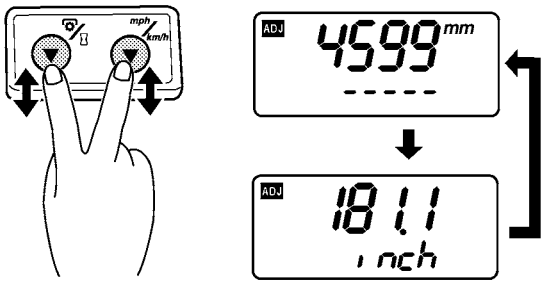
◆ タイヤ外周長の入力手順

例：4455 mm と入力

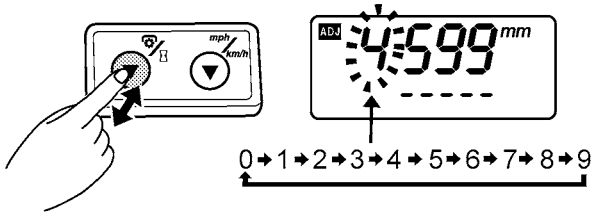
1. 車速表示切替スイッチを押しながら，キースイッチを**［ON］**（入）にします。現在装着されているタイヤの外周長がミリメートル又はインチで表示されます。（最上位桁の数値が点滅します。）



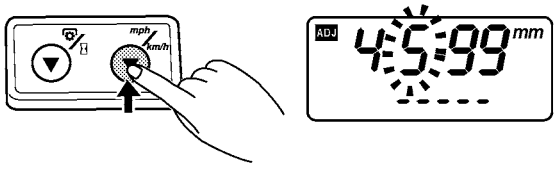
2. PTO / アワーメータ表示切替スイッチと車速表示切替スイッチを同時に押します。スイッチを押すごとにミリメートルとインチ表示が交互に切替わります。ミリメートル表示を選択します。



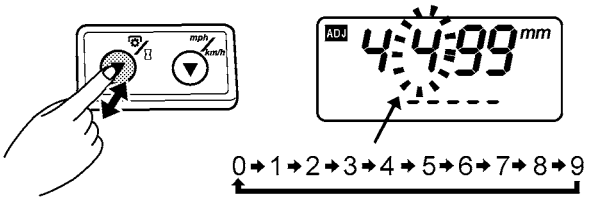
3. 最上位桁の数値が点滅します。
PTO / アワーメータ表示切替スイッチを押し“４”を選択します。（スイッチを押すごとに０から９が表示されます。）



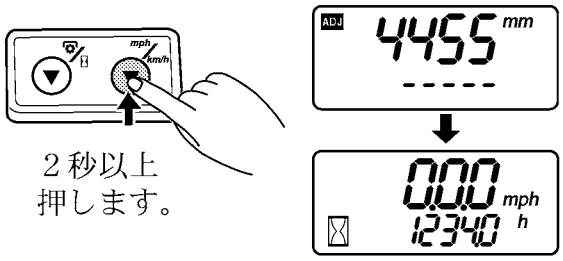
4. 車速表示切替スイッチを押し，１桁下げます。（数値が点滅する。）



PTO / アワーメータ表示切替スイッチを押し“４”を選択します。



5. 上記手順で“５”，“５”を入力します。
6. “４４５５”と正しく入力されているか確認します。車速表示切替スイッチを２秒以上押してください。液晶表示部が下図のように切替われば設定が完了です。



補　足

＊設定途中でキースイッチを**［OFF］**（切）にするとキャンセルできます。

◆タイヤ外周長一覧表

後輪タイヤサイズ	入力値
13.6-38	4982
16.9-38	5319

1AGADATAP063A

状況に応じた操作

■デフロックの使い方

注 意

＊ 後輪デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

◆ 前・後輪デフロックペダル

デフロックは，次のような場合に役立ちます。
1. ほ場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. ほ場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

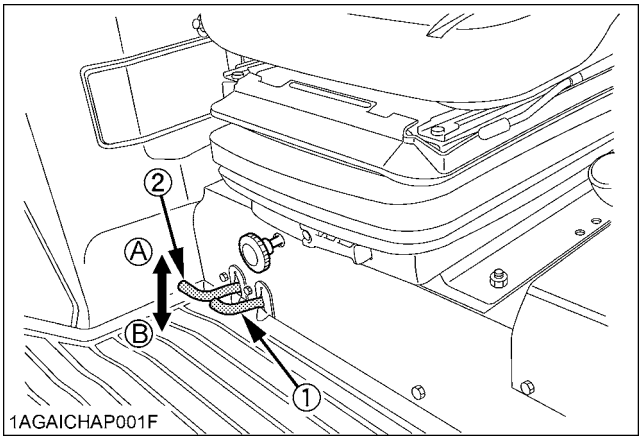
左右の前・後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む

… ４輪共，デフロック**【入】**の状態でロックされる。

ペダルから足を離す

… 自動的にデフロックが解除される。



①前・後輪デフロックペダル Ⓐ“離す”（解除）
②前輪デフロックペダル Ⓑ“踏む”（ロック）

◆ 前輪デフロックペダル

デフロックは，次のような場合に役立ちます。
1. ほ場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. ほ場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。
4. 軟弱なほ場内で旋回するときに，前輪がスリップして旋回が困難になったとき。

左右の前輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

前輪駆動の状態で，

ペダルを踏む

… 前輪のみ，デフロック**【入】**の状態でロックされる。

ペダルから足を離す

… 自動的にデフロックが解除される。

重 要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ デフロックが抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。
＊ 片ブレーキを効かすときは，前・後輪デフロックを必ず解除してください。
＊ フロントローダ作業など前輪に大きな荷重がかかる作業では，必要時以外は前輪デフロックを使用しないでください。

■旋回のしかた

注 意

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

警　告

＊ ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では主変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

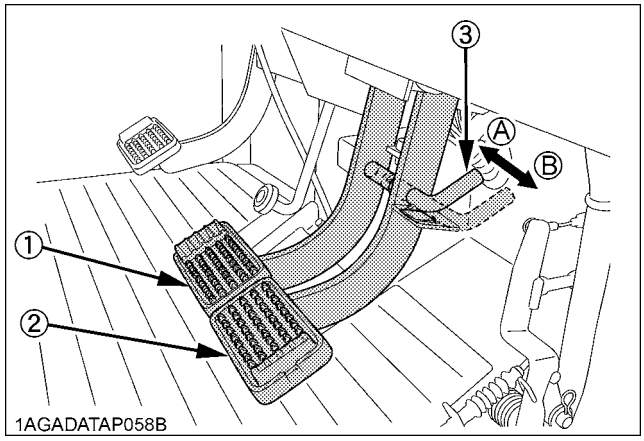
＊ 左右のブレーキペダルは，必ず［連結］しておいてください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

■道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず［連結］してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①ブレーキペダル（左）　Ⓐ“連結（ロック）”
②ブレーキペダル（右）　Ⓑ“解除”
③連結金具

注　意

＊ 道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
［道路運送車両法の保安基準］
（作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。）

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 夜間走行中，対向車とすれちがうときは，ヘッドライトを下向き照射にし，対向車の妨害にならないように注意しましょう。

3. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補　足

＊ 作業灯は**【道路運送車両の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

■トラックへの積み・降ろし

注　意

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラック荷台高さの 4 倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**【連結】**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

■パワーステアリングの取扱い

注　意

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転をじゅうぶん行なってから使用してください。

■ローダ作業

ローダ作業を安全に行なうために！

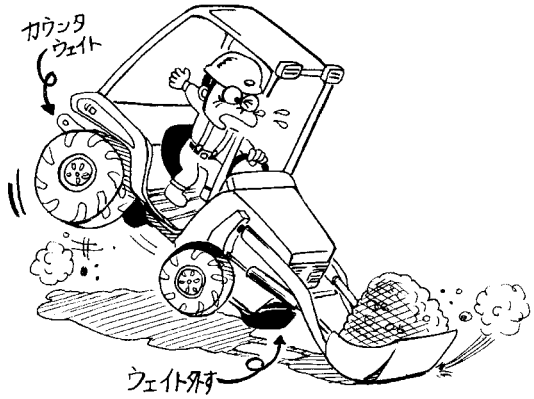
ローダ作業時の転倒事故を防止するために，次のことがらを必ず守ってください。

1.トラクタ後部にカウンタウエイトを取付ける！

トラクタの後部に，三点リンクを利用して適正量のカウンタウエイトを取付け，前・後のバランスを保つようにしてください。

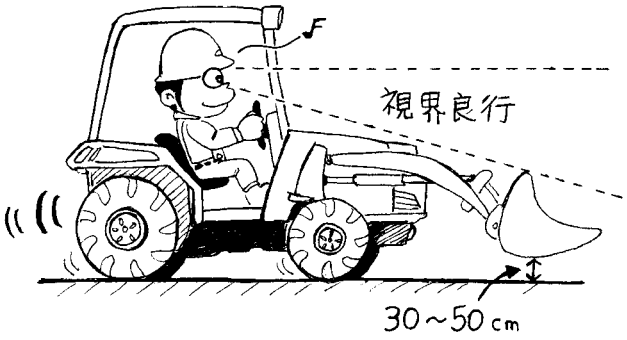
適正カウンタウエイト量（ロアーリンク先端）
800 kg

※純正フロントローダ装着時



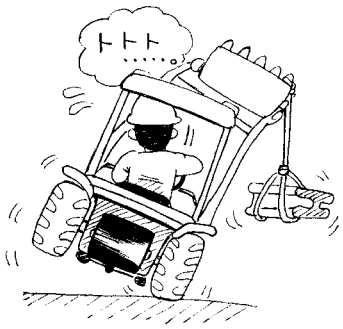
2.運搬はローダを低く下げてゆっくり走行する！

運搬・走行するときは，積荷の高さを地上から30～50cmにし，速度も５km/時以下で走行してください。特に傾斜地・悪路では，速度をひかえめに慎重に走行してください。



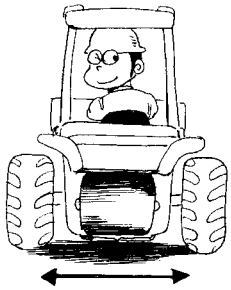
3.片持ち作業をしない！

片持ち作業はトラクタ横転の原因になりますので，荷物は左・右片寄らないようにバランスよく載せてください。



4.後輪トレッドはできるだけ広げる！

作業時はトラクタの安全性を増すため，後輪トレッドはできるだけ広げてください。



★以上，ローダ作業での転倒事故を未然に防いでいただくために，主だった注意事項を挙げました。これ以外にもローダの［**取扱説明書**］をよく読んで安全に作業をしてください。

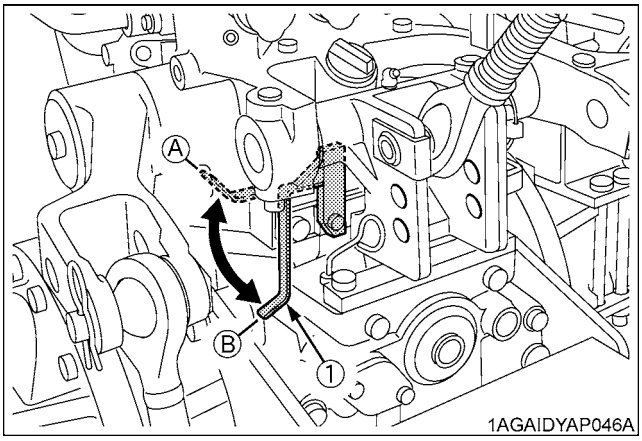
作業のしかた

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■ドラフトストッパ

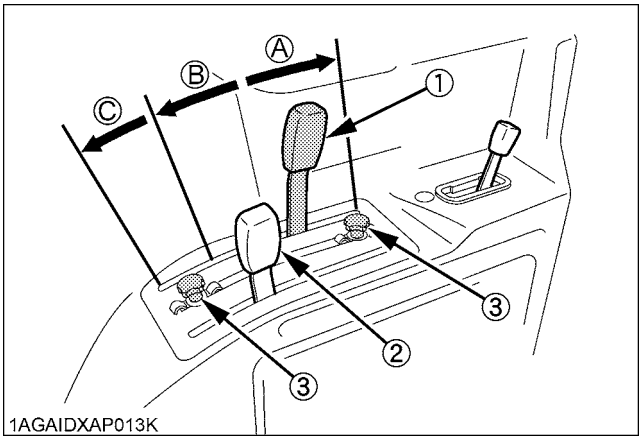
プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，ドラフトストッパを**［解除］**位置にセットしてください。
ロータリ作業などポジションコントロールを使用する場合は，ドラフトストッパを**［ロック］**位置にセットしてください。



①ドラフトストッパ　　**Ⓐ“ロック”**
Ⓑ“解除”

■ポジションコントロールレバー

1. ポジション範囲Ⓐ，Ⓑでは，作業機が任意の位置に保たれます。
2. フローティング範囲Ⓒでは，作業機はいっぱいに下がります。



①ポジションコントロールレバー　　**Ⓐ“上がる”**
②ドラフトコントロールレバー　　**Ⓑ“下がる”**
③レバーストッパ　　**Ⓒ“フローティング”**

補　足

＊ ドラフトコントロールレバーは最下位置まで下げておきます。

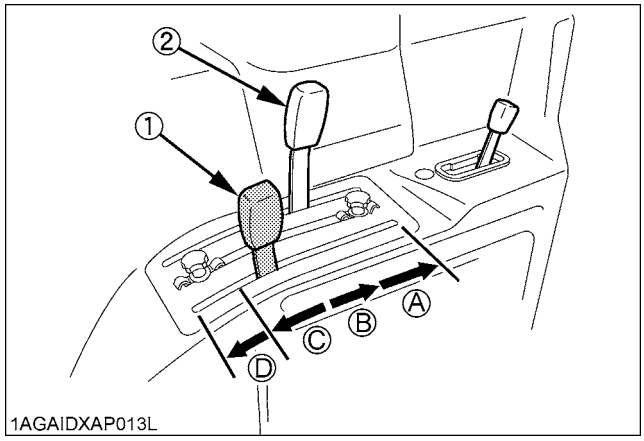
＊ ポジションコントロールレバーを上げるときの操作荷重は，エンジン回転中よりも停止時の方が重いですが，異常ではありません。

◆ レバーストッパの使い方

3. ポジションコントロールレバーで，希望する作業位置を決めます。
4. その位置にレバーストッパを固定します。
5. その後は，ポジションコントロールレバーをレバーストッパに当たるまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■ドラフトコントロールレバー

1. ドラフト範囲Ⓑ，Ⓒでは，けん引負荷に応じて自動的に作業機を上下させ，一定のけん引力を維持します。
2. フローティング範囲Ⓓでは，作業機はいっぱいに下がります。
3. レバーを**［上げ］**位置Ⓐにすると，作業機はいっぱいに上がります。



①ドラフトコントロールレバー　　**Ⓐ“上がる”**
②ポジションコントロールレバー　　**Ⓑ“浅くなる”**
Ⓒ“深くなる”
Ⓓ“フローティング”

補　足

＊ ポジションコントロールレバーは最下位置まで下げておきます。

◆ フローティングの使い方（プラウのスキ込みをよくするために）

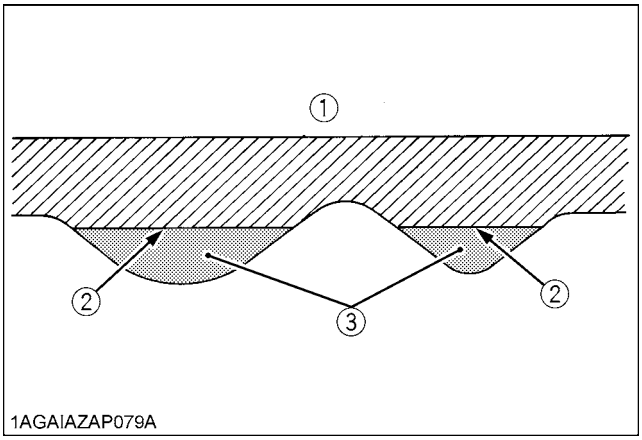
1. ドラフトコントロールレバーをフローティング位置でプラウのスキ込みを行ないます。
2. プラウが希望耕深に達すると，レバーをドラフト設定位置まで戻します。

◆ ドラフト感度の調整

トップリンクホルダへのトップリンク取付け位置により，感度が調節できます。
〔詳細は**［トップリンク］**の項を参照〕

■ミックスコントロール

通常ドラフトコントロールを使用する場合，けん引抵抗が小さくなると作業機が降下して，自動的に抵抗を大きくする動きとなりますが，必要以上に降下することがあります。
この場合，ポジションコントロールで降下位置を規制することにより，作業を能率よく，きれいに仕上げることができます。
一般作業はドラフトコントロールで，抵抗に応じて自動的に油圧制御するが，けん引抵抗が小さくなった場合の作業機降下量をポジションコントロールで限定してやる，これがミックスコントロールです。



①地表面
②降下を制限する
③軟弱で抵抗が小さい

■作業機落下速度の調整

注　意

- **ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。**
- **落下速度調整グリップでロックした後，ポジションコントロールレバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。**
- **確認後，再度ポジションコントロールレバーを上げておいてください。**
- **ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。**

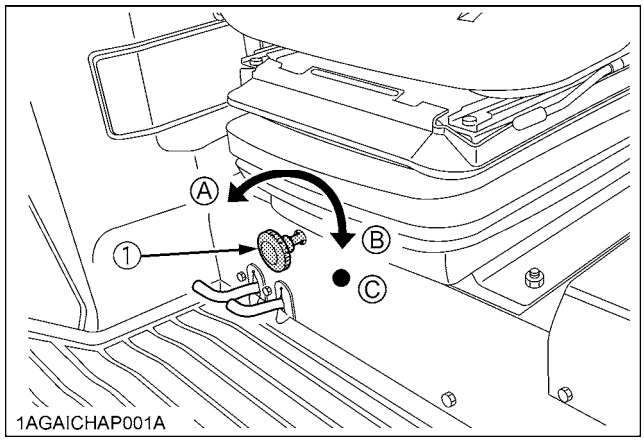
落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。

［速い］方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。
［遅い］方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**［ロック］**方向に軽く締込むと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。
特に耕うん開始時，落下速度が速すぎると滑らかな耕うんができない場合があります。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。



①落下速度調整グリップ　**Ⓐ“速い”**　**Ⓑ“遅い”**　**Ⓒ“ロック”**

◆ 油圧ロックの取扱い

1. トラクタの格納は，作業機を降ろした状態で保管してください。
   作業機を上げた状態で長時間保管すると，油圧ロックしていても下降することがあります。
2. 作業機を上げた状態で保管する場合は，次の要領で行なってください。
   (1) エンジンをかけた状態で落下速度調整グリップを油圧が**［ロック］**する側に回して，軽く締込んでください。
   (2) ポジションコントロールレバーを前方に倒し，作業機が下がらないことを確認してから，再度レバーを上げておいてください。
   (3) エンジンを停止してください。

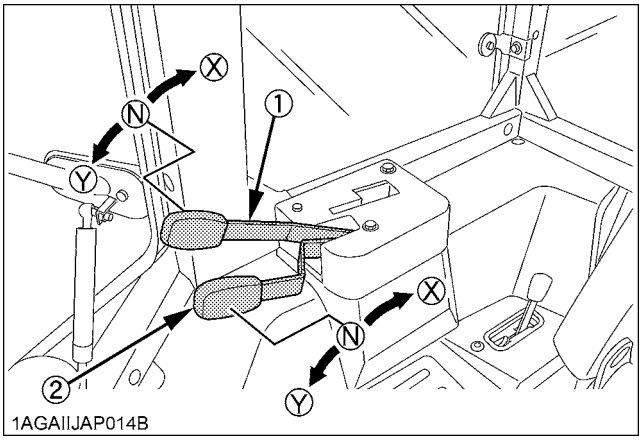
外部油圧取出し

外部油圧取出しは，標準で２連装着していますが，オプションで３連まで装着できます。

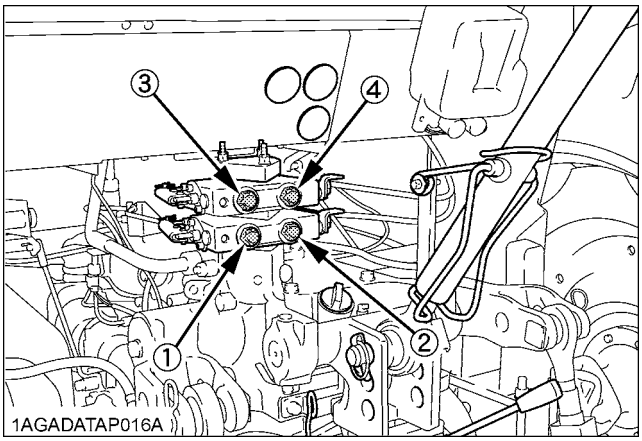
１連目……単／複切換えバルブ
２連目……単／複切換えバルブ

■油圧補助コントロールレバー

1. 各レバーの操作方向と油の流れは下記のようになっています。
   作業機側油圧ホース（吐出，戻り）の方向を確認し，接続してください。
2. １連目，２連目レバーは，補助コントロールバルブ単複切換えつまみの切換えにより，**[単動]［複動]** ２種類の操作ができます。



①油圧補助コントロールレバー（１連目）
②油圧補助コントロールレバー（２連目）



①ポート（A）
②ポート（B）
③ポート（C）
④ポート（D）

補　足

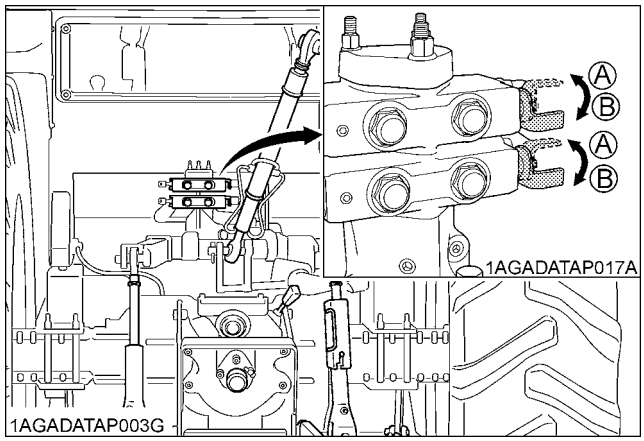
＊ 作業機の油圧シリンダが複動の場合，油圧シリンダの圧力側（負荷がかかったとき高圧となる側または，漏れを発生させたくない側）をポート（A），（C）に接続してください。（ポート（A），（C）のみにチェックバルブが入っています。）
また，位置保持の必要なシリンダポートは単複切換えバルブのポート（A），（C）に接続してください。（単複切換えバルブのポート（A），（C）のみに内部圧力回り込み防止ポートが付いています。）

油圧補助コントロールレバー		複　動		単　動	
		ポート（A）	ポート（B）	ポート（A）	ポート（B）
一連目	（X）方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	－
	（Y）方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	－

油圧補助コントロールレバー		複　動		単　動	
		ポート（C）	ポート（D）	ポート（C）	ポート（D）
二連目	（X）方向	➡ 吐出	⇦ 戻り	➡ 吐出	－
	（Y）方向	⇦ 戻り	➡ 吐出	⇦ 戻り	－

	ネジサイズ
ポート（A）（B）（C）（D）	G3/8

■補助コントロールバルブ単複切換えつまみ



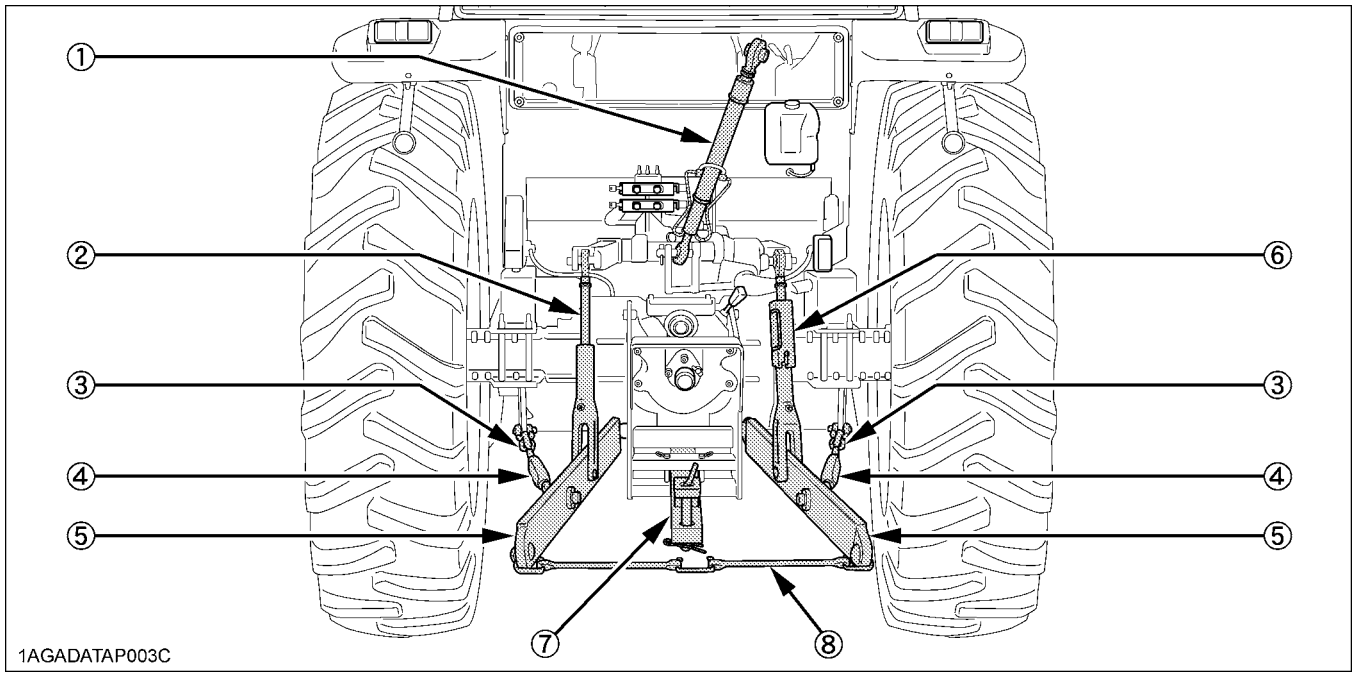
①単複切換えつまみ　　Ⓐ“単動”
Ⓑ“複動”

重　要

＊**［単動］**の作業機を**［複動］**の位置で使用するとトラクタの故障の原因になります。
ご使用になる作業機に合わせて，切換えてください。

三点リンク

■各部の名称

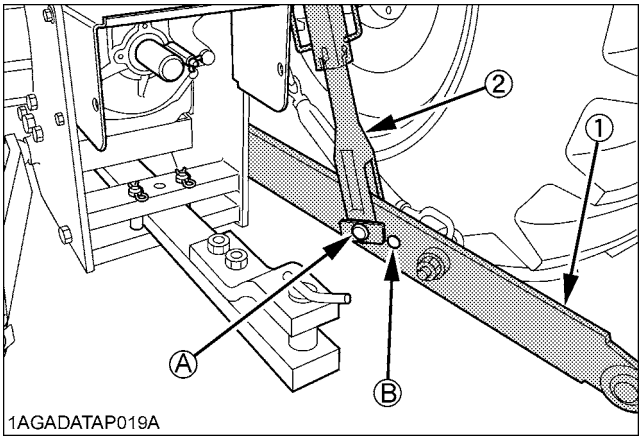


(1) トップリンク
(2) リフトロッド左
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) リフトロッド右
(7) けん引ヒッチ（ドローバ）
(8) 振止めゴム

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

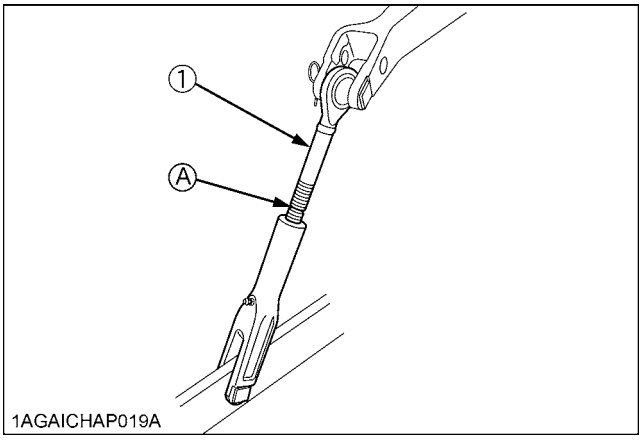
一般作業機を使うときは，ロアーリンクの**［前穴］**を使ってください。特別な作業（重作業機）のみ**［後穴］**を使ってください。



①ロアーリンク　　**Ⓐ“前穴”**
②リフトロッド　　**Ⓑ“後穴”**

■リフトロッド（左）の長さ調整

上側又は下側のジョイントピンを外した後，リフトロッドを回し長さを調整します。



①リフトロッド　　**Ⓐ“溝”**

重　要

＊ 外れを防止するため，ロッドネジ部の溝位置以上には伸ばさないでください。

2. 作業機の着脱

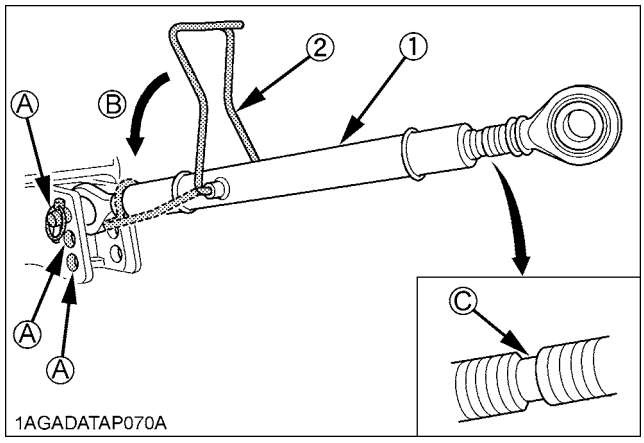
警　告

＊ 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊ 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊ 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊ 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

◆ 取付け穴の選択

使用する作業機によって取付け穴を選択してください。
プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合，トップリンクブラケットの下穴を使用する程，ドラフト感度がよくなります。



①トップリンク　　**Ⓐ“取付け穴”**
②ハンドル　　**Ⓑ“ロック位置”**
Ⓒ“溝”

◆ トップリンク長さの調整

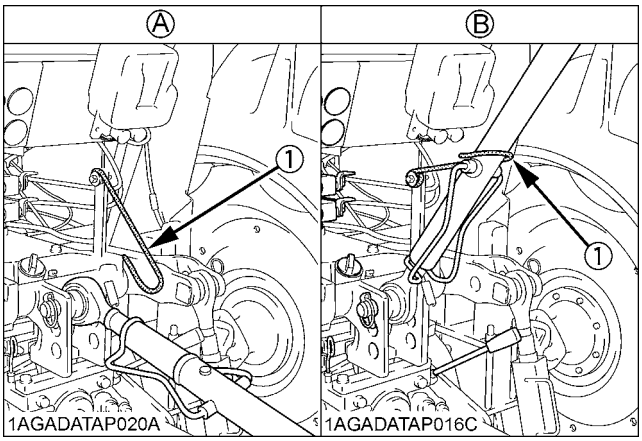
伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
外れを防止するため，ロッドネジ部の溝位置以上には伸ばさないでください。
調整後はハンドルでロックしてください。

補　足

＊ トップリンクの取付け穴及び長さは，取付ける作業機の**［取扱説明書］**をご覧ください。

◆ トップリンクの格納

トップリンクを使用しない時は，トップリンクをトップリンクホルダで格納してください。
トップリンクを使用する時は，トップリンクホルダを下向きにしてください。



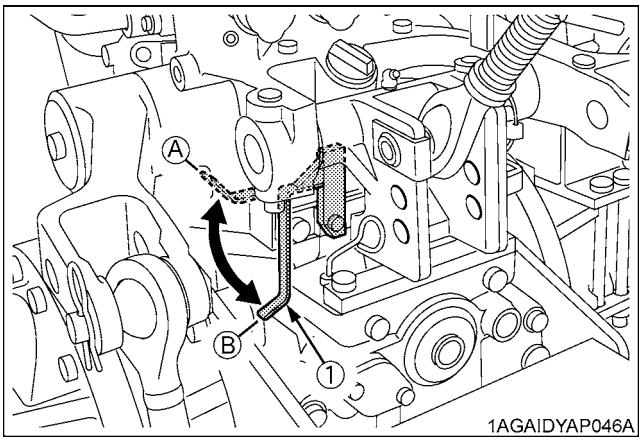
①トップリンクホルダ　　**Ⓐ“トップリンク使用時”**
Ⓑ“トップリンク格納時”

補　足

＊ トップリンクホルダを下向きにしないで三点リンクを上げると，トップリンクホルダが破損する場合があります。

◆ ドラフトストッパ

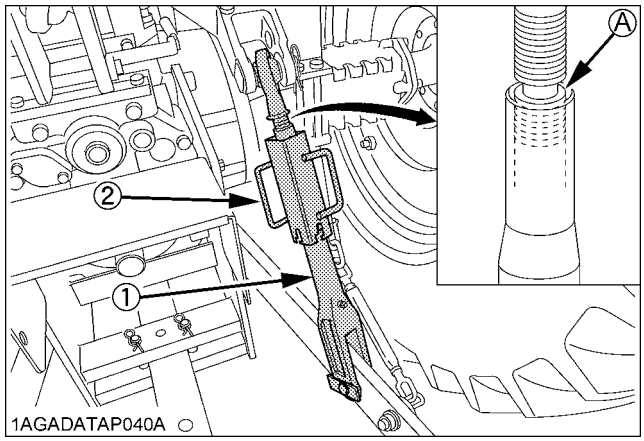
プラウ作業などドラフトコントロールを使用する場合は，ドラフトストッパを**［解除］**位置にセットしてください。
ロータリ作業などポジションコントロールを使用する場合は，ドラフトストッパを**［ロック］**位置にセットしてください。



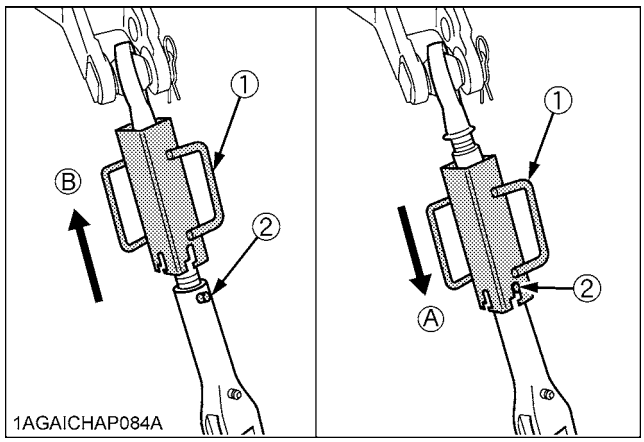
①ドラフトストッパ　　**Ⓐ“ロック”**
Ⓑ“解除”

■リフトロッド（右）の調整

1. ハンドル部を持ち上げ**［ロック］**を解除後，ハンドル部を回し作業機の傾きを調整してください。
2. 調整後は，ハンドル部を**［ロック］**位置に固定してください。



①リフトロッド　　**Ⓐ“溝”**
②調整ハンドル



①調整ハンドル　　**Ⓐ“ロック位置”**
②ロックピン　　**Ⓑ“解除位置”**

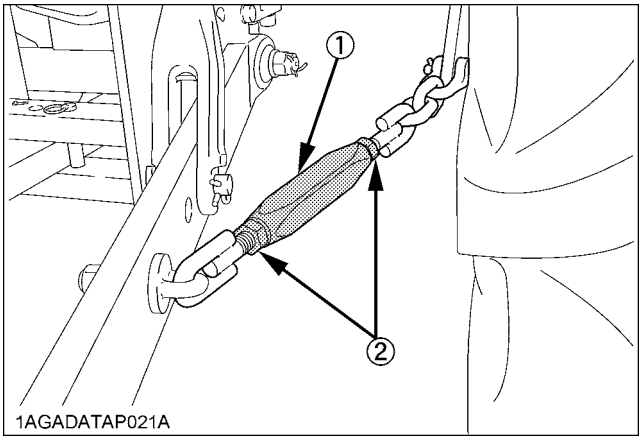
重　要

＊ 外れを防止するため，ロッドネジ部の溝位置以上には伸ばさないでください。

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はロックナットでターンバックルを固定してください。

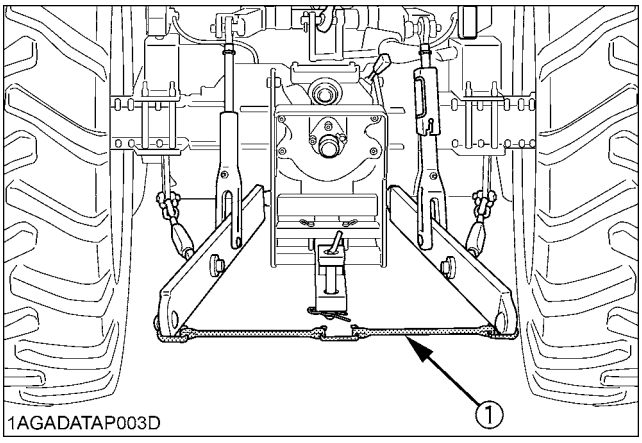
作業機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ，ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に ５～６ ㎝ 動く程度
ロータリ，モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める



①ターンバックル
②ロックナット

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振止めゴムをしてください。



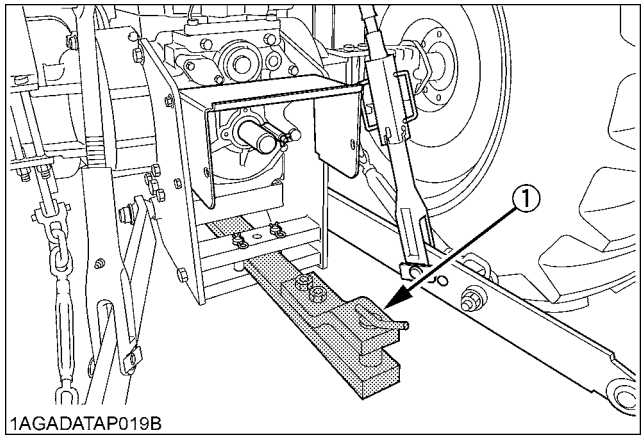
①振止めゴム

けん引ヒッチ（ドローバ）

警 告

＊ けん引作業をするときは，必ずけん引ヒッチ（ドローバ）を使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 三点リンクに取付け，PTO 軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチ（ドローバ）を外してください。そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチ（ドローバ）に当って破損し，事故を起こすおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



①けん引ヒッチ（ドローバ）

PTO

■ PTO クラッチコントロールレバー

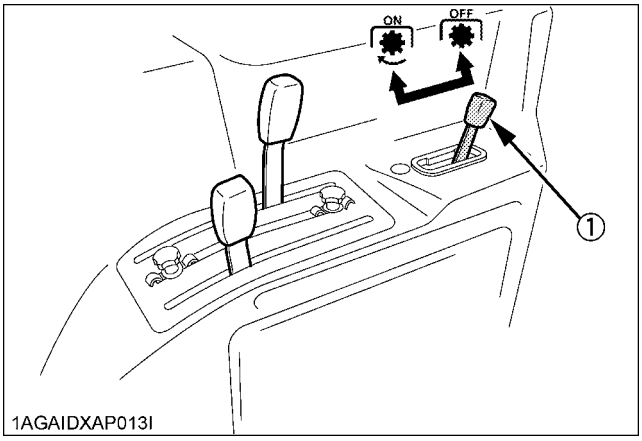
注 意

＊ 走行クラッチを踏んだだけでは PTO は止まりません。
PTO を止めるには，PTO クラッチコントロールレバーを［OFF］（切）にしてください。

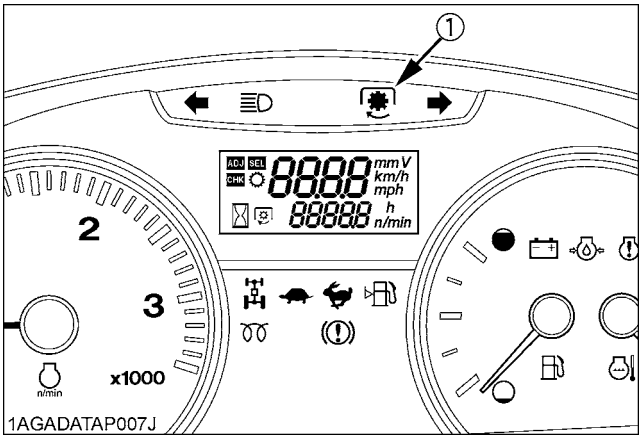
走行に関係なくPTOクラッチコントロールレバーを**［入］**にすると，メータパネル内の PTO ランプが点灯し，PTO クラッチが接続されます。

補 足

＊ PTO クラッチコントロールレバーが**［切］**の位置でないとエンジンが始動できません。



① PTO クラッチコントロールレバー　ON “入”　OFF “切”



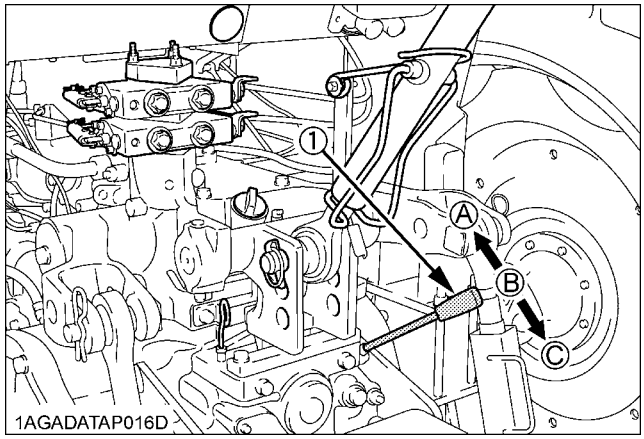
① PTO ランプ

■ PTO 変速レバー

注 意

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，２段階に変速できます。
変速操作時は，必ず PTO クラッチコントロールレバーを切ってから行なってください。

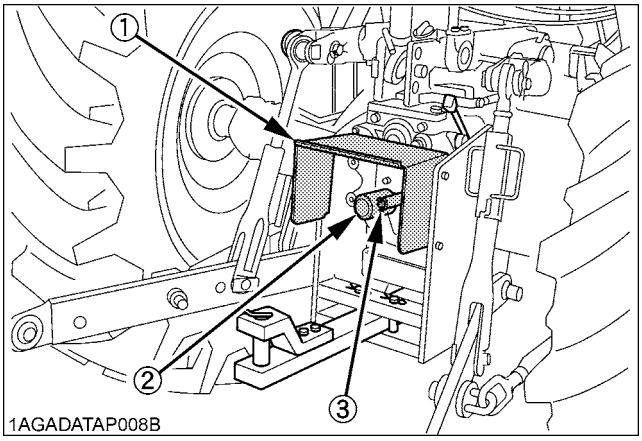


① PTO 変速レバー　Ⓐ“1000rpm”　Ⓑ“中立”　Ⓒ“540rpm”

■ PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ

注 意

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊ PTO 軸カバーは常に取付けておいてください。
＊ PTO 軸カバーの上に乗らないでください。



① PTO 軸カバー
② PTO 軸キャップ
③蝶ボルト

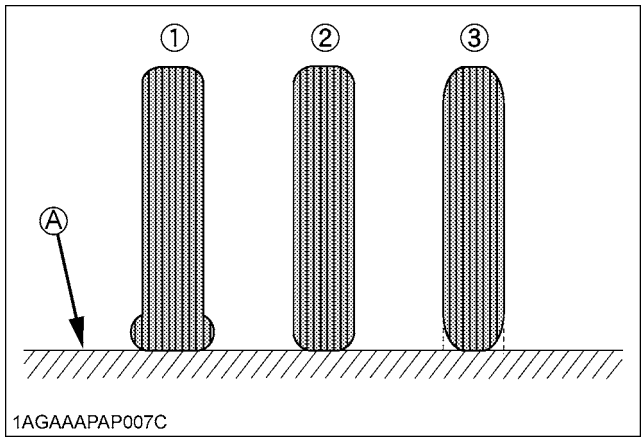
タイヤ

警 告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



①空気が不足　　**Ⓐ“接地面”**
②標準
③空気が多い

◆ 標準空気圧

［ ］内はローダ装着時

前輪 kPa（kgf/cm²）		後輪 kPa（kgf/cm²）	
11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]	13.6-38 16.9-38	160(1.6)
13.6-24	160(1.6) [180(1.8)]		

輪距の調整

注　意

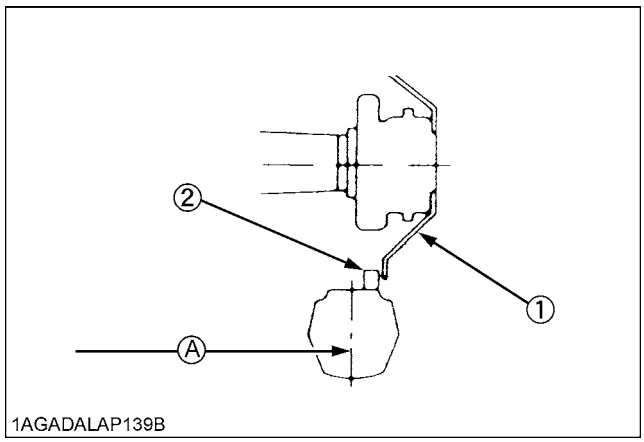
＊ けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

重　要

＊ 決められた輪距以外では使用しないでください。

■前輪

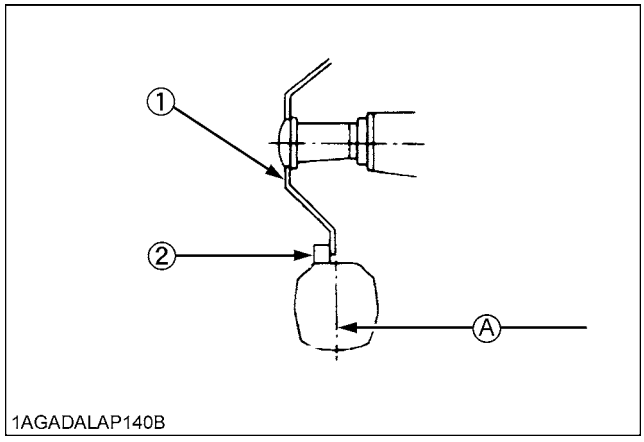
リムとディスクの取付け位置変更により，2段階に変えられます。



①前輪ディスク　　Ⓐ“輪距”
②前輪リムブラケット

■後輪

リムとディスクの取付け位置変更により，輪距の調整が行なえます。（タイヤの仕様により異なります。）

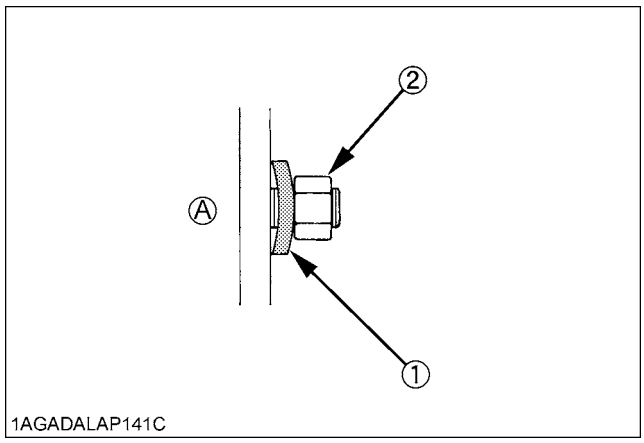


①後輪ディスク　　Ⓐ“輪距”
②後輪リムブラケット

補　足

＊ タイヤは，両側の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ 後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられます。

1. 皿バネの取付け方向にはじゅうぶん注意し，図のようにしてください。



①皿バネ　　Ⓐ“ディスク側”
②ナット

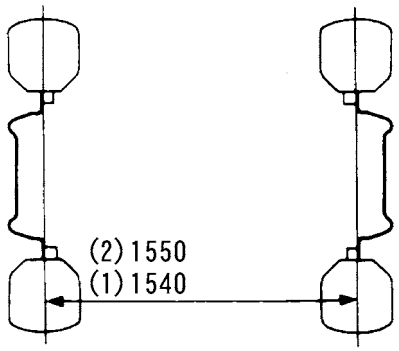
2. フロントローダ作業など重作業時，タイヤのボルト，ナットは規定トルクでじゅうぶん締めあげ，締め忘れのないよう注意してください。また，しばらく作業した後，再度トルクチェックを行ない，増し締めを行なってください。
3. ボルト，ナット，スタッド，皿バネやリム，ディスクの締付け面に油やグリースが付着していると，規定トルクまで締まりあがりませんので，シンナなどで油分をふきとってください。

■前輪輪距

バイアスタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
11.2-24	1540	輪距は (1) を参照
13.6-24	1650	輪距は (2) を参照

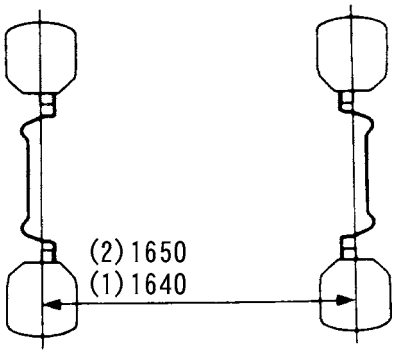
（単位 mm）

[1]



1AGADALAP190H

[2]



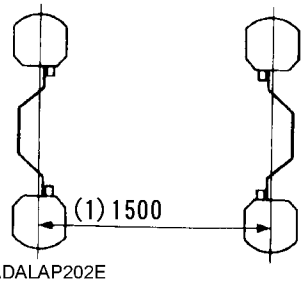
1AGADALAP191H

■後輪輪距

バイアスタイヤ	出荷時の輪距（mm）	備考
13.6-38	1500	輪距は (1) を参照
16.9-38	1600	輪距は (2) を参照

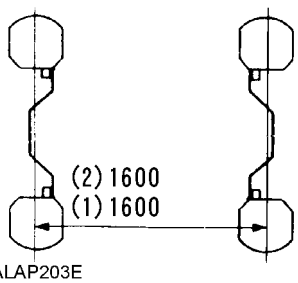
（単位 mm）

[1]



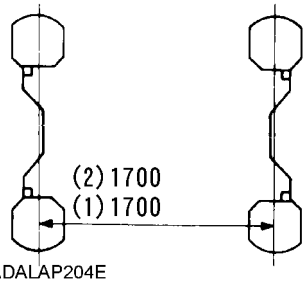
1AGADALAP202E

[2]



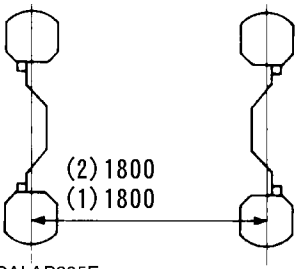
1AGADALAP203E

[3]



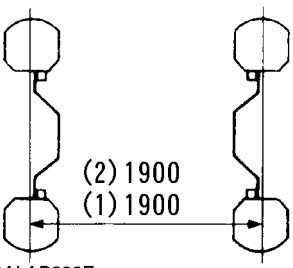
1AGADALAP204E

[4]



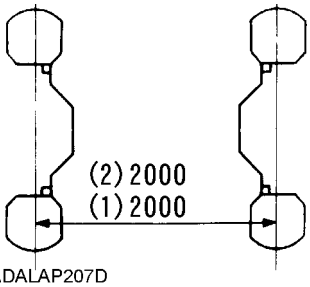
1AGADALAP205E

[5]



1AGADALAP206E

[6]

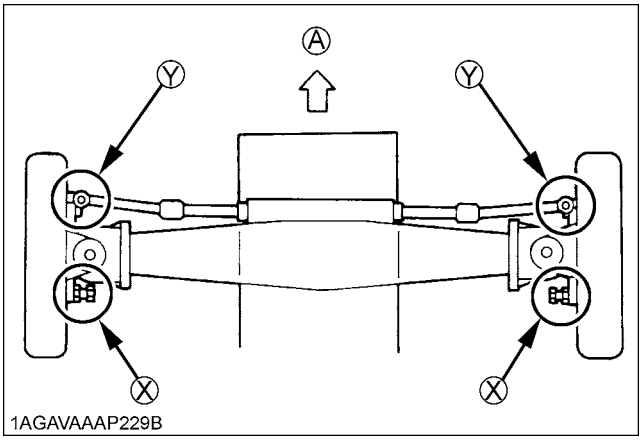


1AGADALAP207D

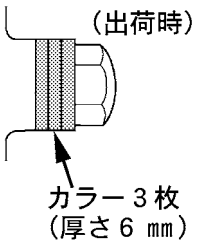
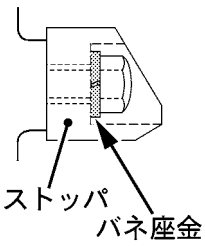
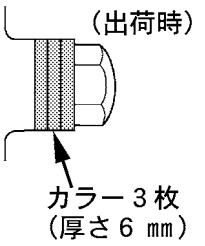
前輪切れ角の調整

■ストッパボルトの調整

前輪輪距を変更した場合，タイヤサイズにより前輪切れ角の調整が必要となります。
必ず下表に基づき，前輪切れ角の調整を行なってください。



Ⓐ“トラクタ前方”　　Ⓨ“このボルトは調整不要”

タイヤサイズ	11.2-24		13.6-24	
トレッド（mm）	1540	1640	1550	1650
Ⓧ部ボルト				

＊上の図は左側に取付けた状態です。

◆ 前輪ストッパ調整要領

1. ストッパを上の図のように取付け，ボルトを軽く締めてください。
2. エンジンを回転させステアリングハンドルを回して，ストッパを２～３回ベベルギヤーケースに接触させてください。(ストッパの接触面の位置決めをするため)
3. その後，ボルトを締込みますが，ストッパの位置がずれないようにするため，モンキーレンチでストッパの回り止めをしてからボルトを強く締込んでください。

補　足

＊ 取外したカラーやストッパは紛失しないでください。

ウエイト（別売）

注　意

＊ トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊ 装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の20％以上を確保できない作業機は装着しないでください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
＊ フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。
（詳細は購入先にご相談ください。）

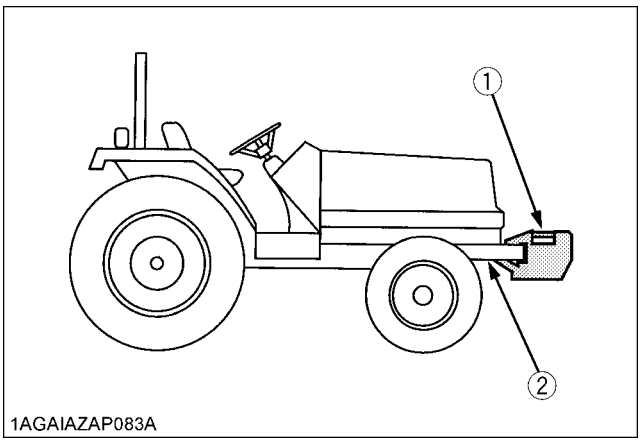
■前部ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

最大ウエイト	45kg × 10 枚



①前部ウエイト
②フロントウエイト取付台

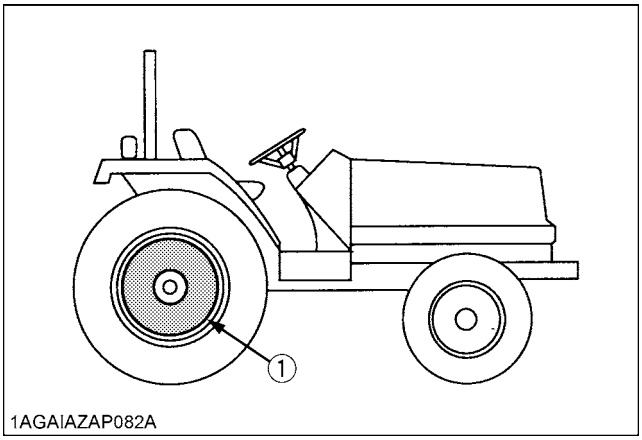
■後輪ウエイト（オプション）

ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

重　要

＊ タイヤに過負荷を加えないでください。
＊ 下表に示した以上にウエイトを追加しないでください。

最大ウエイト	50kg × 3 枚 / 片側タイヤ



①後輪ウエイト

補　足

＊ ウエイトの着脱は，オプションキット内の要領書を参照してください。

安全キャブ装備品の取扱い

ドア・窓の開閉とロック

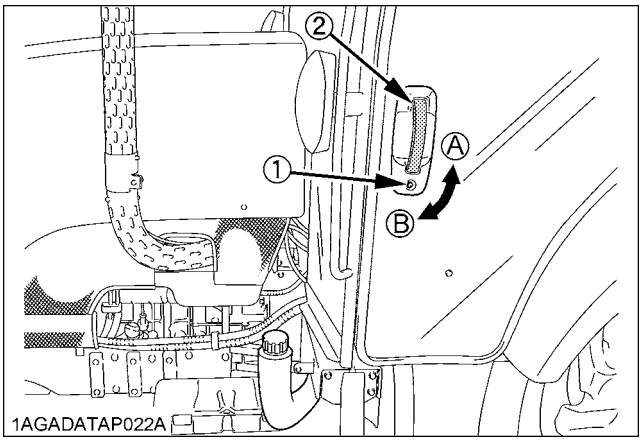
注　意

＊ リヤウインド後方で作業機を着脱・調整する場合は，リヤウインドの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）
＊ ガラスを破損させるおそれがありますので安全キャブ内には物を載せないでください。
＊ ガラスの取扱いはていねいに行なってください。

■ドア

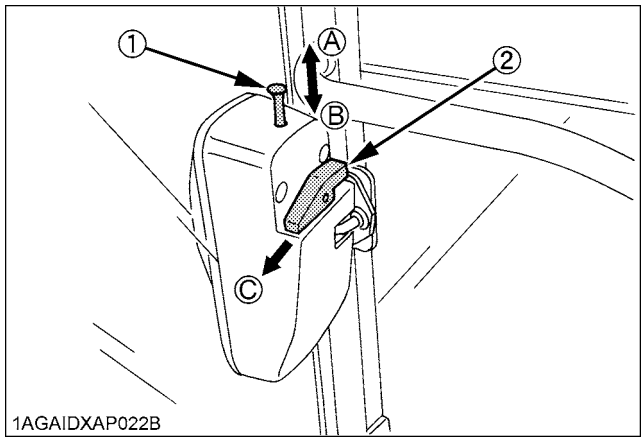
◆ ドアの開閉とロック

車外から……キーを回すと**［施錠］［解錠］**されます。ドアアウタハンドルを引き，開けます。



①ドアキー　　**Ⓐ“施錠”**
②ドアアウタハンドル　　**Ⓑ“解錠”**

車内から……ロックノブを下げると**［施錠］**，上げると**［解錠］**されます。インナハンドルを引き，開けます。

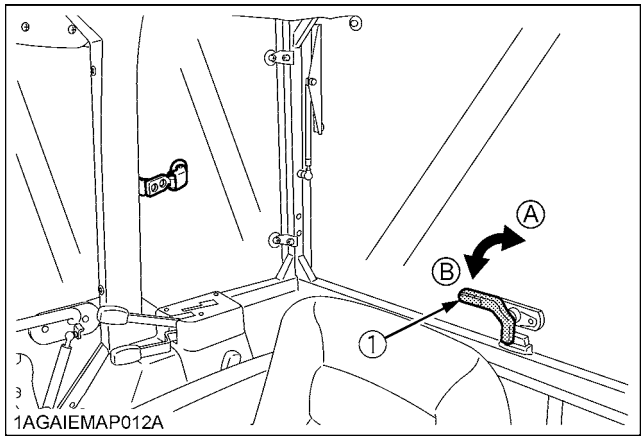


①ロックノブ　　**Ⓐ“解錠”**
②インナハンドル　　**Ⓑ“施錠”**
Ⓒ“開く”

補　足

＊ ドアにぶらさがったり，作動範囲以上に無理に押し開かないでください。

■リヤウインド
リヤウインドハンドルを時計方向に回し，そのまま押すと，ダンパの作用で容易に開くことができます。

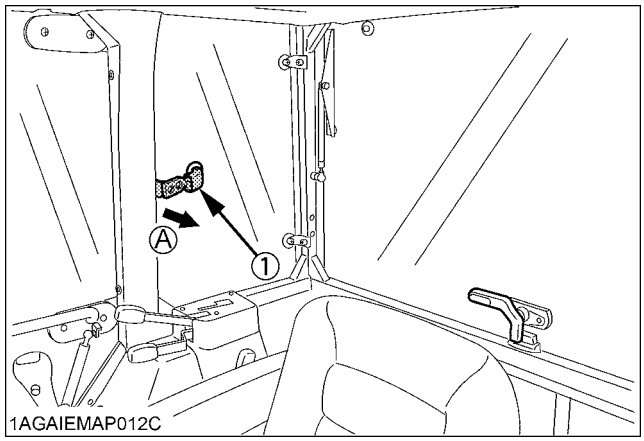


①リヤウインドハンドル　Ⓐ“開”　Ⓑ“閉”

重　要

＊ 作業機によってはリヤウインドの開閉ができない場合がありますので，開閉するときにはじゅうぶん確認して行なってください。
＊ リヤウインドを開放したままで，作業機を上げるとリヤウインドを破損するおそれがありますので，作業機を上げるときには安全をじゅうぶん確認してください。
＊ リヤウインドを開放したままで，高速走行や悪路走行をしないでください。

■クォータウインド
止め金具を手前に引き，ガラスと共に外側へ押すと開きます。



①止め金具　Ⓐ“引く”

重　要

＊ クォータウインドを開放したままで，悪路走行をしないでください。

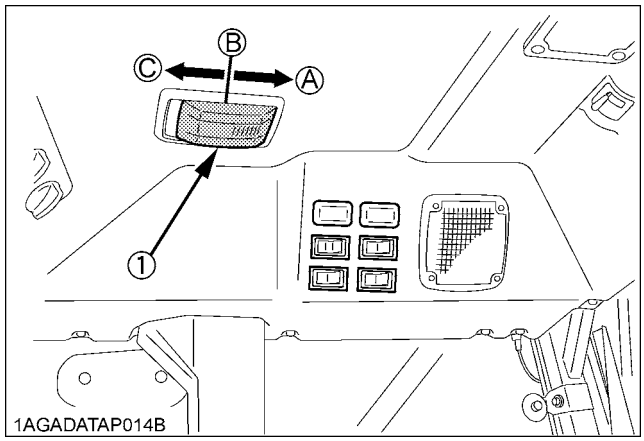
ルームランプ

■ルームランプ
ルームランプカバーをスライドさせることにより，スイッチが作動します。

[OFF] ･･･ 常時消灯。ドアを開けてもランプは点灯しません。

[•] ････ 左ドアを開けるとランプが点灯し，閉めるとランプは消灯します。

[ON] ････ ドアの開閉に関係なく，ランプが点灯します。



①ルームランプ　Ⓐ“OFF”　Ⓑ“・”　Ⓒ“ON”

ワイパ

■フロントワイパ・ウォッシャスイッチ

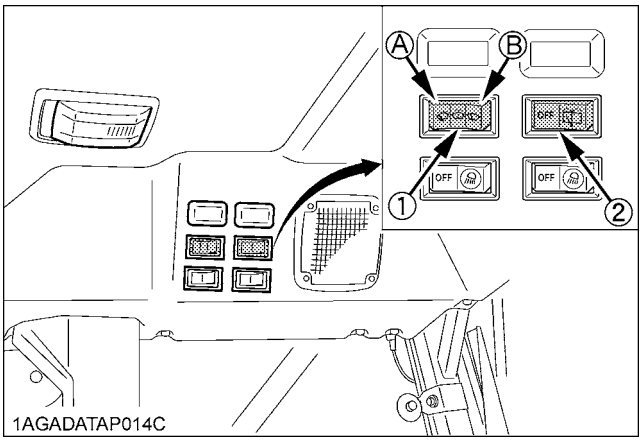
1. スイッチの右側を１段押すとワイパが作動します。さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの左側を１段押すと，間欠ワイパが作動します。（少雨時使用）
   さらに２段目を押すと，押している間のみワイパが作動したまま，ウォッシャ液が噴射します。

■リヤワイパ・ウォッシャスイッチ

1. スイッチの右側を１段押すとワイパが作動します。
   さらに２段目を押すと，押している間のみ，ワイパが作動したままウォッシャ液が噴射します。
2. スイッチの左側を押込むと，ウォッシャ液が噴射します。

重　要

＊ からぶきはガラスを傷つけることがあります。
必ずウォッシャ液を噴射してからワイパを作動させてください。



①フロントワイパ・ウォッシャスイッチ
②リヤワイパ・ウォッシャスイッチ
Ⓐ“間欠ワイパ・ウォッシャ”
Ⓑ“ワイパ・ウォッシャ”

■寒冷時のワイパの使用

1. 寒冷時には，ワイパブレードを立ててガラスとの氷着をさけてください。
2. ガラスに雪が積もっているときには，雪を取除いてからワイパを使用してください。
3. ワイパブレードがガラスに氷着して作動しなかったときは，必ずキースイッチを**【切】**にしてブレード部の氷を取除いてから再度起動させてください。
4. 市販の寒冷地用ワイパブレードを使用する際は，標準装着品と同サイズか，それ以下のサイズのものを使用してください。

重　要

＊ 寒冷時には，ワイパブレード及びワイパモータに過大な負担がかかることがあります。そのため，ワイパブレード及びワイパモータの故障につながるおそれがあります。このようなことをなくすため，上記のことを必ず守ってください。

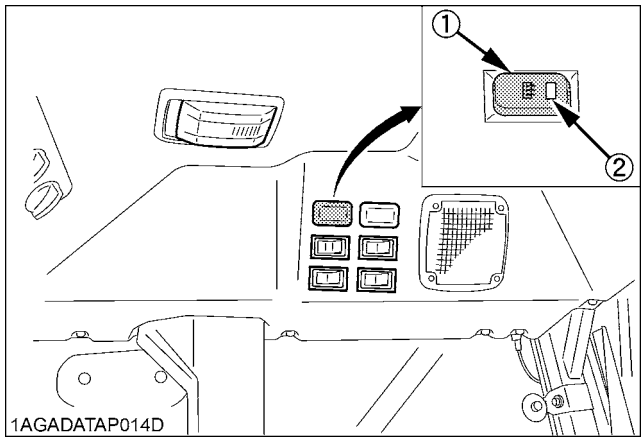
■リヤデフォッガスイッチ（熱線リヤスイッチ）

[オプション]

リヤウインドガラスにくもりが発生したとき，スイッチを押すとスイッチランプが点灯し，ガラスのくもりがとれます。
熱線は約 15 分間通電後，自動的に切れます。
手動で切りたいときは，再度スイッチを押してください。スイッチランプが消灯し，スイッチが切れます。

重　要

＊ 熱線に荷物などが当たらないようにしてください。



①リヤデフォッガスイッチ
②スイッチランプ

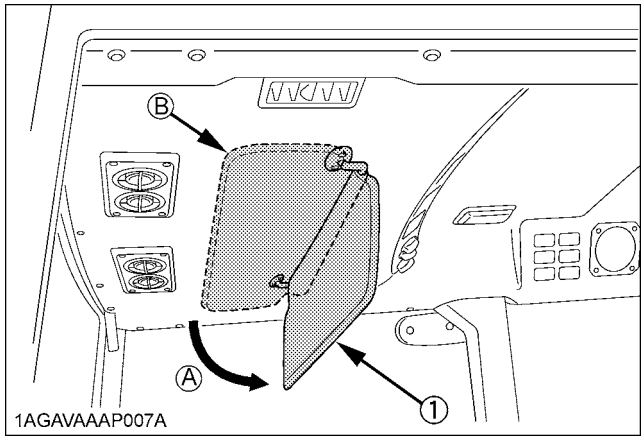
その他のアクセサリ

■サンバイザ

注 意

＊ サンバイザを適切な位置で使用しないと，前方視界がさえぎられたり，頭にあたったりするおそれがあります。
＊ サンバイザと天井の間に物をはさまないでください。発進・停止時に物が落ちるおそれがあります。

直射日光などでまぶしいときに使用します。
サンバイザは，収納位置より下げて使用してください。



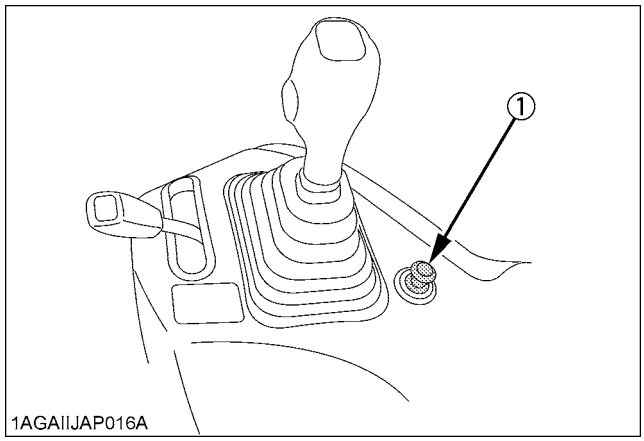
①サンバイザ　　**Ⓐ“使用位置”**
Ⓑ“収納位置”

■シガライタ

注 意

＊ シガライタの金属部には手を触れないでください。高温でヤケドをするおそれがあります。

1. シガライタはキースイッチが **[ACC]** 又は **[入]** のときに，使用できます。
2. シガライタを押し込んで手を離し，元の位置に戻るまで待った後，使用します。

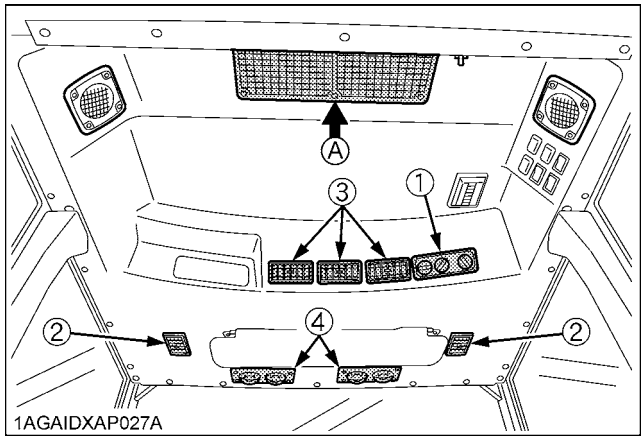


①シガライタ

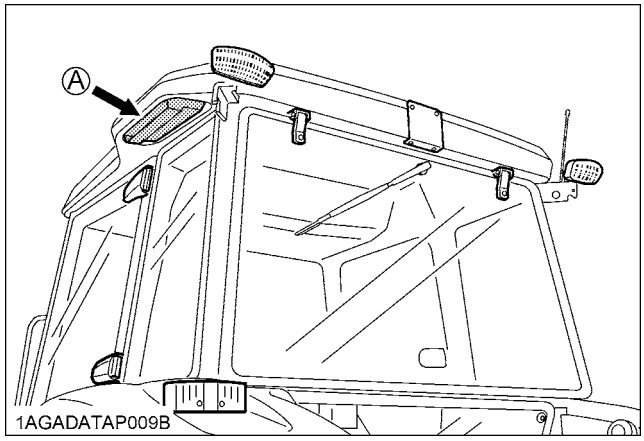
エアコン

■空気の流れ

安全キャブ内の空気の流れは下図の通りです。
９箇所の吹出口の調節により，最適のコンディションが得られます。



①コントロールパネル
②サイド（ドア）吹出口
③フェイス吹出口
④フロント吹出口
Ⓐ“内気循環導入口”



Ⓐ“外気導入口”

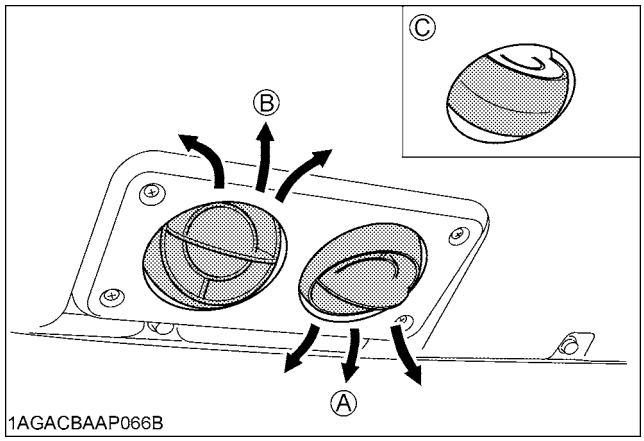
重　要

＊ 洗車時は外気導入口に，直接放水しないでください。

■風向調整

◆ フロント吹出口

風の方向は，吹出口により自由に調整できます。
デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合，吹出口をフロントガラスの方向に向けてください。



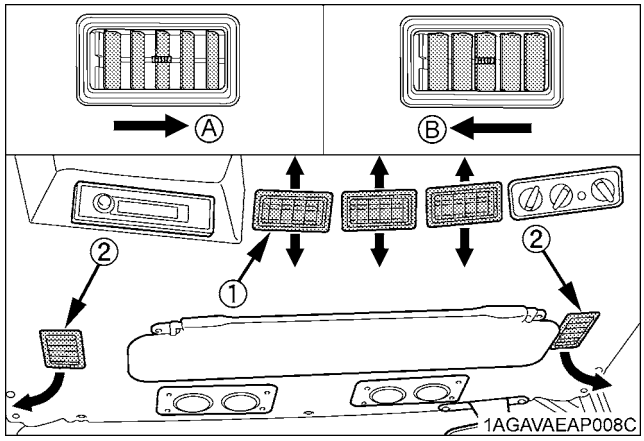
Ⓐ“フロントガラス（足元）”
Ⓑ“顔面”
Ⓒ“閉”

補　足

＊ フロント吹出口からの冷風がメータパネルに当たると，メータパネルが曇ることがあります。そのときは，吹出口の向きを変えて，メータパネルに冷風が当たらないようにしてください。

◆ フェイス吹出口
◆ サイド（ドア）吹出口

冷風の方向は，ルーバーの向きにより自由に調整できます。



①フェイス吹出口　　**Ⓐ“開”**
②サイド（ドア）吹出口　　**Ⓑ“閉”**

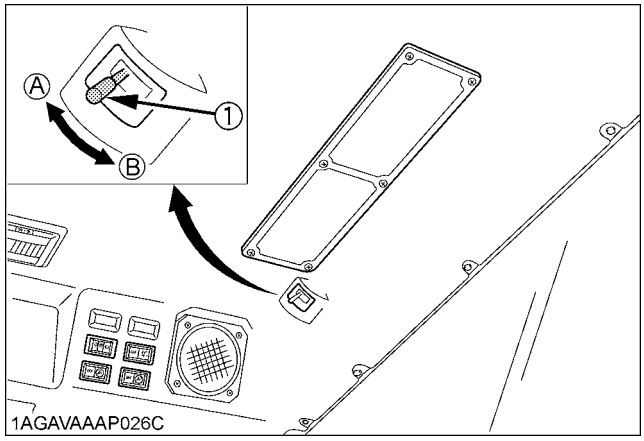
重　要

＊ 顔面や背面への風量を増したいときは，サイド吹出口（ドア）を**【閉】**にしてください。
＊ ドアのくもり止めのため，ドアへの風量を増したいときは，フェイス吹出口（顔面，背面）を**【閉】**にしてください。

◆ 内外気切換えレバー

外気導入…　レバーを**【外気】**位置にすると，安全キャブ室内に外気が入ってきます。
ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

内気循環…　レバーを**【内気】**位置にすると，外気は入りません。
早く冷暖房をきかせたいときや強くきかせたいときに使用します。

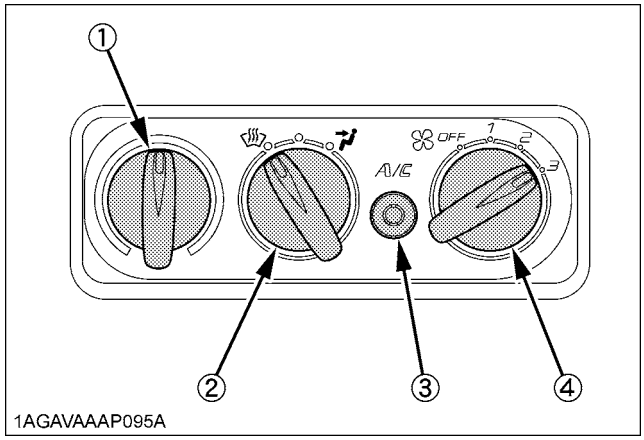


①内外気切換えレバー　　**Ⓐ“内気”**
Ⓑ“外気”

補　足

＊ 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
＊ ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

■コントロールパネルの名称と働き



①温度コントロールつまみ
②モード切換スイッチ
③エアコンスイッチ（インジケータランプ付）
④ファンスイッチ

◆ モード切換スイッチ

フェイス吹出口より風が出ます。

フロントとサイド吹出口より風が出ます。

• 中間位置にするとフロントとサイド吹出口の風が弱く，フェイス吹出口の風が強くなります。

◆ 温度コントロールつまみ

温度を調節するためのつまみです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に回すと温風，左に回すと冷風が出ます。

◆ ファンスイッチ

風量が３段階に切換えられます。**［３］**は最も風量の多い位置です。

◆ A/C エアコンスイッチ

エアコンを使うときは，このスイッチを押して**［入］**にします。**［入］**のとき，インジケータランプが点灯します。

重　要

＊ トラクタを１週間以上，長期放置後にエアコンを使うときは，エンジン回転をアイドリングしてA/Cエアコンスイッチを**［入］**にし，１分間運転してください。
エンジン回転が高いままで，A/Cエアコンスイッチを**［入］**にするとコンプレッサが故障するおそれがあります。

補　足

＊ モードの時，温度コントロールつまみを一番左に回した状態ではフェイス吹出口からも風が出ます。運転条件に応じフェイス吹出口の開閉調節を行なってください。

■操作方法

◆ 暖房

1. モード切換スイッチを又は● にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
   早く室温を上げたいときは RECIRC 内気循環にします。
3. ファンスイッチ**（１・２・３）**と温度コントロールつまみを調整し，快適な温度にします。

補　足

＊ 夏期ヒータを使用しないときは，熱気で室内温度が上昇しないように，温度コントロールつまみを**冷風**（左端）に寄せてください。

◆ 冷房・除湿暖房

1. モード切換スイッチを又は● にします。
2. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
3. エアコンスイッチを押し**［入］**にします。
4. ファンスイッチ**（１・２・３）**を作動させます。
5. 温度コントロールつまみを**冷風**又は中間位置に調整し，快適な温度にします。

◆ 頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で，温度コントロールつまみを中間位置で使用すると，顔が涼しく足元が暖かい（頭寒足熱）快適な状態が得られます。

◆ デフロスト

フロントガラスの曇り及び凍結除去するときは，

1. フロント吹出口を開き，フロントガラスの方向に向けます。
2. モード切換スイッチを にします。
3. 内外気切換えレバーを FRESH 外気導入にします。
4. ファンスイッチを**３**，温度コントロールつまみを**温風**（右端）にします。

■ヒータ使用上の注意

注　意

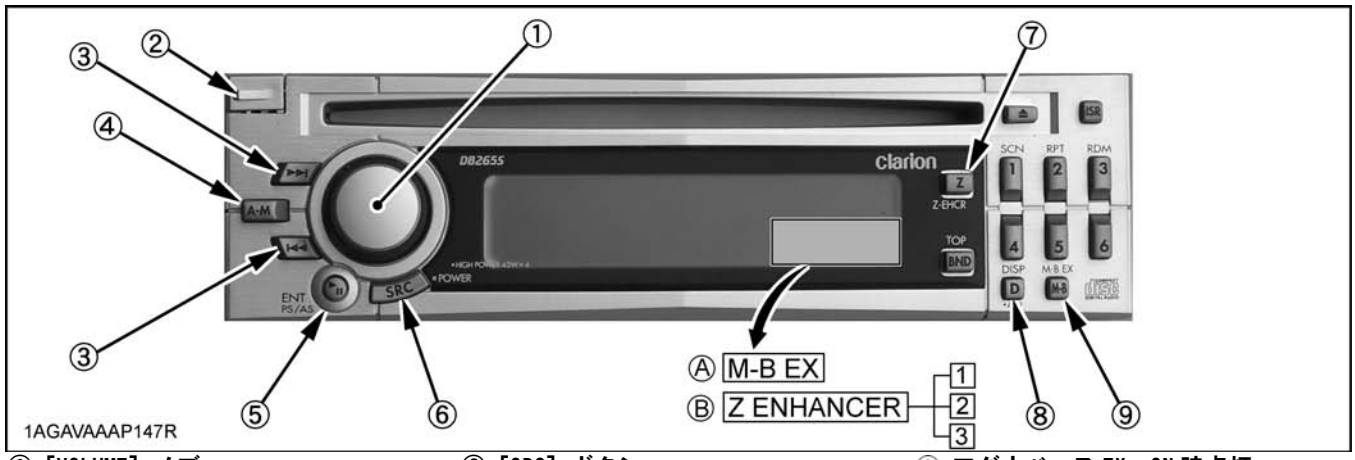
＊ ウォータホース及びヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
＊ 異常を認めたとき、修理をおこたるとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

1. 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
   また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
2. 冬期において不凍液を使用しない場合は，運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。
   (冷却水の排水のしかたは,**［２年ごとの点検・整備］**の**［冷却水の交換］**の項を参照してください。)
3. ウォータホースは２シーズンごとに交換を受けてください。
4. 日常点検
   次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。
   (ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)

＊ ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ,
＊ ウォータホースジョイント部の水漏れ
＊ ウォータホースの保護ブッシュ及びグロメットの外れ，破損
＊ 本体取付けボルトの緩み，ブラケットの破損

AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ

■共通部の操作のしかた



① [VOLUME] ノブ
② リリースボタン
③ サーチボタン
④ [A-M] ボタン
⑤ プレイ / ポーズボタン
⑥ [SRC] ボタン
⑦ [Z] ボタン
⑧ [D] ボタン
⑨ [M-B] ボタン
Ⓐ マグナベース EX　ON 時点灯
Ⓑ Z エンハンサーインジケータ

◆ 電源の入／切

1. **[SRC]** ボタンを押すと電源が入り，前回電源を切ったときのソースで始まります。
2. **[SRC]** ボタンを押すたびに，ラジオと CD が交互に切換わります。CD が入っていないときには，**[NO DISC]** と表示されます。
3. **[SRC]** ボタンを約 1 秒間押すとラジオ又は CD への電源が切れます。

補　足

＊ 電源が **[切]** 状態でも，キースイッチが **[ON]** または **[ACC]** 位置では，時計が表示されます。(時刻の設定は **[時計合わせ]** の項を参照)

◆ 音量調節

[VOLUME] ノブを左右に調節します。
右へ回すと大きくなり，左へ回すと小さくなります。

補　足

＊ 調節時はディスプレイに音量値が **[VOLUME 0]** ～ **[VOLUME 33]** の範囲内で表示されます。

◆ リリースボタン

このボタンを押すと操作パネルが外れます。
操作パネルは衝撃に弱いため，必要以上には取り外さないでください。また，頭上にあるので落さないように注意してください。

◆ 音質調整

音質自動ワンタッチ設定

[Z] ボタンを押すごとにインジケータ表示が下記のように切換わります。お好みの音質を設定してください。

インジケータ	備　考
Z ENHANCER 1	低音を重視したサウンド
Z ENHANCER 2	高音を重視したサウンド
Z ENHANCER 3	低音と高音を重視したサウンド
消灯 (OFF)	初期設定

◆ 音質手動設定

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BASS]** または **[TREB]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回し調節します。
右へ回すと強調され，左へ回すと減衰されます。（調整範囲は，－７～＋７です。）

4. **[A-M]**ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音質は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。

◆ 重低音の増強

[M-B]ボタンを押すと，マグナ・ベース EX（MAGNA BASS EX）が ON になり，重低音が増強されます。**[M-B]** ボタンを再度押すと，マグナ・ベース EX 機能が解除されます。

◆ 時計表示への切換え

[D]ボタンを押すごとに下記のように表示が切換わります。

ラジオモードの場合

	表示例
周波数表示	FM 1 83.00
時間表示	AM 10:05

CD モードの場合

	表示例
演奏状態表示	TO 1 00:01
時間表示	PM 10:05

補　足

＊ 常に時計を表示させるには，スクリーンセーバー機能を **[SS OFF]** に設定します。
（**[スクリーンセーバーの設定]** の項を参照）
＊ 時計表示のときは，ラジオの選局や CD の選曲などのボタン操作時に，受信周波数やトラック No. などを表示した後，元の時計表示に戻ります。

◆ 時計合わせ

1. キースイッチを **[ACC]** 又は **[ON]** にします。
2. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
3. サーチボタンを押して，**[CLOCK<E>]** を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを押します。
   調整時点（**[AM 10:16]** など）の時刻を表示して，時刻設定モードになります。
5. サーチボタンを押して，「時」または「分」を選択します。
   点滅している項目が調整できます。
6. **[VOLUME]** ノブを回して，時刻を合わせます。
7. プレイ / ポーズボタンを押すと設定が完了します。

補　足

＊ 時計は 12 時間表示です。
＊ 時刻を合わせる途中で他のボタンを操作すると，時刻調整は解除されます。

◆ 左右スピーカの音量バランス調整

1. **[Z]** ボタンを押し，Z ENHANCER を **[OFF]**（消灯）にする。
2. **[A-M]** ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイ表示が切換わります。

ディスプレイ	備　考
BASS	低音部調整
TREB	高音部調整
BAL	左右スピーカの調整
FAD	—
消灯	元のソース

3. **[BAL]** を選択し，**[VOLUME]** ノブを左右に回します。

右へ回すと右側が強調され，左へ回すと左側が強調されます。（調整範囲は，L13 ～ R13 です。）

4. **[A-M]**ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 音量は Z- エンハンサ機能が **[OFF]** のとき調整できます。
＊ FAD の調整はできません。
（出荷時の初期設定は 0 になっています。）

◆ スクリーンセーバーの設定

1. **[D]** ボタンを約 1 秒間押し，**[SCRN SVR]** を表示させる。
2. サーチボタンを押して，**[SCRN SVR]** を選択します。
3. **[VOLUME]** ノブを回して，**[SS ON]** 又は **[SS OFF]** を選択します。

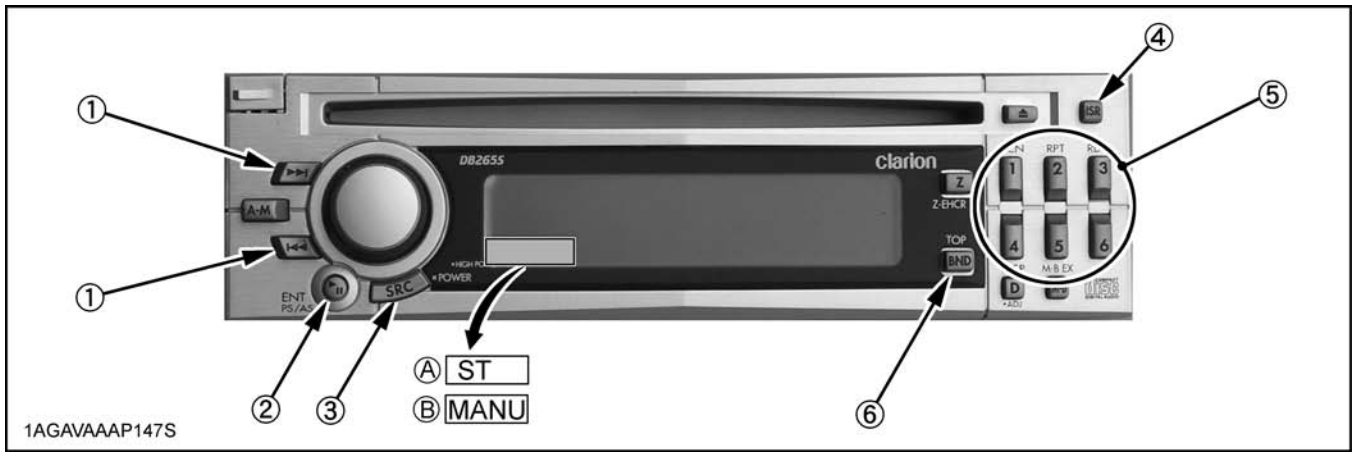
SS ON	スクリーンセーバー機能がONになります。 演奏などの状態表示で30秒間何も操作しないと，スクリーンセーバー表示になります。
SS OFF	スクリーンセーバー機能が OFF になります。

4. **[D]** ボタンを再度押すと設定が完了します。

補　足

＊ 初期設定は**【SS ON】**です。ディスプレイに演奏状態を常に表示させておきたい場合は，**【SS OFF】**に設定しておいてください。

■ラジオを聴くには



① サーチボタン
② プレイ / ポーズボタン
③［SRC］ボタン
④［ISR］ボタン
⑤ ダイレクトボタン
⑥［BND］ボタン
Ⓐ ST：ステレオ放送受信時に点灯
Ⓑ MANU：手動選局モード時点灯

◆ ラジオの選択

1. **【SRC】**ボタンを押すと受信バンドと受信周波数（**【FM1 83.00】**など）を表示して，ラジオが選択されます。

補　足

＊ **【SRC】**ボタンを押すたびに，ラジオと CD が切換わります。

◆ 受信バンドの選択

1. **【BND】**ボタンを押すごとに下記のようにディスプレイが切換わります。
お好みのバンドを選択してください。

FM1 → FM2 → AM1 → AM2

◆ クイック選局（ISR 機能）

ISR 機能とはどのソースからでもすぐに，特定の放送局を呼び出す機能です。
交通情報など，運転中に聴きたい情報などをすばやく選局できます。

1. **【ISR】**ボタンを押すと，ディスプレイに**【ISR 1620】**が表示されます。
2. **【ISR】**ボタン又は**【SRC】**ボタンを押すと，元のソースに戻ります。

補　足

＊ 初期設定では，AM1620kHz の交通情報が登録されています。

登録のしかた

登録させたい放送局を選局し，**【ISR】**ボタンを約２秒間押すと登録されます。

◆ プリセット選局

あらかじめ自動又は手動でメモリ登録しておくと，ダイレクトボタン（１～６）を押すだけで選局できます。（登録のしかたは**【メモリ登録（自動選局）】**又は**【メモリ登録（手動選局）】**の項を参照）

◆ メモリ登録（自動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに６局ずつ，計 24 局です。

3. **【BND】**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
4. プレイ / ポーズボタンを約２秒間押します。受信電波の強い放送局が自動的にダイレクトボタン（１～６）に登録されます。

補　足

＊ 電波の弱い場所では６局すべて登録されない場合もあります。

◆ メモリ登録（手動選局）

登録できる数は FM1，FM2，AM1，AM2 の各バンドごとに 6 局ずつ，計 24 局です。

1. **【BND】**ボタンでメモリ登録させたいバンド（FM1，FM2 または AM1，AM2）を選択します。
2. サーチボタンを押して登録させたい放送局を選択します。
3. 登録させたいダイレクトボタン（1～6）を約 2 秒間押すと登録されます。

◆ メモリ登録の確認

プレイ / ポーズボタンを押すと，登録された放送局を順に受信します。
プレイ / ポーズボタンを再度押すと解除されます。

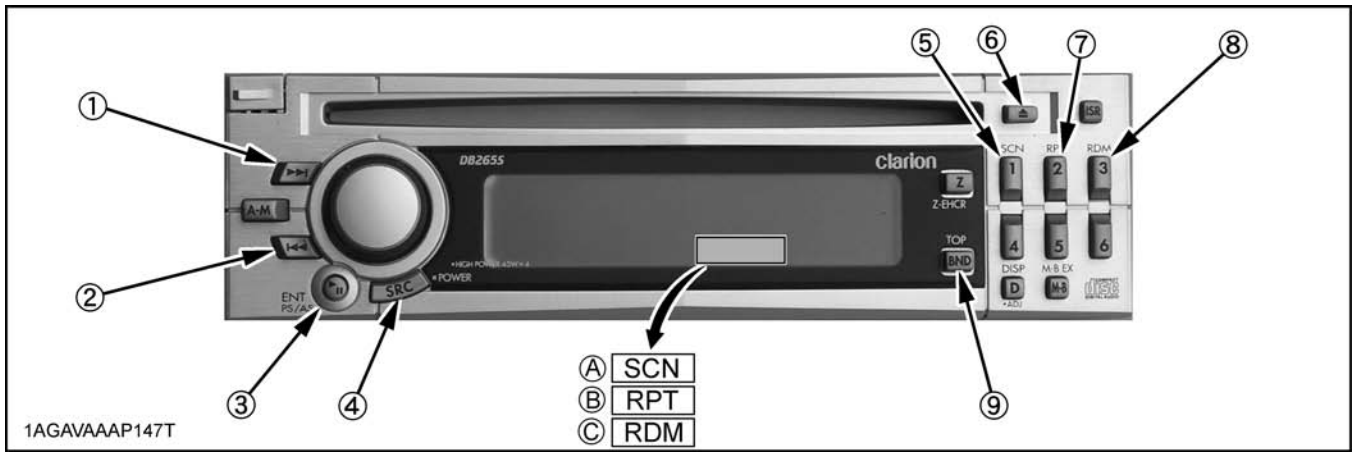
◆ 自動選局

1. ディスプレイに **【MANU】**が点灯しているときは，**【BND】**ボタンを約 1 秒間押し消灯させます。（消灯時のみ自動選局できます。）
2. サーチボタンを押します。
3. 放送のあるところで自動的に選局が止まります。他を選局したいときは，再度ボタンを押してください。

◆ 手動選局

1. ディスプレイに **【MANU】**が消灯しているときは，**【BND】**ボタンを約 1 秒間押し点灯させます。（点灯時のみ手動選局できます。）
2. サーチボタンを押して，放送のあるところに合わせます。

■ CD を聴くには



① **サーチボタン（上）**
② **サーチボタン（下）**
③ **プレイ / ポーズボタン**
④ **[SRC] ボタン**
⑤ **[SCN] ボタン**
⑥ **イジェクトボタン**
⑦ **[RPT] ボタン**
⑧ **[RDM] ボタン**
⑨ **[BND] ボタン**

Ⓐ **SCN：スキャン演奏時に点灯**
Ⓑ **RPT：リピート演奏時に点灯**
Ⓒ **RDM：ランダム演奏時に点灯**

◆ CD の挿入と再生

CD の挿入口に CD を入れると **【T01 00:00】**を表示し，自動的に演奏が始まります。
8cm CD のときは，CD 挿入口の中央に入れます。

すでに CD が入っている場合は，**【SRC】**ボタンを押して CD を選択すると，トラック No.（**【T01 00:00】**など）を表示し，自動的に CD の演奏が始まります。

補　足

＊ 本機は disc マーク表示のあるコンパクトディスク以外はご使用になれません。
＊ CD-R/RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。

1AGAVAAAP1530

＊ CD は印刷面を上にして入れてください。

◆ CD の取出し

イジェクトボタンを押すと CD が取出されます。

補　足

＊ CD をイジェクトしたままにしておくと，15 秒後に本機内に引き込まれます（オートリロード）。
＊ オートリロード前に無理に CD を押し込むと，CD にキズがつくおそれがあります。
＊ 8cm CD はオートリロードされません。
イジェクトした場合は，8cm CD を取出してください。

◆ 演奏の一時停止
プレイ / ポーズボタンを押すと **[PAUSE]** が表示され，演奏が一時停止します。
プレイ/ポーズボタンを再度押すと演奏が再開されます。

◆ 次の曲／前の曲選択
次の曲を聴くときは，サーチボタン（上）を押します。また押した回数だけ先の曲が演奏されます。
前の曲を聴くときは，サーチボタン（下）を 2 回押します。サーチボタン（下）を押すと，演奏中の曲を最初から演奏します。
さらに押すと，押した回数だけ前の曲が演奏されます。
曲の頭部分を演奏しているときにサーチボタン（下）を 2 回押すと，２つ前の曲へ戻ることがあります。

◆ 早送り／早戻し
早送りするときはサーチボタン（上）を押し続けます。
早戻しするときはサーチボタン（下）を押し続けます。

１秒以上押すと 5 倍速で，3 秒後には 30 倍速で，演奏曲が早送りまたは早戻しされます。

◆ トップ機能
[BND] ボタンを押すと，最初の曲（トラック No.1）から演奏されます。

◆ 曲を探す（スキャン演奏）
CD に収録されている全曲を 10 秒間ずつ演奏します。
[SCN] ボタンを押すと，ディスプレイの **[SCN]** が点灯して，スキャン演奏します。スキャン演奏は，演奏している曲の次の曲から始まります。

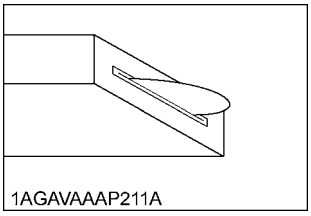
◆ 曲を繰り返し聴く（リピート演奏）
演奏中の 1 曲を繰り返し演奏します。
[RPT] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RPT]** が点灯して，リピート演奏します。

◆ ランダムに演奏を聴く（ランダム演奏）
CD に収録されている全曲を順不同に演奏します。
[RDM] ボタンを押すと，ディスプレイの **[RDM]** が点灯して，ランダム演奏します。

■取扱い上の注意

注 意

＊ 運転中は安全のため，車外の音が聞こえる音量にしてください。
＊ CD が落下して頭にあたったりするおそれがあるので，下図の状態で放置しないでください。


1AGAVAAAP211A

1. disc マークのついた CD をご使用ください。
   また，ハート形や八角形など，特殊形状の CD は使用しないでください。
   CD-R/CD-RW で記録されたディスクは，使用できない場合があります。
   CD が曇っているときは，やわらかい布でふいてください。
2. 本機はシステム保護のため，各種の自己診断機能を備えています。ディスプレイにエラーが表示されたときには，**[不調と処置]** の章の **[エラー表示について]** の項を参照して障害を取除いてください。障害を取除けば，通常の動作になります。
3. 本機は，水分や高温，多湿を嫌いますので，車内清掃や換気にじゅうぶんご注意ください。
4. 車内の温度に気をつけてください。
   極寒や酷暑のとき，とくに夏期は車内の温度が大変高くなることがありますので，車内の換気に注意し，適温で使用してください。
5. 本機操作は，安全性の面から停車中に行なってください。また運転中の音量は事故防止のため，車外の音が聞こえる程度でお楽しみください。
6. 本機のお手入れは，乾いたやわらかい布でふいてください。固い布や，ベンジン・シンナ・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また，汚れがひどい場合にはやわらかい布を水またはぬるま湯に浸し，軽くふき取ってください。

7. CD はディスク面に，傷や指紋をつけないように扱ってください。
   汚れたときは，やわらかい布で，内側から外側へ向かって，よくふいてください。
8. 8cm CD をイジェクトした状態で走行しないでください。走行中の振動により，ディスクが落下するおそれがあります。
9. CDは次のような場所には保管しないでください。
   - 直射日光のあたる場所
   - 湿気やホコリの多い場所
   - 暖房の熱が直接あたる場所
10. CD 表面にほこりが付着していると，CD の挿入や取出しができなくなることがあります。汚れた手で CD を扱ったり，ほこりが付着しやすい所に CD を放置したりしないでください。
    また，安全キャブ内にはできるだけほこりが入らないように，ドアや窓の開閉は最小限にしてください。

◆ 推奨クリーニングディスク

クラリオン製　CTC-007-210

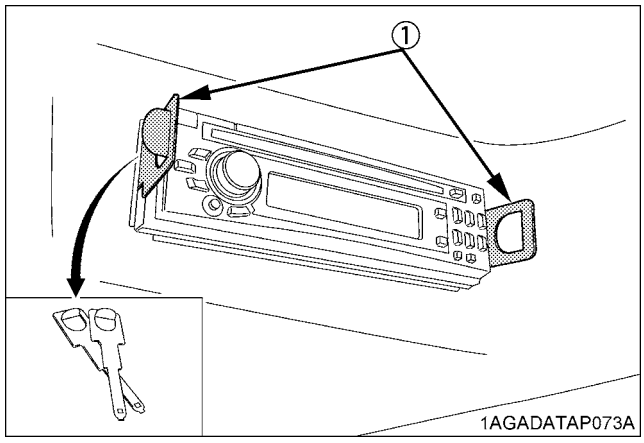
■お問合わせ

この AM/FM ラジオ付 CD プレーヤの取扱いに関するお問合わせは，下記メーカ窓口でもご相談いただけます。
なお，故障修理に関しては，お買上げの購入先にご相談ください。

クラリオン（株）
　お客様相談室
TEL　0120-112-140
　　（土・日・祝除く / AM9:30 ～ 12：00
　　PM1:00 ～ 5：00）

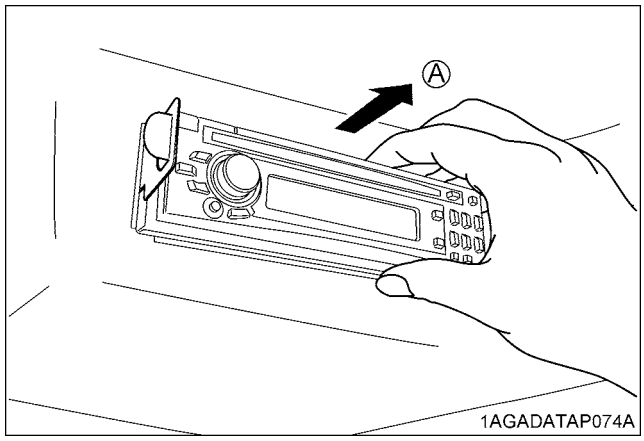
■ AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方

1. キースイッチのキーを**【切】**の位置にします。
2. 下図のようにCDプレーヤ本体横に取外し金具を差込みます。



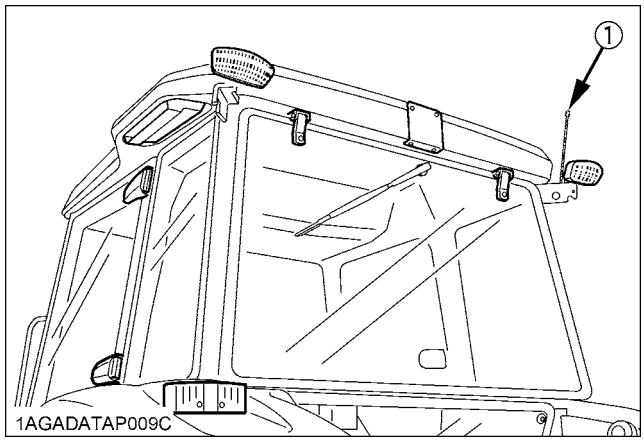
① CD プレーヤ取外し金具

3. 取外し金具を差込んだ状態で，落とさないようしっかりと握って取り外します。



Ⓐ“取外す”

■アンテナ



①アンテナ

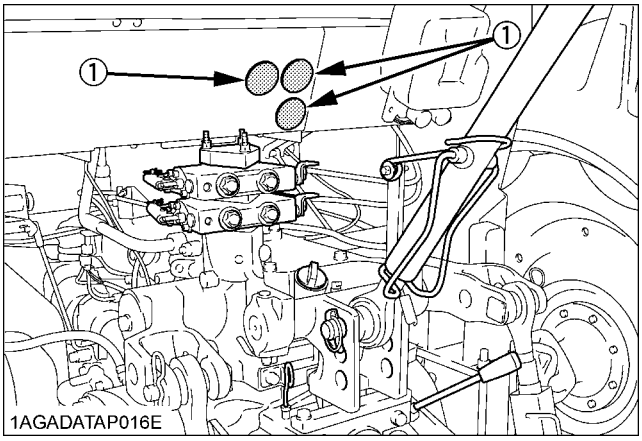
重　要

＊ アンテナは角度調節ができませんので動かさないでください。

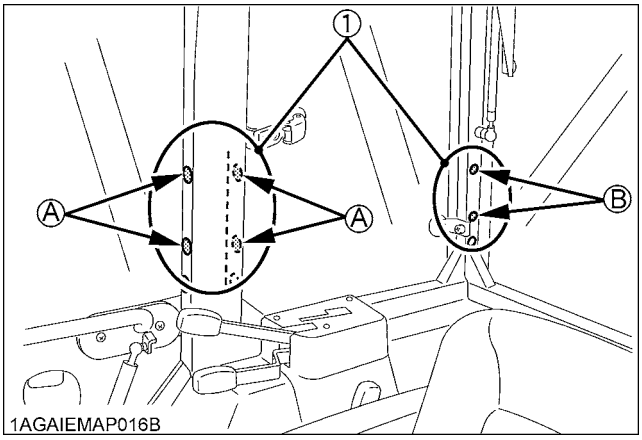
インプルメントの装着

■インプルメント用操作ボックスの取付

ゴムキャップに穴又は切り込みを開けます。インプルメント用操作コードなどを安全キャブ室内に導入してください。



①キャップ



①操作ボックス等取付け位置　Ⓐ M8 ナット（４個）
Ⓑ M6 ナット（２個）

補　足

＊ カバーの図示部に穴を開けてください。内側にナットがあります。

トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

給油及び点検整備するときは
1. トラクタを平たんな広い場所に置き
2. 作業機を降ろし
3. 駐車ブレーキをかけ
4. エンジンを止め
5. キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

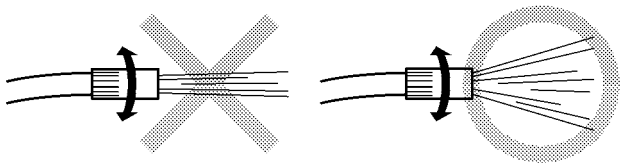
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

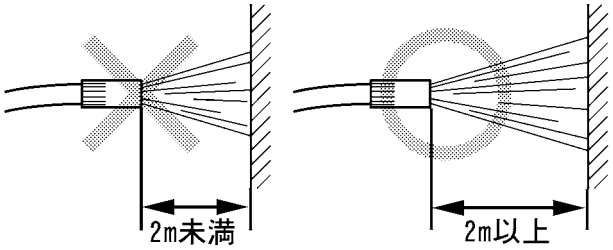
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

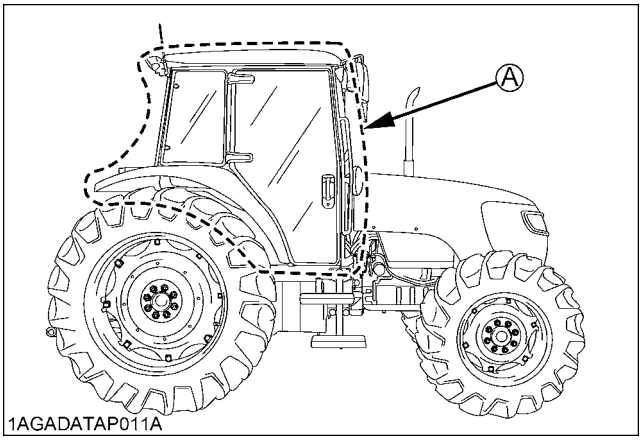
近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

重　要

＊ 安全キャブのガラス部，ルーフ部の洗車の際には，圧力水をかけないでください。(圧力を下げるか水流を広げてください。)
安全キャブ室内の水もれ，電気部品の故障の原因になります。



Ⓐ“高圧洗車禁止”

補　足

＊ 市販のワックスを樹脂部品に使用すると樹脂の変形，割れ，曇りが発生する場合があります。特にメータパネルなどの透明樹脂部にはワックスを使用しないでください。

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	交換	◎					○						○			300 時間ごと	90
2	エンジンオイルフィルタ	交換	◎											○			600 時間ごと	92
3	エンジンの始動確認	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	84
4	エンジンの排気の状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	84
5	エキゾーストパイプ及びマフラの状態	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	84
6	ミッションオイル	交換	◎											○			600 時間ごと	92
7	油圧オイルフィルタ	交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	86
8	前部デフケースオイル	交換	◎											○			600 時間ごと	93
9	前輪ケースオイル(左右)	交換	◎											○			600 時間ごと	93
10	エンジン始動システム	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	78
11	タイヤ取付けボルト	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	79
12	クラッチハウジング	水抜	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	79
13	パワーステアリングホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	79
		交換															2 年ごと	96
14	燃料ホース	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	79
		交換															2 年ごと	96
15	バッテリ電解液	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	80
16	エアクリーナエレメント アウター	清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	82
		交換															１年又は６回洗浄後	94
	インナー	交換															１年ごと	94
17	ファンベルト	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	82
18	ブレーキペダル	点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	83
19	駐車ブレーキ	調整		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	83
20	グリースの注入	—		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	83
21	トーイン，タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	86
22	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	85
		交換															2 年ごと	96
23	吸気ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	85
		交換															2 年ごと	96
24	燃料タンク	水抜				○				○				○			200 時間ごと	87
25	オイルクーラホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	85
		交換															2 年ごと	96
26	燃料フィルタ	交換								○							400 時間ごと	91
27	セパレータ	清掃								○							400 時間ごと	91
28	ブレーキオイル	交換												○			600 時間ごと	93
29	前部デフケース前後遊び	調整												○			600 時間ごと	93
30	前輪ケース回動トルク	調整												○			600 時間ごと	94
31	エンジンバルブクリアランス	点検															800 時間ごと	94
32	インジェクタ	点検															1500時間ごと	94
33	サプライポンプ	点検															3000時間ごと	94
34	ターボチャージャ	点検															3000時間ごと	94

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
35	インテークエアヒータ	点検															3000時間ごと	94
36	ラジエータ	洗浄															2年ごと	96
37	冷却水	交換															2年ごと	95
38	ブレーキホース／ブレーキタンクホース	交換															2年ごと	96
39	駐車ブレーキワイヤ	交換															2年ごと	96
40	マスタシリンダ／イコライザキット	交換															2年ごと	96
41	ブレーキシール1，2	交換															2年ごと	96
42	燃料系統の空気抜き	—															必要に応じて	96
43	ブレーキ系統の空気抜き	—															必要に応じて	97
44	ヒューズ類	交換															必要に応じて	97，98
45	ランプ類	交換															必要に応じて	99

［安全キャブ仕様］

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	内気(室内エア)フィルタ	清掃				○				○				○			200時間ごと	87
2	外気フィルタ	清掃				○				○				○			200時間ごと	88
3	エアコンコンデンサ	清掃				○				○				○			200時間ごと	89
4	エアコンベルト	調整				○				○				○			200時間ごと	89
5	エアコン配管，ホース	点検															1年ごと	94
6	ウォッシャ液	補充															必要に応じて	99
7	冷媒ガス	点検															必要に応じて	100

＊専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

No.	給油（水）項目	容　　量（L）	備　　考
1	燃　　料	190	ディーゼル軽油
2	冷　却　水 （リザーブタンク）	9.6（1.1）	清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）
3	ウォッシャ液	1.3	自動車用ウォッシャ液
4	エンジンオイル （フィルタ含む）	10.5	クボタ純オイル （詳細は次ページ参照）
5	ミッションオイル （油圧オイル）	60	クボタ純オイル スーパー UDT-2
6	ブレーキオイル （タンク・配管）	0.3	
7	前部デフケース	7	
8	前輪（ベベルギヤ） ケース左・右	各 3.5	
9	各操作レバー ・ペダル支点	注　　油	
10	三点リンク	注入・塗布	極圧（万能）グリース
11	バッテリターミナル	塗　　布	
12	ステアリングジョイント軸 前輪ケースサポート 前車軸受	注　　入	

注）グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

エンジンオイル	ミッションオイル・ブレーキオイル 前部デフケースオイル・前車軸ケースオイル
クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） スーパー CF D10W-30	クボタ純オイル スーパー UDT-2

★エンジンオイルについて
上記クボタ純オイルが入手できない場合は，API 分類 **CF** 又は **CI-4** クラスのエンジンオイルをご使用ください。CF-4，CG-4，CH-4 又は CJ-4 クラスなどのオイルは使用できません。

■グリース

極圧（万能）グリース	クボタ純グリースNo.2 ★入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 ・JX日鉱日石エネルギー:エピノックグリースAP2,リゾニックスEP2 ・コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックスNo.2 ・出光興産：ダフニーエポネックス SR2 ・昭和シェル石油：アルバニヤ EP グリース 2 ・モービル：モービラックス EP2
ホーン接点用グリース	協同油脂　マルテンプ PS2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

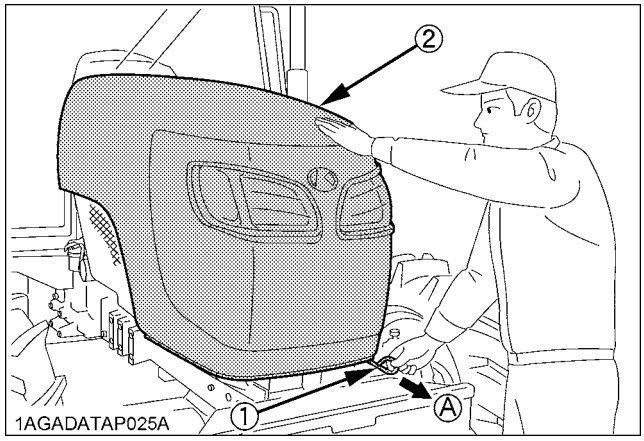
注 意

＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

◆ ボンネットの開け方

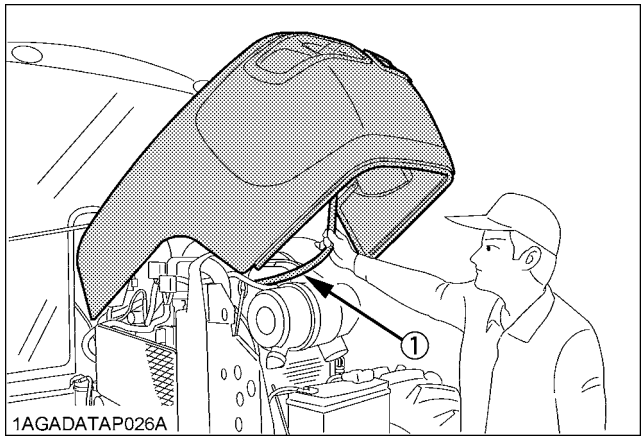
1. 片手でボンネットを軽く押えながら，ロック解除レバーを引きロックを解除します。
2. 両手でボンネットを持ち上げます。



①解除レバー　　**Ⓐ“引く”**
②ボンネット

◆ ボンネットの閉め方

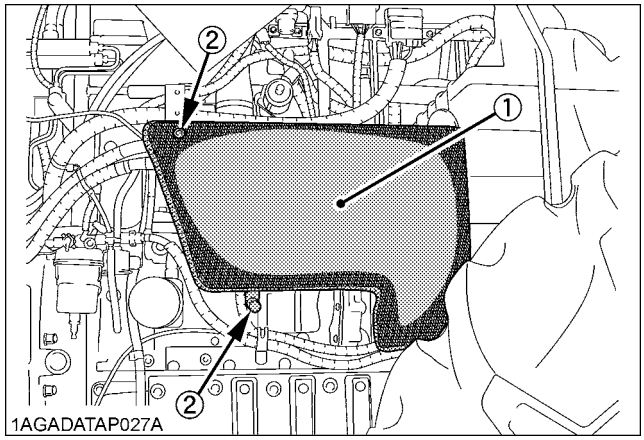
1. ストラップを引きボンネットを閉めます。
2. 両手でボンネットを上から押え，ロックします。
3. ボンネットを持ち上げロックされているか確認します。

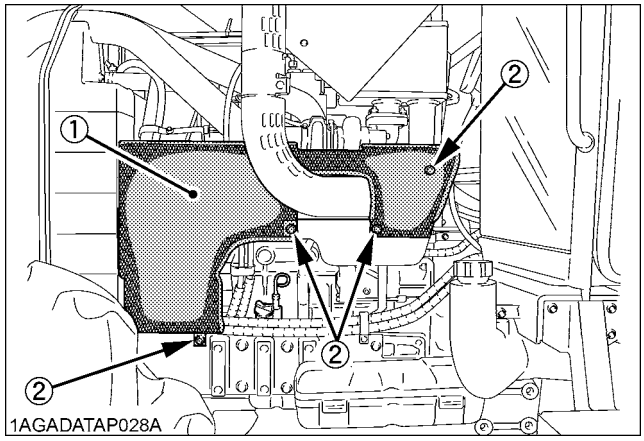


①ストラップ

■サイドカバーの取り外し

図で示すボルトを外してください。





①サイドカバー
②ボルト

日常点検

注　意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部がじゅうぶんに冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

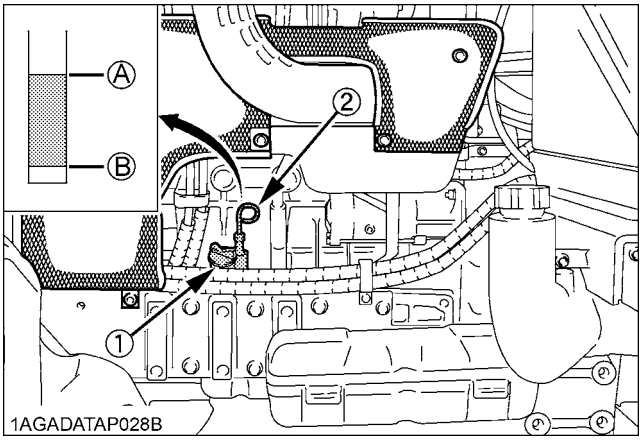
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。エンジンオイルの入れすぎは出力不足につながります。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重　要

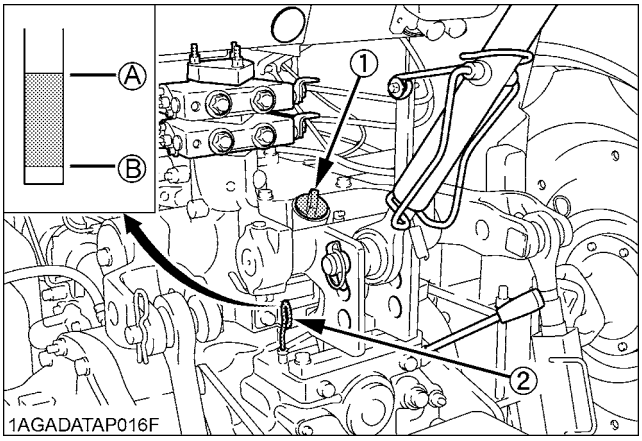
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



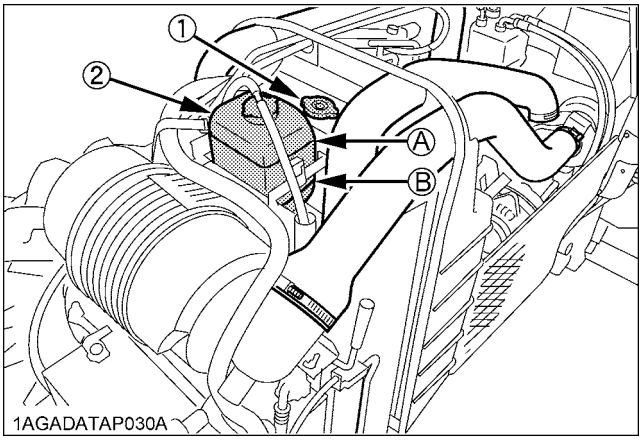
①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

■冷却水の量

注　意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。
リザーブタンクの量が LOW 以下の場合は，ラジエータキャップを外してその口元まで冷却水が入っているか確認してください。少ない場合は口元まで補給してください。



①ラジエータキャップ　　**Ⓐ“上限”［FULL］**
②リザーブタンク　　**Ⓑ“下限”［LOW］**

補　足

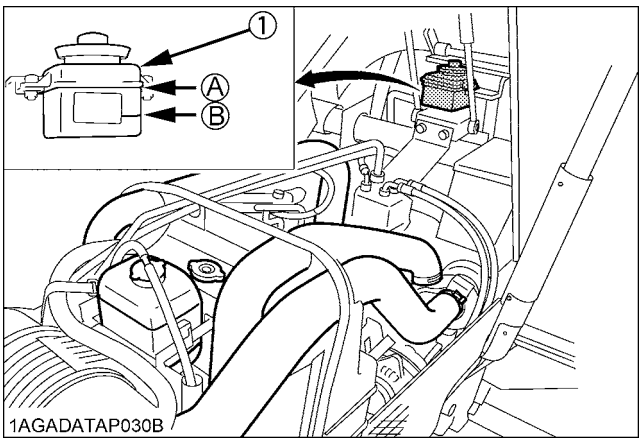
＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■ブレーキオイルの量

注 意

＊ 必ずクボタ指定のブレーキオイル（鉱物油系）を使用してください。
＊ ブレーキオイルは，必ず使用中のオイルと同じオイルを補給してください。異なるメーカや種類のオイルを補給して，混合使用は絶対にしないでください。特に市販の自動車用ブレーキオイルが混入すると，ブレーキが作動不能となるおそれがありますのでじゅうぶん注意してください。
誤って混入した場合ただちに指定のブレーキオイルで洗浄して，マスタシリンダからブレーキピストンまでのシール部品をすべて交換してください。

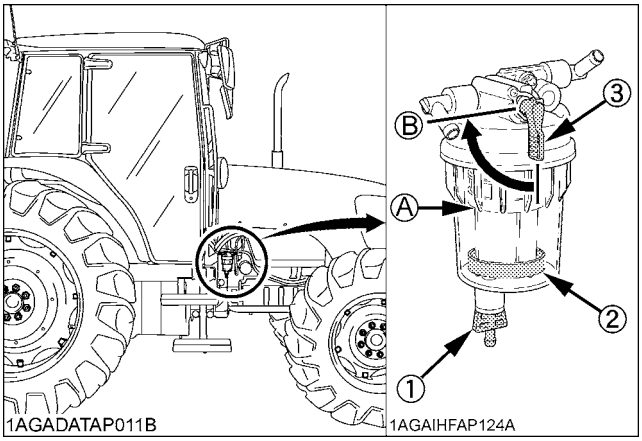
1. **[MAX]** と **[MIN]** の間に液面があるか調べます。
2. **[MIN]** 以下の場合はブレーキ系統のオイルもれを点検し，補給してください。



①ブレーキオイルタンク　**Ⓐ“MAX”**　**Ⓑ“MIN”**

■セパレータの水の排出

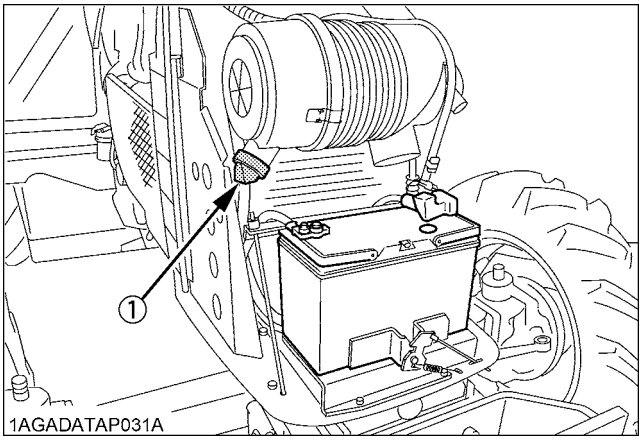
分離された水がたまると赤色のフロート（浮き輪）が浮き上がります。フロートが排出レベルに達したときは，燃料コックを閉め下部のドレーンプラグをゆるめて水を排出してください。
排出後は必ず空気抜きをしてください。
（**[必要に応じた点検・整備]** の **[燃料の空気抜きのしかた]** の項を参照）



①ドレーンプラグ　**Ⓐ“排出レベル”**
②フロート　**Ⓑ“閉”**
③燃料コック

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ごみを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点検・交換

注　意

＊ 配線の端子や接続部のゆるみ及び配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリ及び電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

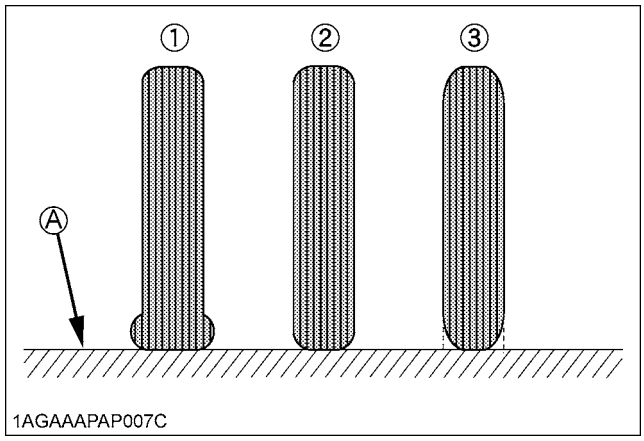
下記項目を点検してください。
1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



①空気が不足
②標準
③空気が多い
Ⓐ“接地面”

◆ 標準空気圧

［　］内はローダ装着時

前輪 kPa (kgf/cm²)		後輪 kPa (kgf/cm²)	
11.2-24	180(1.8) [200(2.0)]	13.6-38 16.9-38	160(1.6)
13.6-24	160(1.6) [180(1.8)]		

■防虫網の清掃

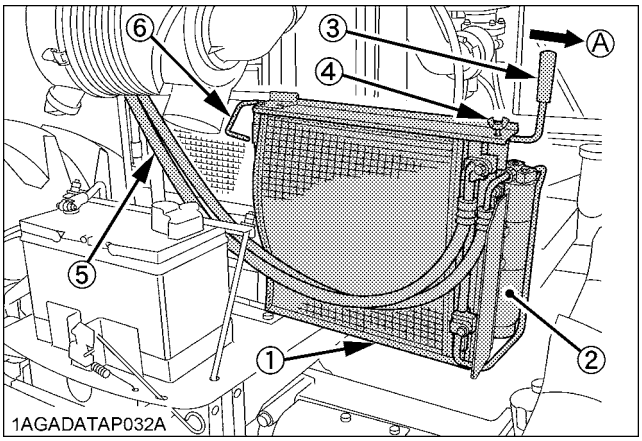
注 意

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に実や昆虫が付着し詰まることがあります。
目詰まりがないよう点検，清掃してください。

◆ エアコンコンデンサの引出し

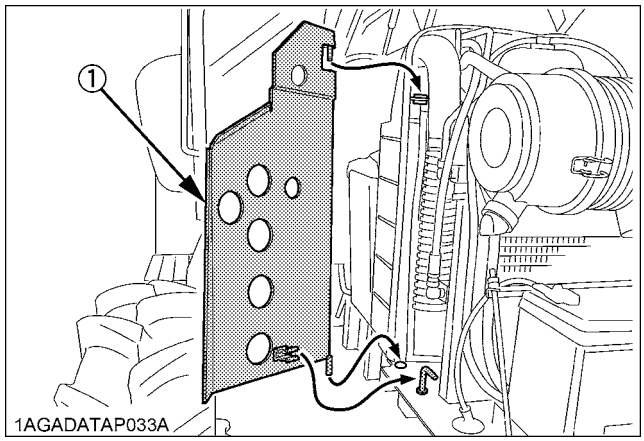
1. エアコンホースをフックより外します。
2. 蝶ナットをゆるめます。
3. ハンドルを持ち手前に引きます。



①コンデンサ
②レシーバ
③ハンドル
④蝶ナット
⑤エアコンホース
⑥フック
Ⓐ“引く”

◆ 右側パネルの開閉

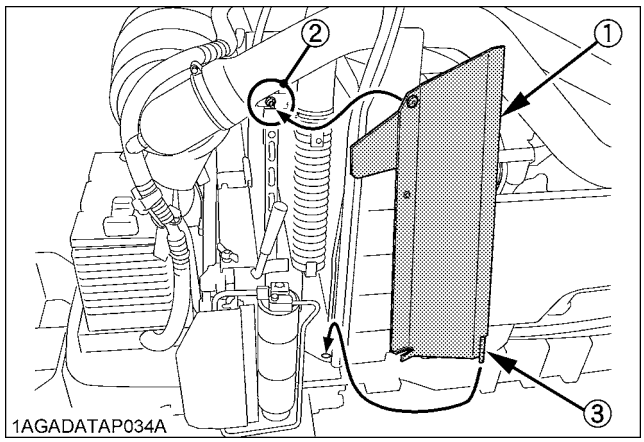
パネル前部を外方向へ引き開きます。閉める時は内側へロックされるまで押してください。



①右側パネル

◆ 左側パネルの着脱

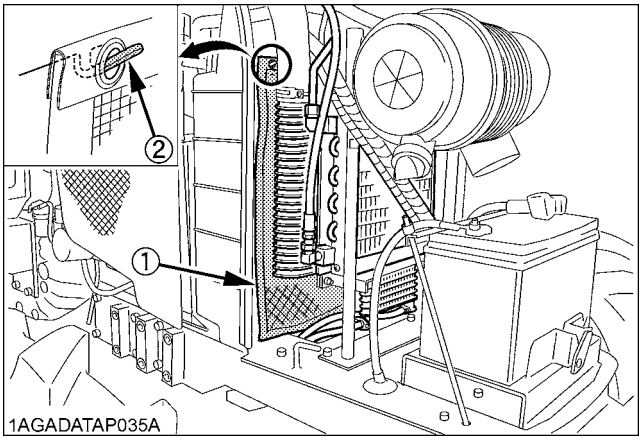
1. パネル前部を外方向へ引き開きます。
2. ピン（B）が抜けるまでパネルを引き上げ，カバーを外します。
3. 組付けは逆手順で行なってください。



①左側パネル
②ピン（A）
③ピン（B）

◆ ラジエータ用防虫網

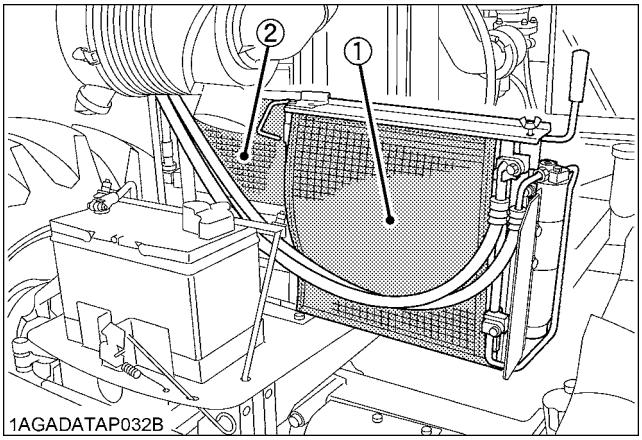
取外して清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。
清掃後は防虫網をフックに掛けてください。



①防虫網
②フック

◆ エアコンコンデンサ用防虫網
◆ オイルクーラ

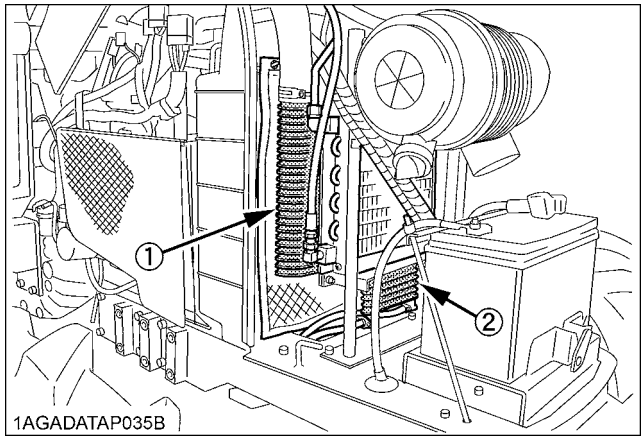
目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①防虫網（コンデンサ用）
②オイルクーラ

◆ インタクーラ
◆ 燃料クーラ

目詰まりがないよう点検清掃してください。
又，ごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①インタクーラ
②燃料クーラ

重　要

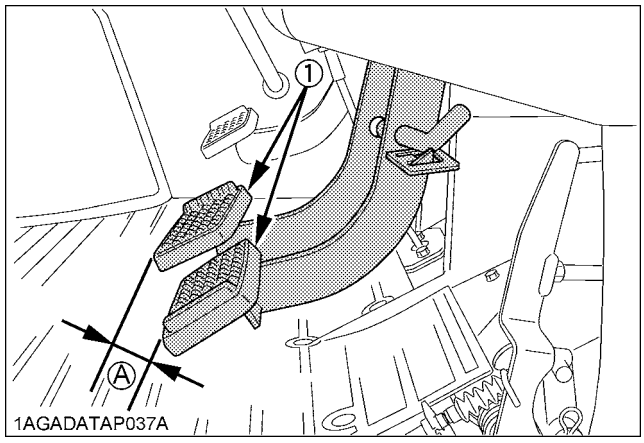
＊ 高圧洗車機を使用する場合には，ラジエータ・オイルクーラのフィンを損傷させないように，注意してください。

■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで押し，遊びの量が**［7 ～ 14mm］**かどうか調べます。
ブレーキのきき，片ぎきを調べます。



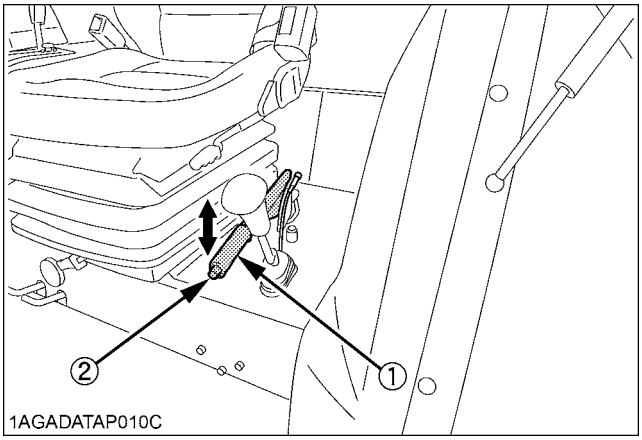
①ブレーキペダル　　Ⓐ“遊び”

■駐車ブレーキの作動点検

レバーを引くと駐車ブレーキがかかり，キースイッチ【入】の位置では，メータパネルの駐車ブレーキ警告灯(Ⓟ)が点灯します。
駐車ブレーキレバー先端のボタンを押込みレバーを下げると，ブレーキが解除されます。

補　足

＊ メータパネルの駐車ブレーキ警告灯の消灯を確認のこと。

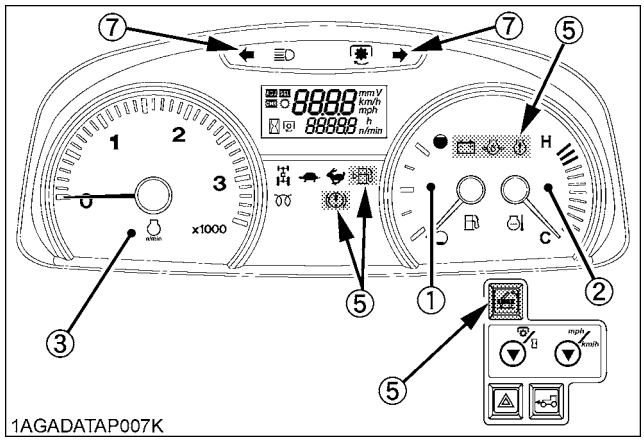


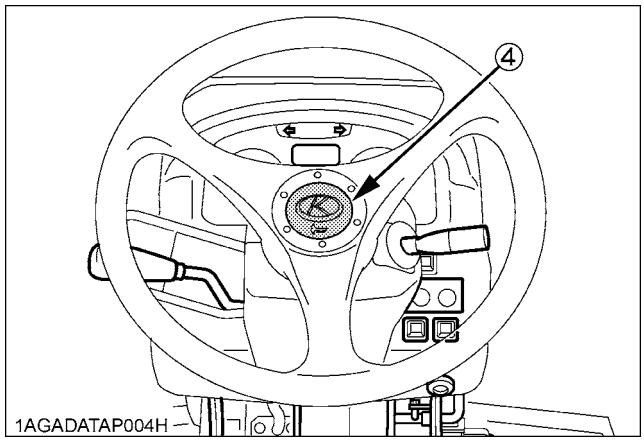
①駐車ブレーキレバー
②解除ボタン

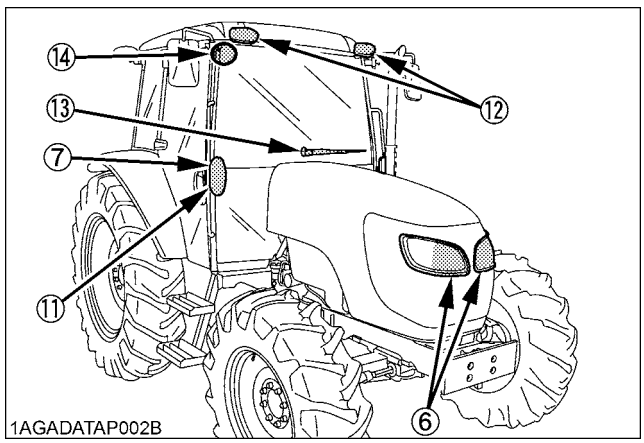
■メータ・ランプ類の作動

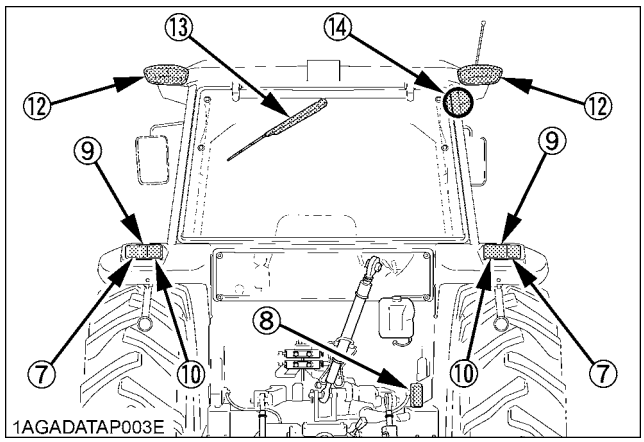
下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

① 燃料計
② 水温計
③ エンジン回転計
④ ホーン
⑤ イージーチェッカ
⑥ ヘッドライト
⑦ ウインカ（前・後）
⑧ バックランプ
⑨ 尾灯
⑩ ブレーキランプ
⑪ 車幅灯
⑫ 作業灯
⑬ ワイパ
⑭ ウォッシャ









■燃料の補給

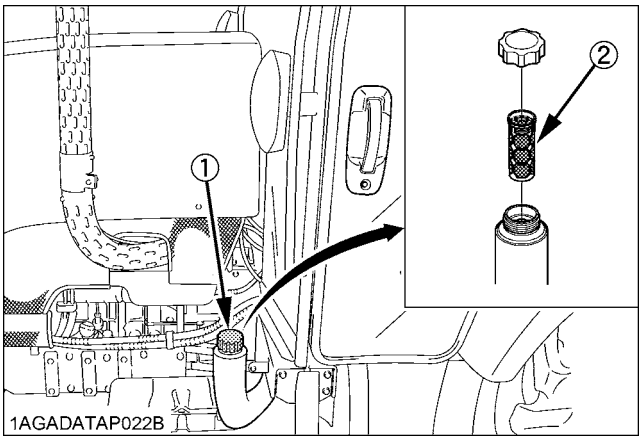
注　意

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１　号	-2.5 以下
２　号	-7.5 以下
３　号	-20 以下
特３号	-30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



①燃料給油口
②こし網

重　要

＊ コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は超精密仕上げになっています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，水や砂など異物が混入しないよう充分注意してください。
また補給時は，こし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

50 時間ごとの点検・整備

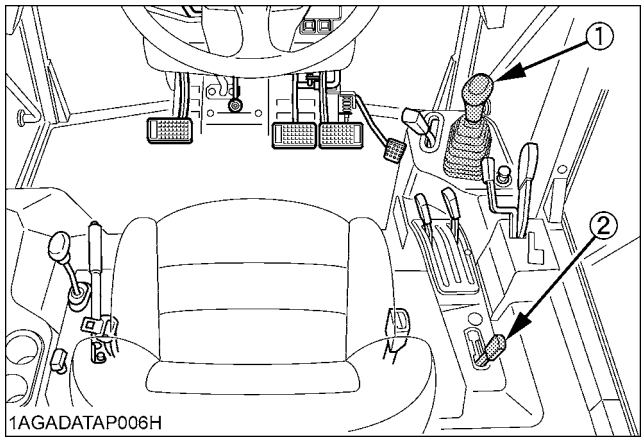
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

1. 運転席に座り，主変速レバーを**［中立］**(N)，PTO クラッチコントロールレバーを**[OFF]**(切)にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
この時，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速レバーを**［入］**又は PTO クラッチコントロールレバーを**[ON]**(入)にし，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

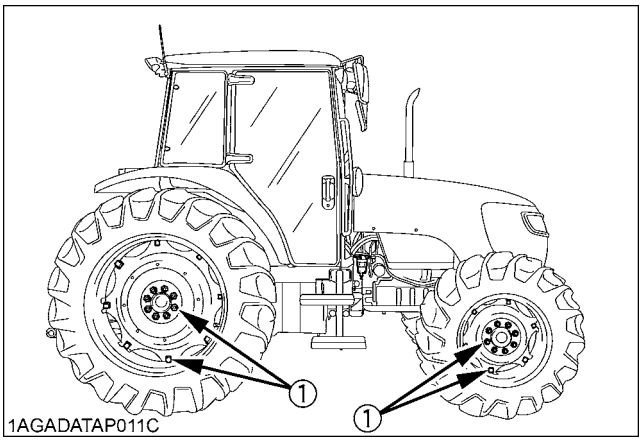


①主変速レバー
② PTO クラッチコントロールレバー

■タイヤ取付けボルトの点検

注　意

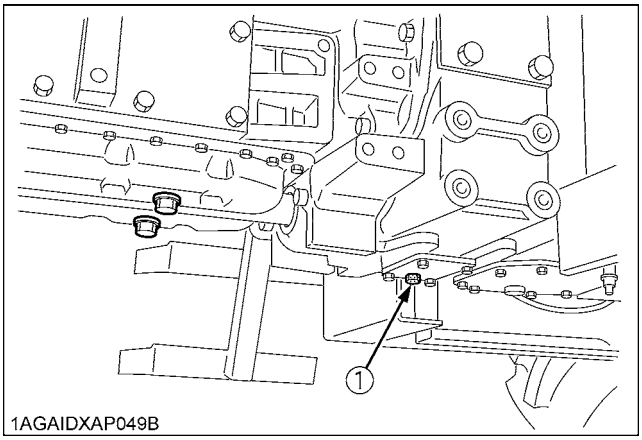
＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起こすおそれがあります。



①ボルト，ナット

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



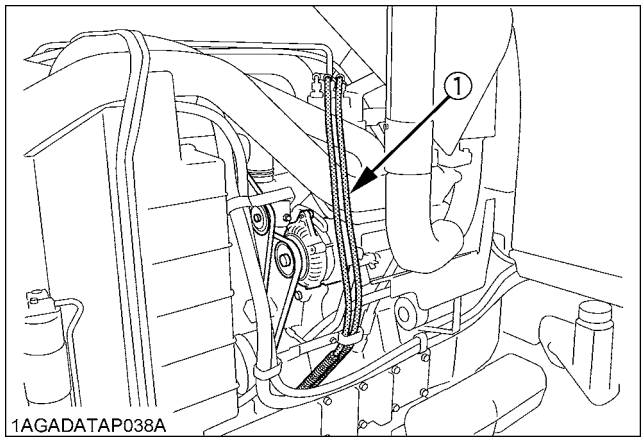
①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検

注　意

＊ ホースの傷みは，必ず点検しましょう。ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

重　要

＊ 交換時にホースなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると作動不良の原因になります。

■燃料ホースの点検

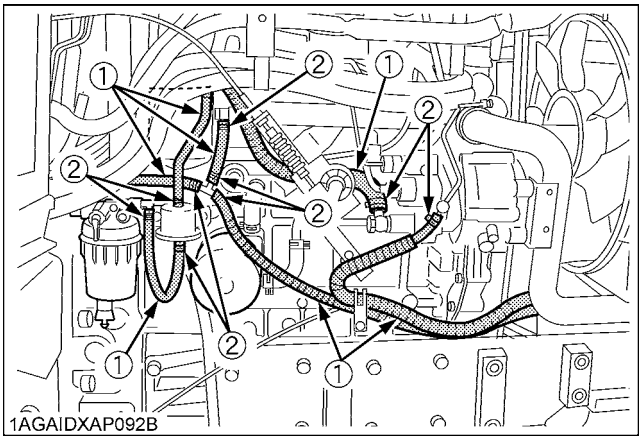
注　意

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

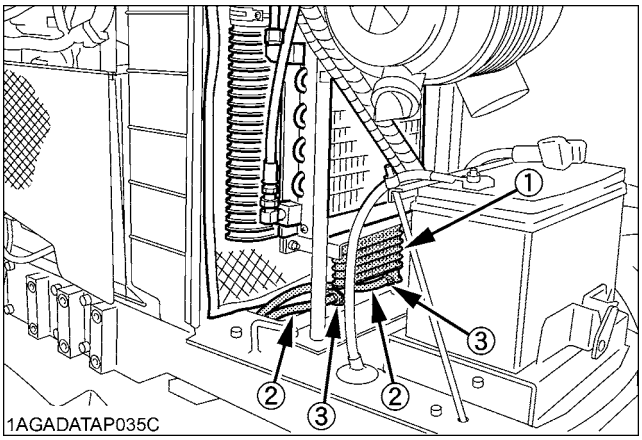
燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に 2 年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. ホース類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。

2. 燃料ホースを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



①燃料ホース
②締付けバンド



①燃料クーラ
②燃料ホース
③締付けバンド

重　要

＊ 交換時にホースやサプライポンプなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると，サプライポンプやインジェクタの作動不良の原因になります。

100 時間ごとの点検・整備

■バッテリ電解液の点検

危　険

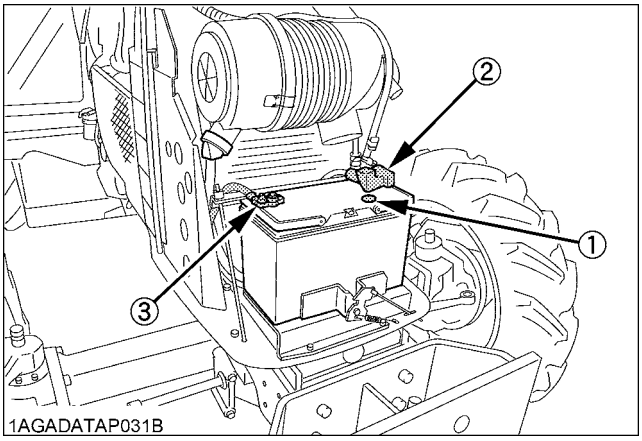
バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いにはじゅうぶん注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（－）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（－）コードを接続してください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは補水不要のタイプを使用しています。上面のインジケータの表示状態により補充電してください。



①インジケータ
②（+）コード
③（−）コード

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 11A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換が必要です。

◆ バッテリの取付け，取外し

注　意

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定のクボタ純正バッテリを使用してください。

交換用バッテリ品番	呼称
07908-89320	31-900（BCI サイズ -CCA）

＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（+），（−）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

警　告

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（+）と（−）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）に，バッテリの（−）を充電器の（−）にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。

重　要

＊ バッテリを点検・液補充するときは，バッテリ液をこぼさないように注意してください。こぼれたバッテリ液は、バッテリの下にあるエンジンコントローラー（ECU）を腐食させるおそれがあります。

■ダブルエアクリーナエレメントの清掃

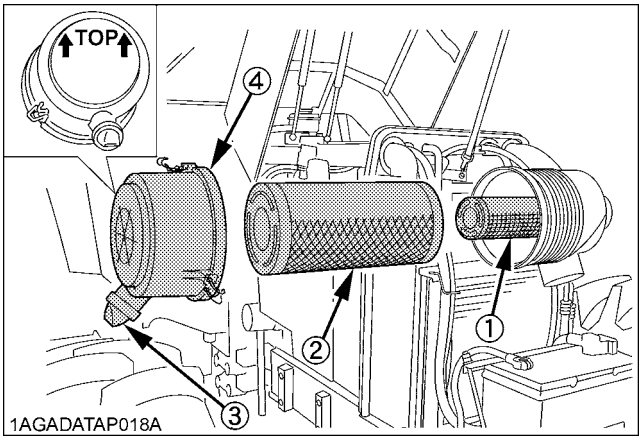
ダストカップを外し，アウターエレメントを外します。インナーエレメントは交換時以外は外さないでください。

◆ アウターエレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアで吹き飛ばしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/㎠）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）
エレメントがカーボンや油分で汚れている場合は，中性洗浄剤をご使用ください。

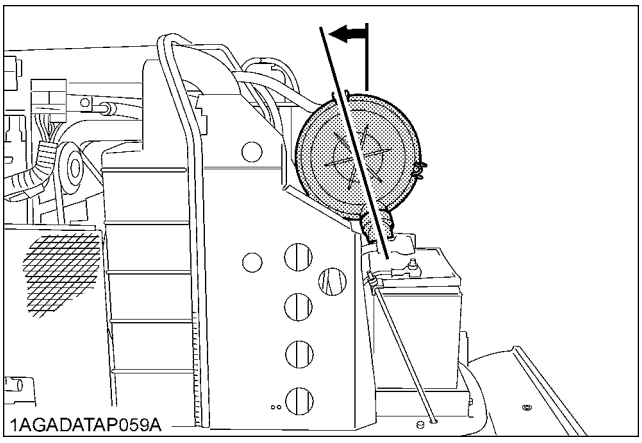
◆ アウターエレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後，又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。



①インナーエレメント
②アウターエレメント
③バキュエータバルブ
④ダストカップ

ダストカップは下図の角度になるように組付けてください。



重　要

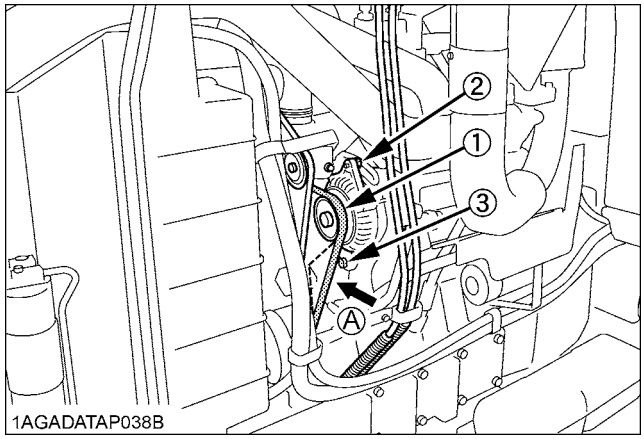
* エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
* 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
* 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
* ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約 49 N（5 kgf）の力で押えて，約 7 mm たわむ程度



①ファンベルト　　**Ⓐ“押す”**
②ボルト
③ボルト・ナット

重　要

* ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
* き裂やはがれがあれば交換してください。

■油圧ブレーキの点検

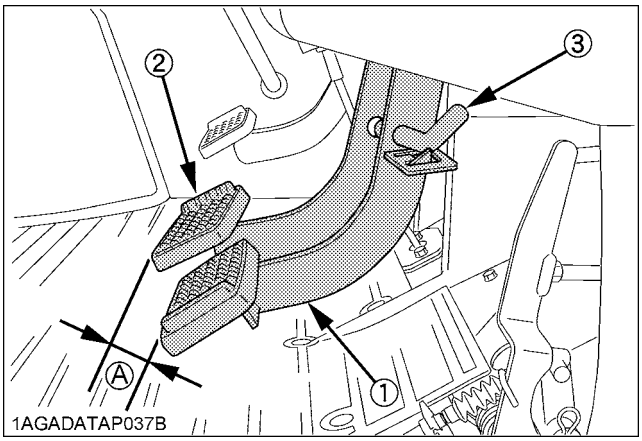
警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

◆ 踏込み量の点検

踏込み量	左右ペダルで 100㎜ 以下

1. ペダル連結金具を外します。
2. 右ペダルのみを踏込み，左ペダルとの段差（踏込み量）を測定します。
3. 左ペダルも同様に測定します。



①右ブレーキペダル　　**Ⓐ“踏込み量”**
②左ブレーキペダル
③連結金具

◆ イコライザの作動量の点検（片効き防止装置）

1. 左右のペダルを両足で同時に軽く踏込みます。
2. 上記状態から，右ペダルを強く踏込み（左ペダルは上昇する），両ペダルの段差を測定します。
3. 次に，左ペダルを強く踏込み測定します。

イコライザの作動量	左右ペダル上での段差 10㎜ 以上

補　足

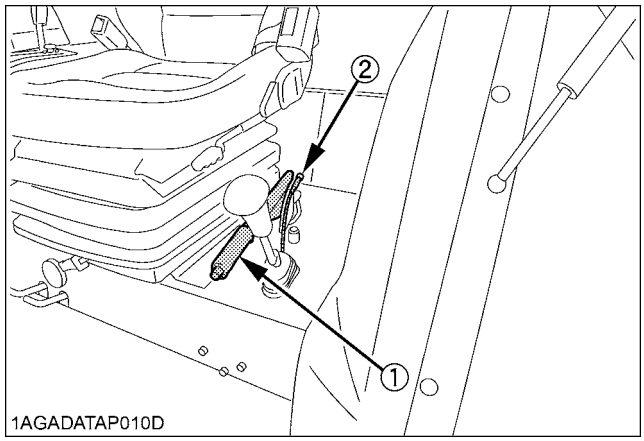
＊ もし，点検結果基準外であれば，購入先へブレーキの調整を依頼してください。

■駐車ブレーキの点検・調整

適正遊び量	2 ノッチ

◆ 調整方法

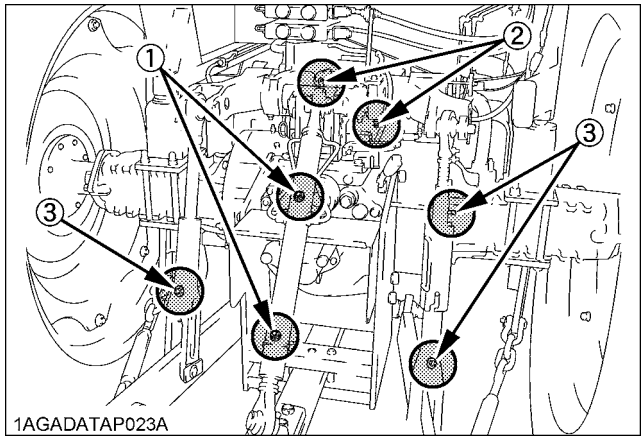
1. 駐車ブレーキレバーを解除します。
2. ロックナットをゆるめ，ワイヤを調節します。
3. 元どおりに組付け，遊び量を確認します。



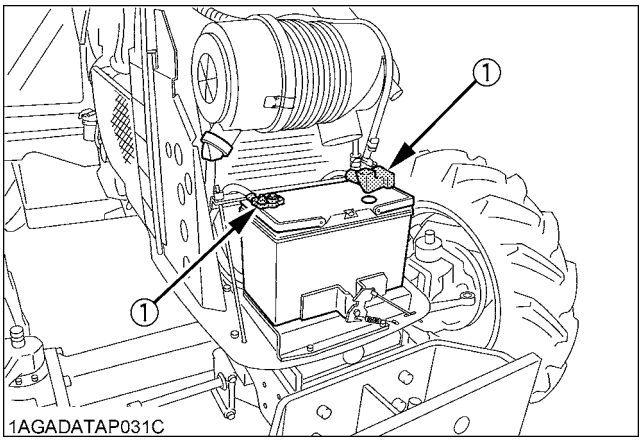
①駐車ブレーキレバー
②ロックナット

■グリースの注入

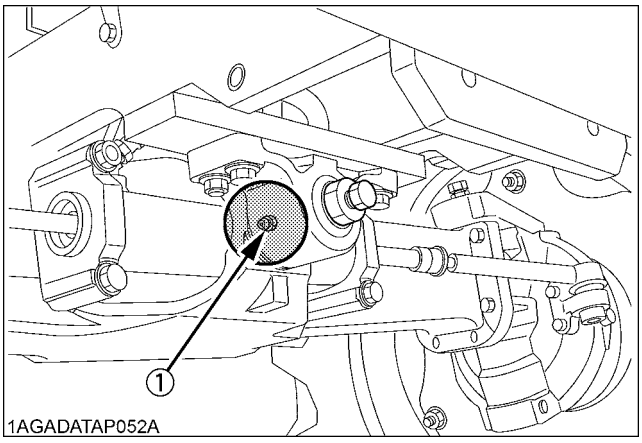
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，1 日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。
グリースは，**［クボタ推奨グリース］**を使用してください。
グリースポンプは手動のハンドガン式のものを使用してください。高圧のエアーポンプ式のものは使用しないでください。



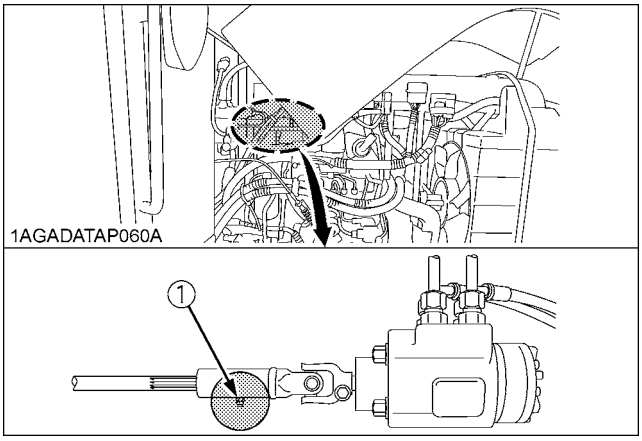
①トップリンク
②トップリンクブラケット
③リフトロッド



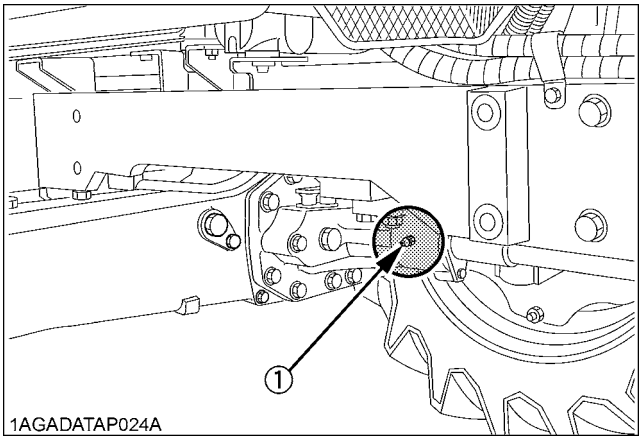
①バッテリターミナル



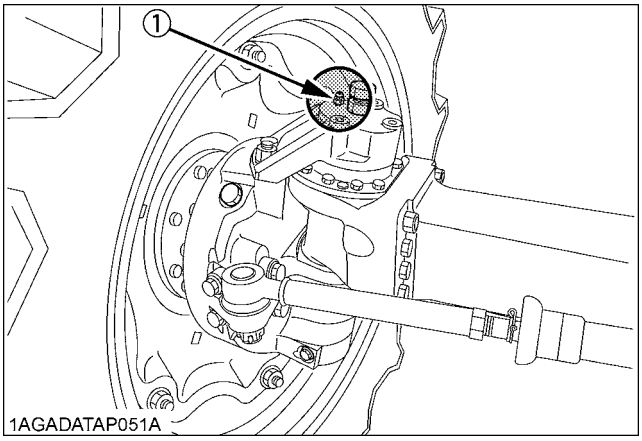
①前車軸受（前）



①ステアリングジョイント軸



①前車軸受（後）



①前輪ケースサポート（左・右）

■エンジンの始動確認

エンジンを始動し，かかり具合，異音がないかを確認してください。

アクセルペダルを操作し，加速・減速がスムーズか確認してください。

■エンジンの排気の状態

エンジンを始動し，排気色に異常がないか確認してください。
（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［エンジンの不調と処置］**の項を参照）

■エキゾーストパイプ及びマフラの状態

エキゾーストパイプ，マフラに破損，取付ボルトのゆるみなどがないか確認してください。
排気音に異常がないか確認してください。

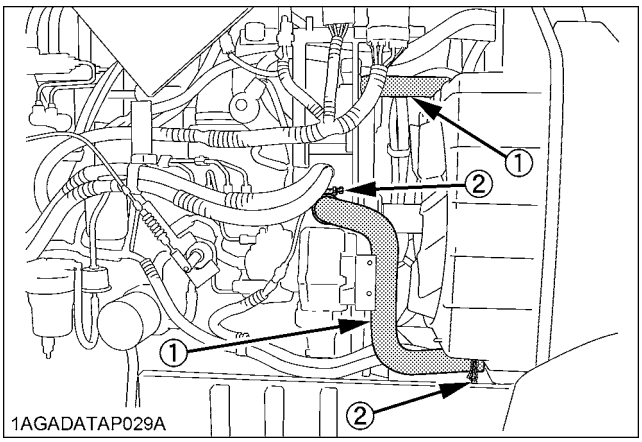
200 時間ごとの点検・整備

■ラジエータホースの点検

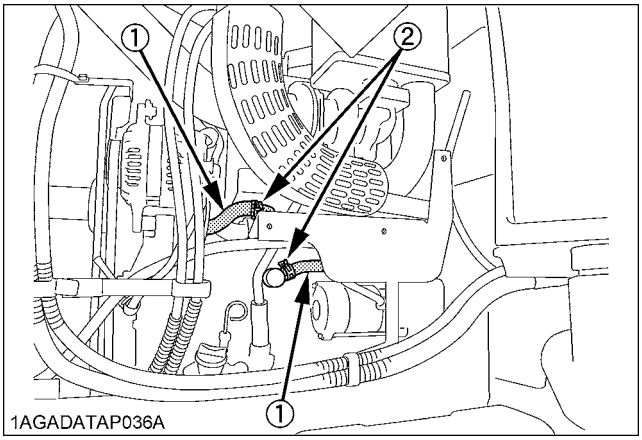
注　意

＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



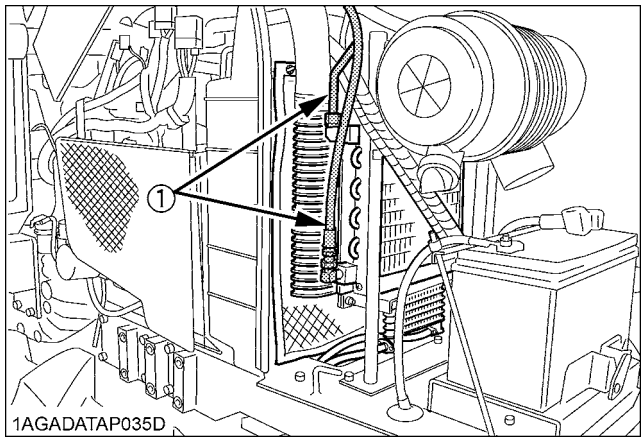
①ラジエータホース
②締付けバンド



①ホース
②締付けバンド

■オイルクーラホースの点検

オイルクーラホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでないか常に注意してください。



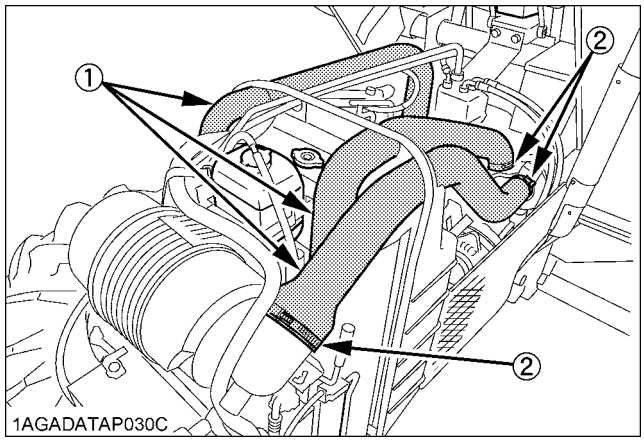
①オイルクーラホース

重　要

＊ 交換時にホースなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると作動不良の原因となります。

■吸気ホースの点検

吸気ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。



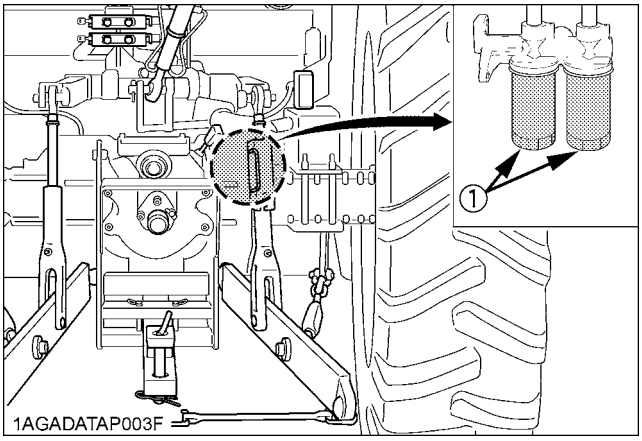
①吸気ホース
②締付けバンド

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。

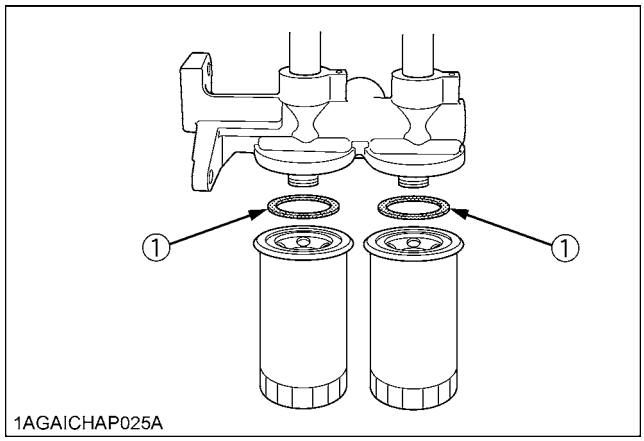


①油圧オイルフィルタカートリッジ

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. マグネットフィルタを清掃します。
4. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
5. ミッションオイルを規定量まで補給します。
6. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
7. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［600 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

◆ マグネットフィルタの掃除

カートリッジを外して中のマグネットフィルタに付着したごみをふき取ってください。



①マグネットフィルタ

■トーイン調整・タイロッドの点検

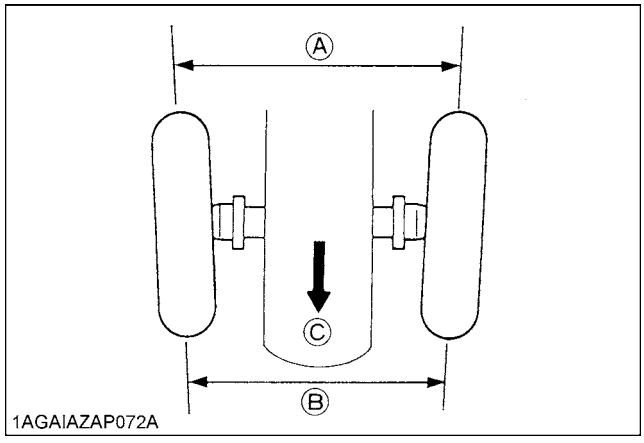
注　意

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅Ⓑと後幅Ⓐを測り，Ⓐ－Ⓑ＝下記基準値になっているかを調べます。

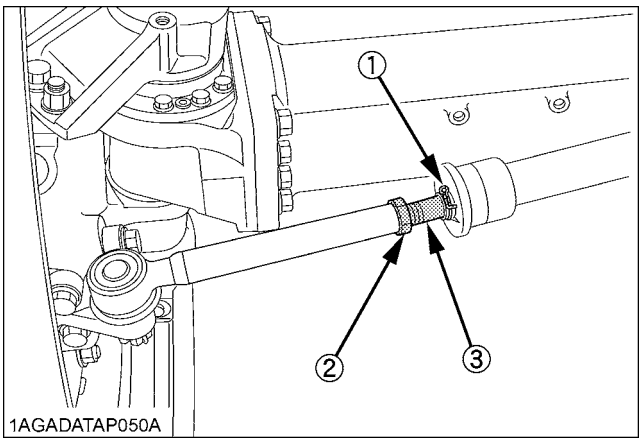
２～８ ㎜



Ⓐ後幅
Ⓑ前幅
Ⓒ前

◆ 調整

1. スナップストッパをゴムブーツより外してロックナットをゆるめます。
2. タイロッドジョイントのネジ部を回して調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。



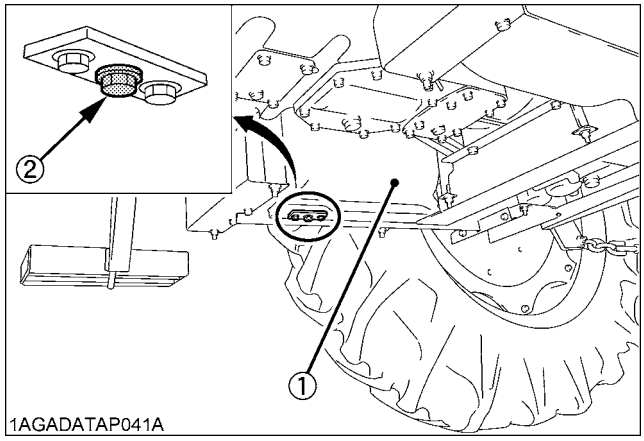
①スナップストッパ
②ロックナット
③タイロッドジョイント

補　足

＊ トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関接球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検・調整を行なってください。
＊ 測定はタイヤ高さの 1/2，タイヤ幅の中央部間を測ります。

■燃料タンクの水抜き

燃料タンク下部のドレーンプラグを外し，沈澱している不純物や水分を排出し，元通りに締めます。



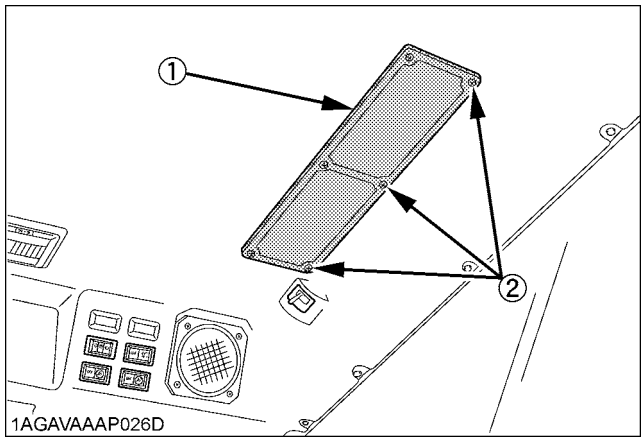
①燃料タンク
②ドレーンプラグ

重　要

＊ 水分が多く含まれている悪い燃料を使用した場合は，水抜きの間隔は更に短くしてください。
＊ トラクタを長時間格納後使用する前に行なってください。

■室内エアフィルタの清掃

フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタの網目を損傷させないように清掃をしてください。

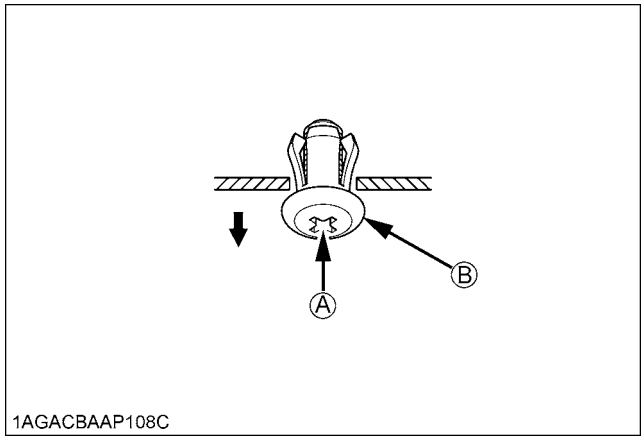


①室内エアフィルタ
②プッシュリベット

◆ 室内エアフィルタの取付け，取外し

●「外し方」

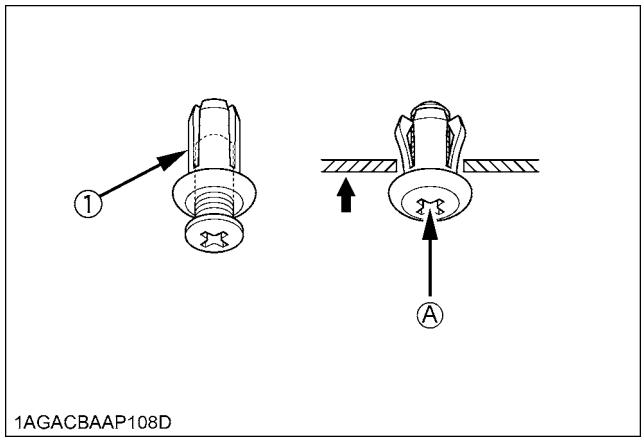
室内エアフィルタのプッシュリベットの周辺Ⓑ部を手で押さえてⒶ部を（＋）ドライバで左に回すと外れます。



1AGACBAAP108C

●「取付け方」

プッシュリベットを室内エアフィルタに差込み，Ⓐ部を押しプッシュリベットを固定します。

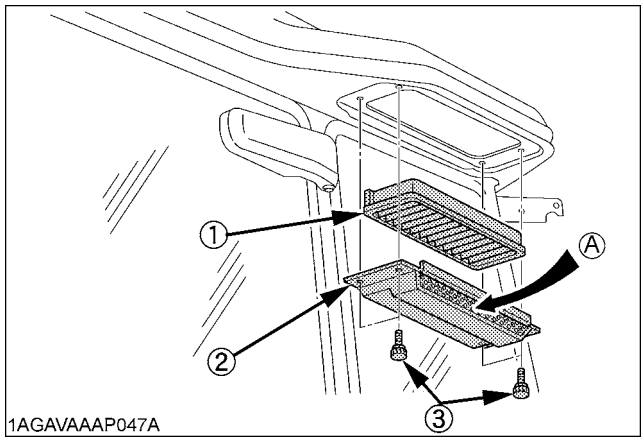


1AGACBAAP108D

①取り外したプッシュリベット

■外気フィルタの清掃

ノブボルトを外し，カバーとフィルタをいっしょに外します。



1AGAVAAAP047A

①外気フィルタ
②カバー
③ノブボルト
Ⓐ“空気導入口”

補　足

＊ カバーの空気導入口を外側に向けて組付けてください。

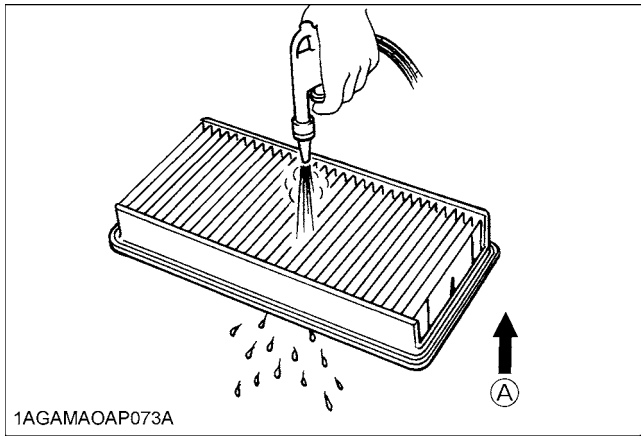
◆ 清掃法

●「通常」

風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。（エアの圧力は 205kPa（2.1kgf/cm²）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）

重　要

＊ エレメントをたたかないでください。
エレメントが変形すると，エアコンユニットにほこりが浸入し，エアコンを損傷する場合があります。



1AGAMAOAP073A

Ⓐ“風の流れ”

●「汚れが著しいとき」
家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し，清水でよくすすいだ後，完全に自然乾燥させてください。

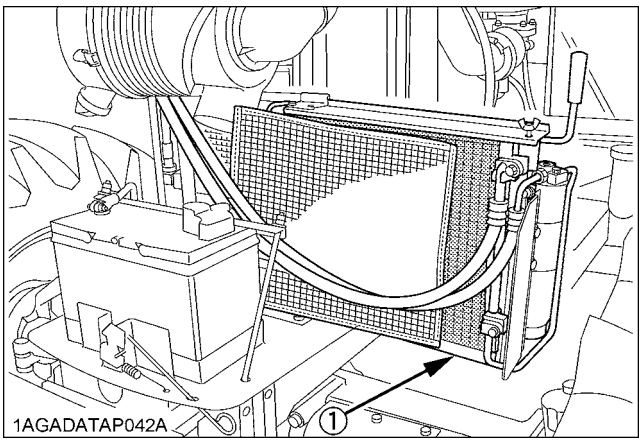
重　要
＊ 洗浄にガソリン，シンナなどを使用しないでください。

■エアコンコンデンサの詰まり

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。
＊ エアコン使用時コンデンサやレシーバは熱くなります。じゅうぶん冷えてから点検・清掃を行なってください。

1. エアコンホースをフックより外します。
2. 蝶ナットをゆるめ，ハンドルを持ちコンデンサを手前に引出します。
3. 防虫網を外し，コンデンサフィンにごみが詰まっていれば水道水などで取除いてください。



①コンデンサ

重　要
＊ 高圧洗車機を使用する場合には，コンデンサのフィンを損傷させないように，注意してください。

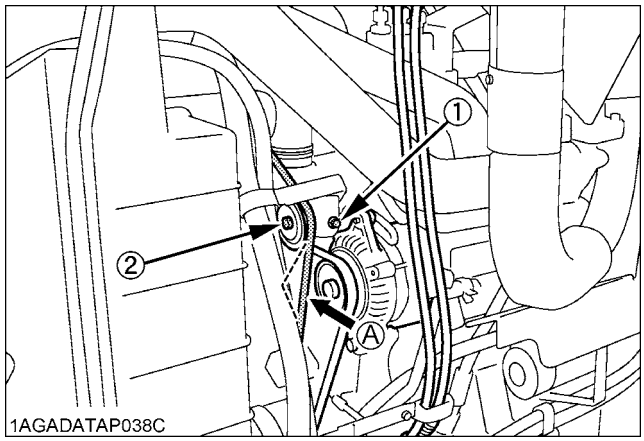
■エアコンベルトの張り

注　意

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約49N（5kgf）の力で押えて，10～12mmたわむ程度

調整はナットをゆるめ，調整ボルトで張ります。



①調整ボルト
②テンションプーリ取付けナット
Ⓐ“押す”

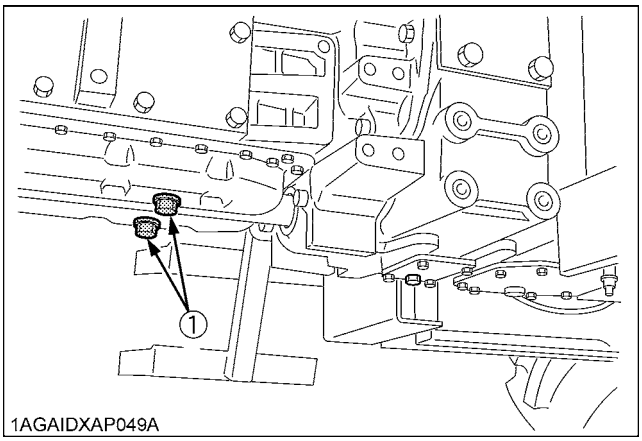
300 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

注 意

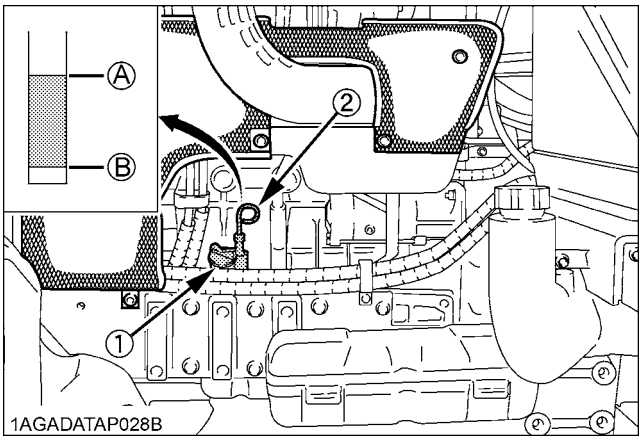
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。
   このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。
   ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

2. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。
   このときオイルをこぼさないように注意してください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

重 要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 NO. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ オイルはクボタ純オイルを使用してください。

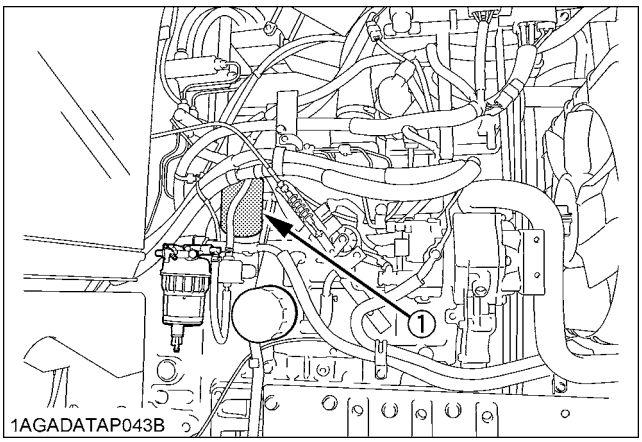
スーパー CF D10W-30（コモンレール エンジン）

＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

400 時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタカートリッジの交換

1. フィルタレンチでフィルタを外してください。
2. 組付けはパッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。
3. 空気抜きを行なってください。
   (詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください)



①燃料フィルタカートリッジ

重　要

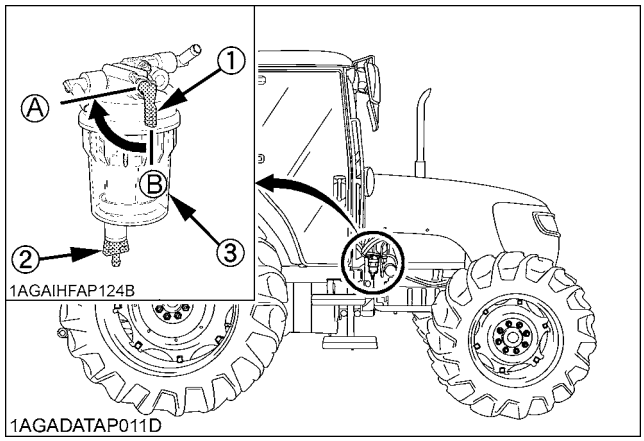
＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ カートリッジ交換後は，必ず空気抜きをしてください。(詳細は**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照してください)

■セパレータの清掃

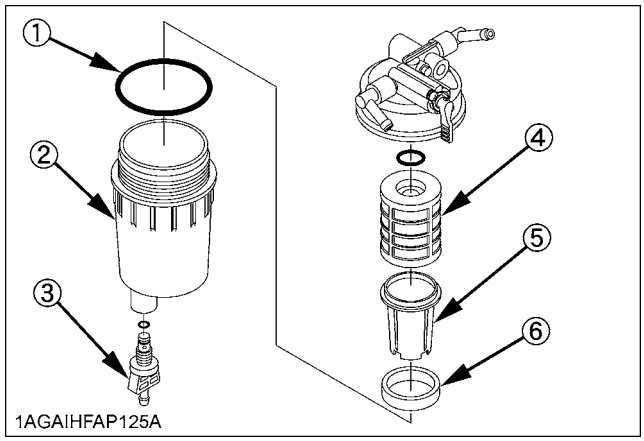
1. 燃料コックを**［閉］**にしてください。
2. 下部ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出後カップを外します。
3. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
4. 下図を参考に元通りに組付けてください。
5. 燃料コックを**［開］**にしてください。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意してください。
＊ 組付け後コックを**［開］**にし，必ず空気抜きをしてください。
   (**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照)



①燃料コック
②ドレーンプラグ
③カップ
Ⓐ“閉”
Ⓑ“開”



① O リング
②カップ
③ドレーンプラグ
④エレメント
⑤エレメントキャップ
⑥フロート

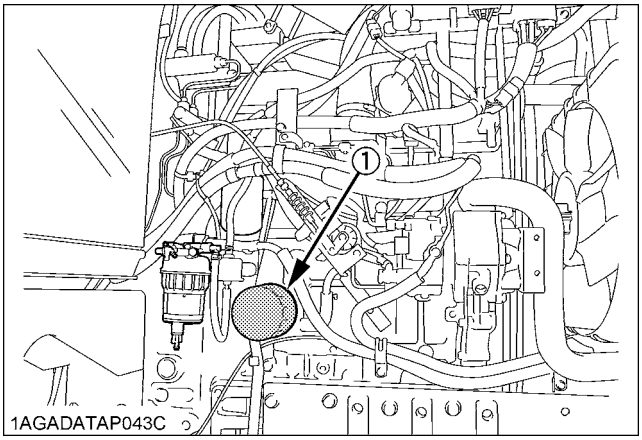
600 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注　意

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

補　足

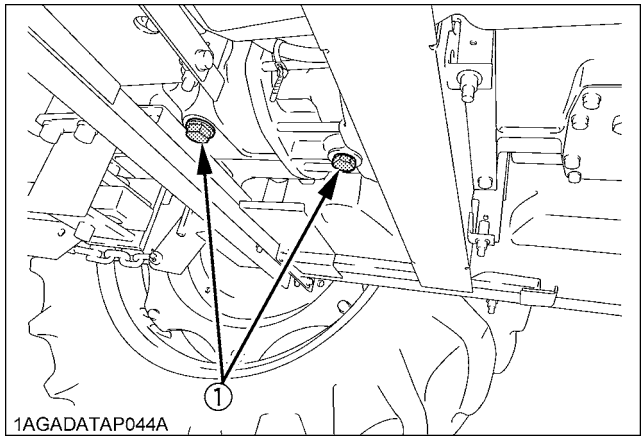
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■ミッションオイルの交換

注　意

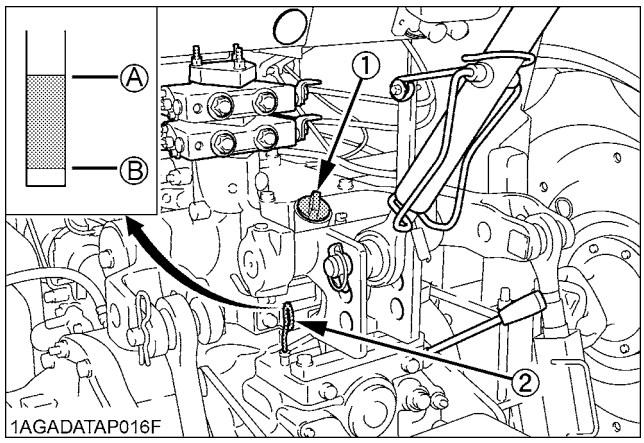
＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。



①ドレーンプラグ

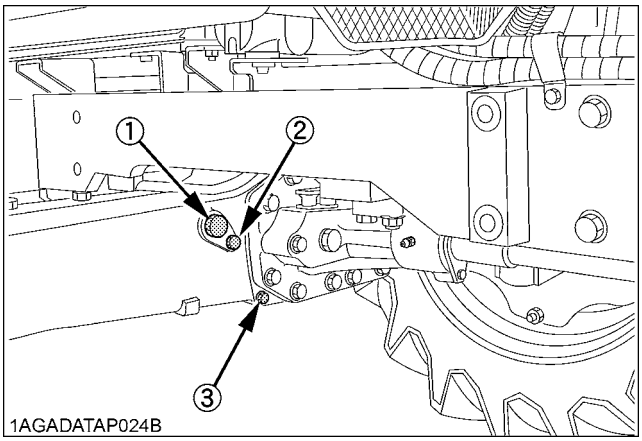
2. ミッションオイルを給油口から規定量まで入れてください。
3. エンジンを始動して２～３分運転してから止め，再度油量を点検して規定量まで補給してください。



①給油口　　**Ⓐ“上限”**
②オイルゲージ　　**Ⓑ“下限”**

■前部デフケースのオイル交換

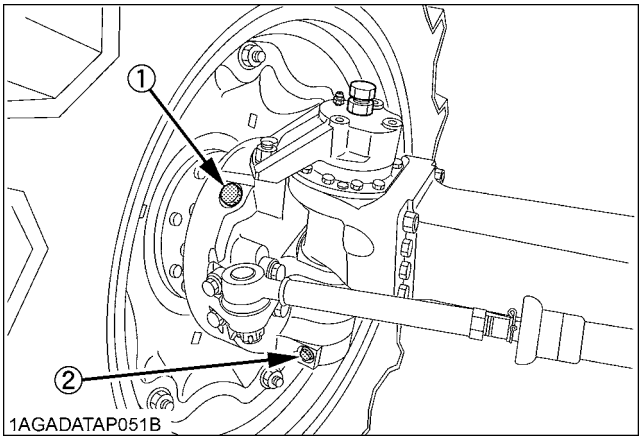
1. ドレーンプラグと給油プラグをはずしてオイルを抜きます。
2. 給油口から新しいオイルを規定量（検油プラグ位置まで）入れてください。



①給油口
②検油プラグ
③ドレーンプラグ

■前輪ケース左・右のオイル交換

1. 左右のドレーンプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。
2. 給油口から新しいオイルを規定量入れてください。



①給油（検油）プラグ
②ドレーンプラグ

■前部デフケースの前後遊びの調整

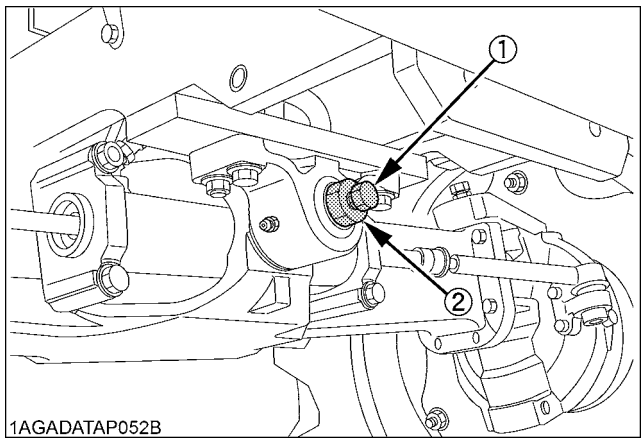
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆ 点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆ 調整

前輪タイヤ（両輪）を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込みガタを調整します。

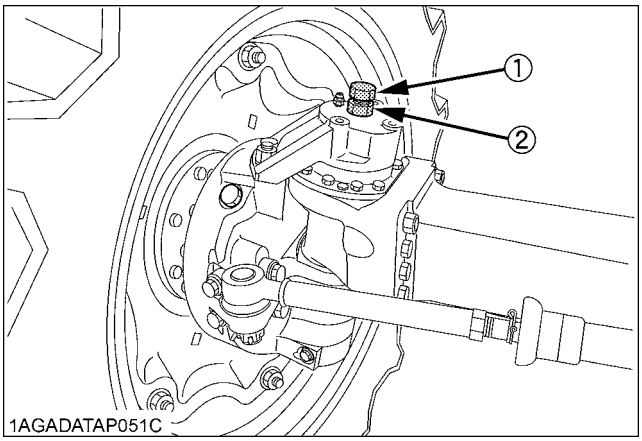


①調整ボルト
②ロックナット

■ブレーキオイルの交換

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■前輪ケース回動トルクの調整
調整が悪いと前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。
ロックナットをゆるめボルトを規定トルクで締め，調整後はロックナットを確実に締めてください。



①ボルト
②ロックナット

締付けトルク：4.9 ～ 9.8 N-m
(0.5 ～ 1.0 kgf-m)

800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1500 時間ごとの点検・整備

■インジェクタの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

3000 時間ごとの点検・整備

■ターボチャージャの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■サプライポンプの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■インテークエアヒータの点検
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換
◆ダブルエレメント仕様
アウターエレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。
インナーエレメントは１年ごとに交換が必要です。
（**[100 時間ごとの点検・整備]** の **[ダブルエアクリーナエレメントの清掃]** の項を参照。）

■エアコン配管，ホースの点検
各配管及びホースの損傷を点検してください。

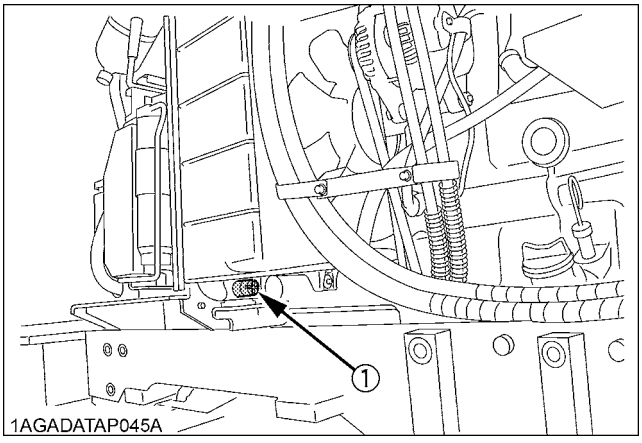
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

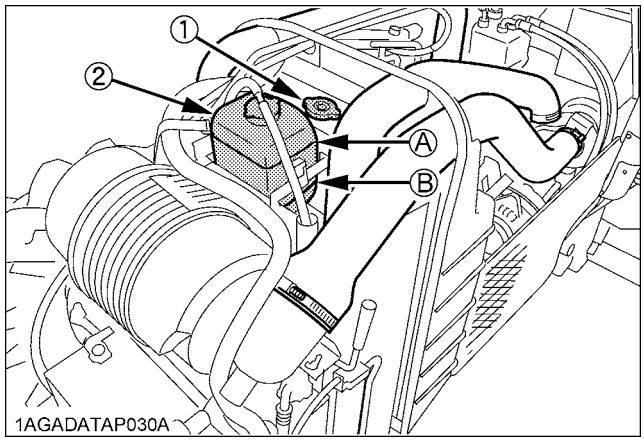
注 意

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータのドレーンプラグとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
2. ポンプなどを用いリザーブタンクより排水します。
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，ドレーンプラグを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に閉めてください。
5. 安全キャブ仕様はヒータに冷却水が循環するため，冷却水が約 1.5L ヒータ部に必要となります。
   冷却水を交換した場合，冷却水をリザーブタンクの注入口まで一杯にし，ヒータ【ON】（温度コントロールつまみを【WARM】（右端）に回す）にして，しばらくエンジンを回し，冷却水を暖め，エンジンを止めてください。このとき吹出口より温風が出ることを確認してください。温風が出ない場合は購入先にご相談ください。
   冷却水が冷えると，リザーブタンクの冷却水が吸込まれ，リザーブタンクの冷却水が適量になります。



①ドレーンプラグ



①ラジエータキャップ　Ⓐ“上限”
②リザーブタンク　Ⓑ“下限”

重 要

＊ 冷却水補給後エンジンを運転し，リザーブタンク内の量及びラジエータの給水口のすぐ下まで冷却水があることを確認してください。そうでないと，冷却水の量が不足しエンジンの破損につながるおそれがあります。
＊ 冷却水交換作業では，エアかみをおこす可能性があります。交換時は，購入先にご相談ください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。冬期気温が 0 ℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。〔工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。〕

重 要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50% 入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比%	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度℃	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43

■ラジエータの洗浄
洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるときなどに使用してください。

■ラジエータホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■パワーステアリングホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■吸気ホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■燃料ホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■ブレーキホース / ブレーキタンクホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■マスタシリンダ / イコライザキットの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■ブレーキシール１，２の交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

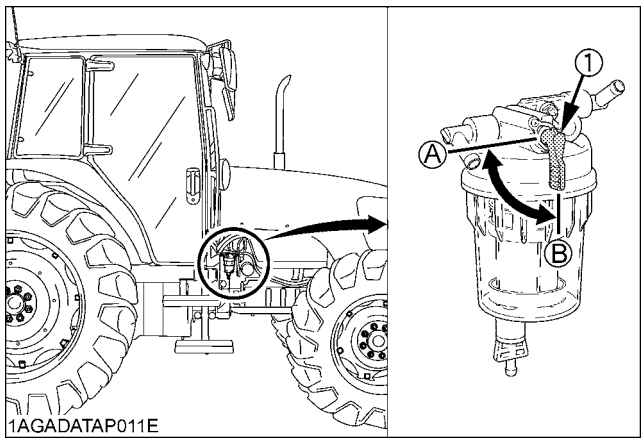
■オイルクーラホースの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

■駐車ブレーキワイヤの交換
購入先で交換及び点検をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

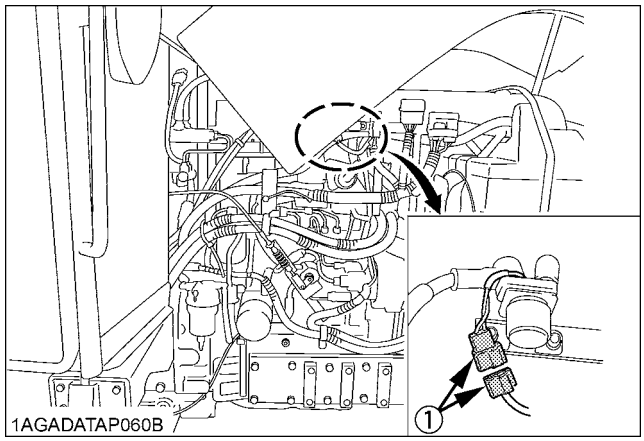
■燃料の空気抜きのしかた
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。
- セパレータより排水及び分解洗浄したとき
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たします。
2. 燃料コックが**【開】**になっているか確認します。



①燃料コック　　**Ⓐ“閉”**
Ⓑ“開”

3. ヒータ（予熱）用コネクタを外します。

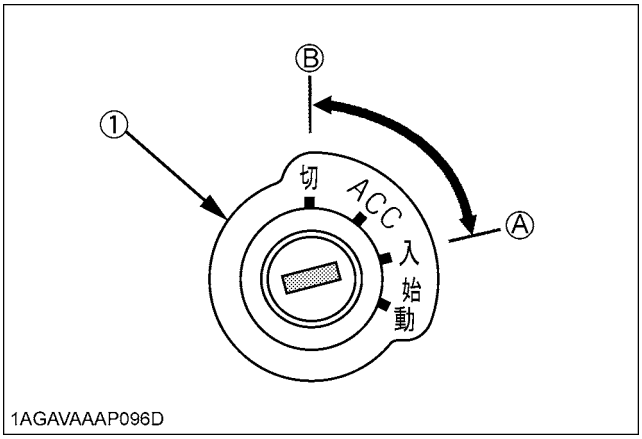


①コネクタ

重　要

＊ バッテリが放電しますので，コネクタを接続したまま空気抜きを行なわないでください。

4. 下記インターバルでキースイッチの **[入]・[切]** を 10 回程度繰り返し行います。
   (1) キースイッチ［入］時間：30 秒
   (2) キースイッチ［切］時間：15 秒



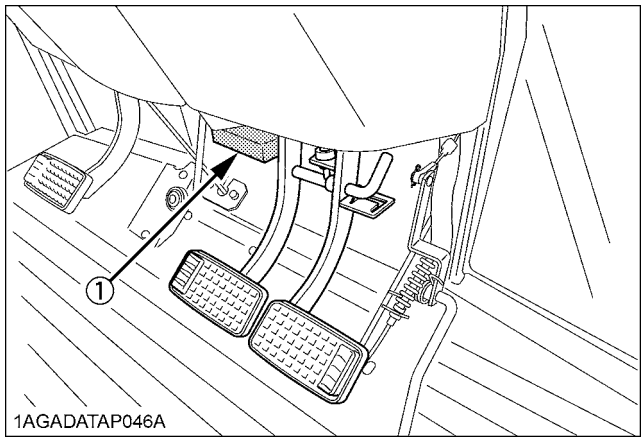
①キースイッチ　　**Ⓐ"入"**
Ⓑ"切"

5. ヒータ（予熱）用コネクタを接続します。
6. アクセルレバーを最高回転位置でエンジンを始動し，アクセルレバーを中速回転（約 1500rpm）位置に戻します。
   （スタータを連続 10 秒間回しても始動しない場合は，30 秒間休み，この操作を再度 1 ～ 2 回くり返します）
7. エンジンをふかす操作をし，燃料系統の中に残っている微量の空気を追い出します。
8. 以上の操作後，まだ空気が抜けずにエンストする場合は，上記の 1. ～ 7. の手順で再度空気抜きを行ないます。

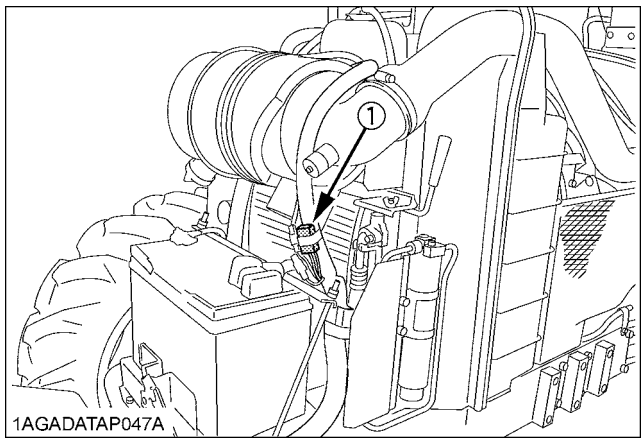
■ブレーキの空気抜き

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス



①ヒューズ（コモンレール エンジン用）

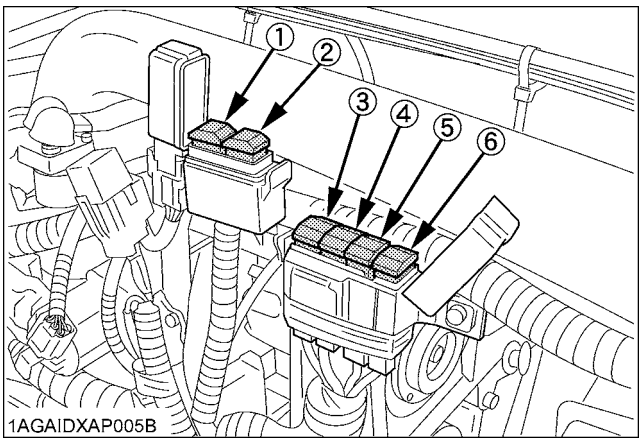
1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。



番号	容量	保護回路	ヒューズ構造
1	30A	キースイッチ	プラグインタイプ
2	30A	電源取出し	プラグインタイプ
3	120A	オルタネータ	ボルトタイプ
4	120A	エンジン予熱	ボルトタイプ
5	60A	ヘッドライト，ターンシグナル	プラグインタイプ
6	60A	エアコン（ファンモータ）	プラグインタイプ

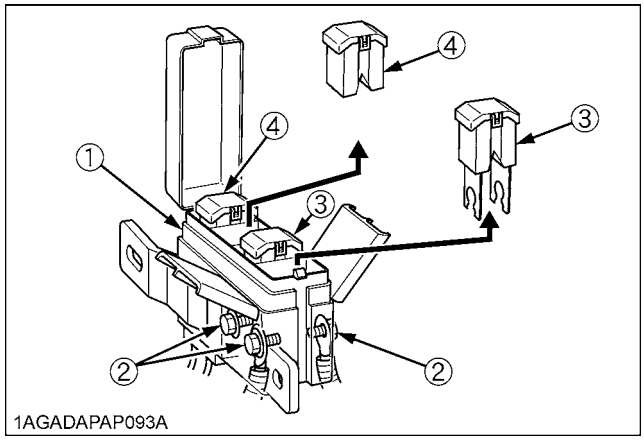
◆ 交換手順

[プラグイン（差込みタイプ）のスローブローヒューズ]

1. バッテリの（-）コードを外します。
2. ケースからヒューズを引抜きます。
3. 同じ容量（アンペア）のヒューズを取付けます。

[ボルトタイプ（ボルトで固定）のスローブローヒューズ]

交換は購入先へ依頼してください。



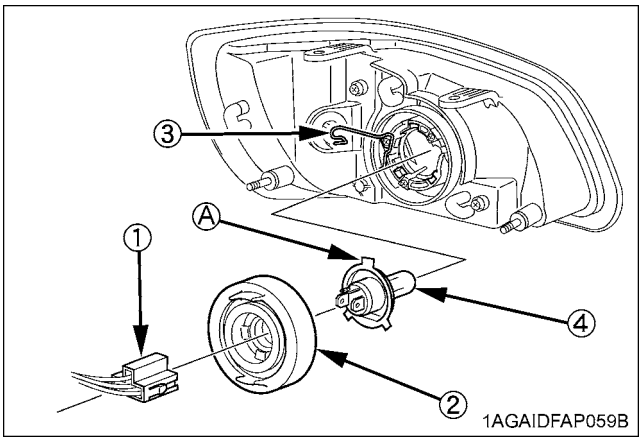
①ヒューズケース
②ボルト
③ボルトで固定しているスローブローヒューズ
④プラグインタイプのスローブローヒューズ

■ヘッドランプの交換

注　意

＊ 電球を落としたり，キズをつけたりしないでください。破損した場合，ガラス片が飛散しケガの原因となります。
特にハロゲン電球は，ガラス内部の圧力が高いため，注意してください。
＊ 電球を交換する時は，じゅうぶん冷えてから行なってください。
ヤケドの原因となることがあります。

1. コネクタを抜き，ゴムブーツを外します。
2. 電球固定金具を解除し，電球を外します。



①コネクタ
②ゴムブーツ
③固定金具
④電球
Ⓐ“幅の広い突起部を上側に向け組み付ける”

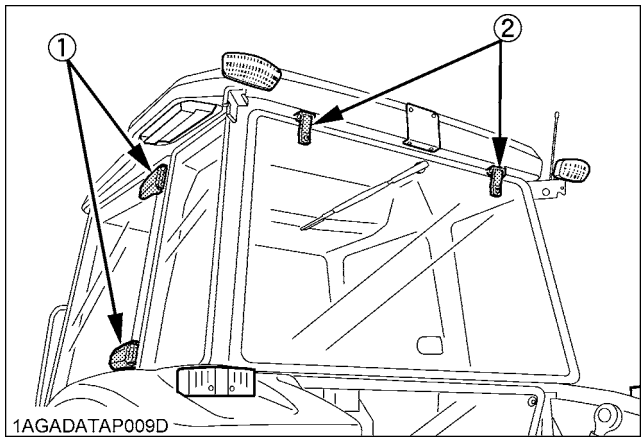
重　要

＊ ワット数の大きい電球を取付けないこと。
＊ 素手でガラス面を触らないこと。指紋や油脂が付着すると電球が破損するおそれがあります。

■ランプ一覧

ヘッドランプ	60/55W	作業灯	35W
ウインカランプ(前)	21W	ブレーキランプ	21W
ウインカランプ(後)	21W	尾灯	10W
車幅灯	5W	バックランプ	21W

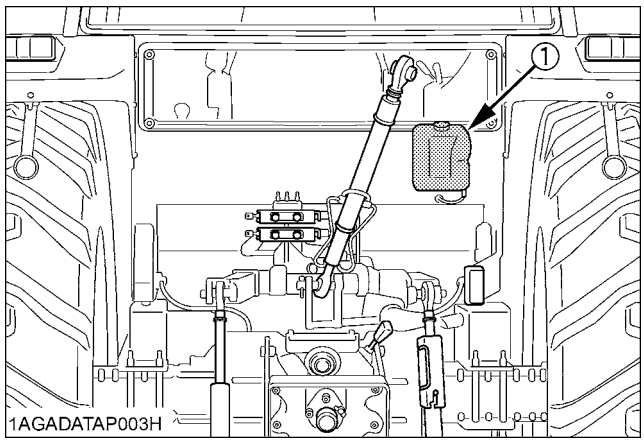
■注油



①ドアヒンジ部
②リヤウインドヒンジ部

■ウォッシャ液の補充

自動車用ウォッシャ液を適量補充してください。



①ウォッシャタンク

重　要

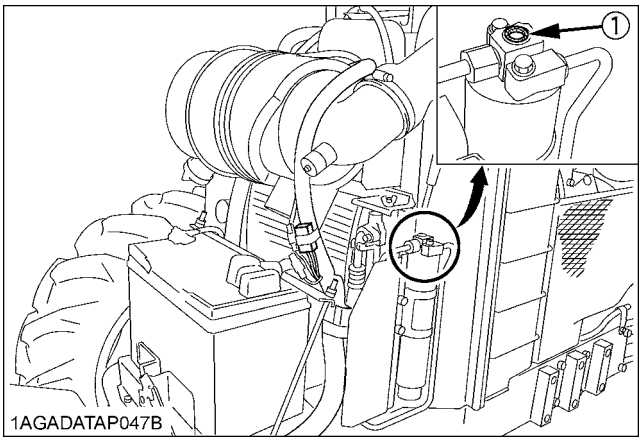
＊ 凍結を避けるため，清水のみの使用はしないでください。
＊ 空回しはポンプを損傷させる原因となりますので空運転をしないでください。
＊ ウォッシャノズルの詰まりを防ぐために，ごみが入らないようにしてください。

■冷媒（ガス）量の点検

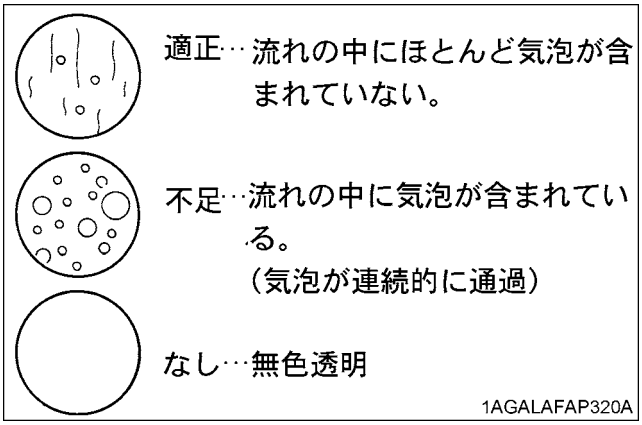
冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。
下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，購入先で点検及び充てんをしてもらってください。

◆ 点検方法

1. エアコンを以下の条件で運転します。
＊ エンジン回転数　　：約 1500rpm
＊ 温度コントロール　　：最強冷位置
＊ ファンスイッチ　　：最強風
＊ エアコンスイッチ　　：ON
2. サイトグラスにより，冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認する。



①サイトグラス



格納

■長期格納時の手入れ

注 意

＊ シートをかける場合，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。
火災を起こす原因になります。

トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000rpm 以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ，各油圧シリンダの防錆運転を１～２ヶ月ごとに行なってください。
(1) ステアリングハンドルを左右にパワーステアリングシリンダがストロークエンドに達するまで１～２回まわす。
(2) 油圧（ポジション）レバーで三点リンク（作業機）を最上昇位置まで１～２回上下させる。
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が浸入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多めにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
10. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
12. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。

13. 格納中バッテリは，１カ月に１回充電器で完全充電するようにしましょう。
14. 格納場所は，周囲にわらなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
15. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統の故障の原因になります。

重　要

＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。
  (1) エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
  (2) 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
  (3) 高圧洗車機を使用するときは，ノズルの先端をドア，リヤウインドなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため，室内に水が入るおそれがあります。
＊ 格納時は，必ず**【切】**の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

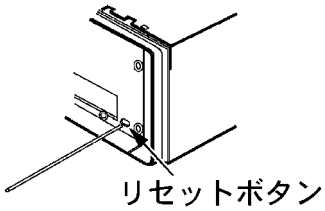
現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。
	4. バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計がH付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● フロントグリル，ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラをじゅうぶんに加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. インジェクタ不良	● インジェクタを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

現　象	原　因	処　置
エンジンがオーバヒートしていないにもかかわらずエンジン異常警告灯が点灯する	—	● いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。 ● エンジンが再始動できない場合や警告灯が消灯しない場合，購入先へご相談ください。 ● 警告灯が点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。 ＊ エンジンが突然止まった。 ＊ エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。 ＊ エンジン出力が充分でない。 ＊ エンジン出力は充分あるが，警告灯が点灯する。 ＊ エンジン回転がアイドリングから上がらない。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

■ AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置

次のような症状は，故障ではないことがあります。修理を依頼される前に，もう一度次のことをお調べください。

現　　象	原　　因	処　　置
電源が入らない (音が出ない)	ヒューズが切れている。	入っていたものと同じ容量のヒューズと交換する。 再度切れる場合は，購入先にご相談ください。
CD がすぐ出てしまう	CD を裏表逆に入れている。	CD の印刷面を上にして入れる。
音飛びする ノイズなどが入る	CD が汚れている。	CD をやわらかい布でふく。
	CD に大きい傷やソリがある。	CD を無傷なものに交換する。
電源を入れた直後 音質が悪い	湿気の多いところに駐車すると，内部のレンズに水滴が付くことがあるため。	電源を入れた状態にして 1 時間乾燥させる。
ボタンを押しても動作しない ディスプレイが正確に表示されない	ノイズなどが原因で，マイコンが誤動作している。	リセットボタンを，細い棒などで約 2 秒間押す。リセットボタンを押したときは，設定したプリセットメモリーなどが全て消えるので，もう一度設定し直す。  1AGAVAAAP148A

◆ エラー表示について

異常が生じたときには，各種のエラーが表示されますので，対処方法にしたがって障害を取除いてください。

表示エラーコード	原　　因	対処方法
ER 2	本機の CD デッキ内の CD が引っかかってイジェクトされないとき	引っかかる要素を取除く。CD がイジェクトされない場合は，機器の故障と思われるので，購入先にご相談ください。
ER 3	本機の CD デッキ内の CD に傷などがあり，演奏できないとき	傷やソリのない CD と交換する。

※上記対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名			M108W	
販売型式			M108W-DTQ	M108W-DTQDS
駆動方式			４輪駆動	
機体寸法	全長	mm	4095	
	全幅	mm	2070	
	全高	mm	2690	
	軸距	mm	2435	
	輪距 前輪	mm	1550，1650（２段）	
	輪距 後輪	mm	1600 ～ 2000（５段）	
	最低地上高	mm	420	
質量（重量）kg			3420	
エンジン	機関型式		V3800-DI-TI（CRS）	
	形式		水冷４サイクル４気筒立形ディーゼル	
	総排気量	L	3.769	
	出力／回転速度	kW(PS)/rpm	79.4(108)/2600	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量	L	190	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ		31-900（BCI サイズ-CCA）	
タイヤ	前輪		13.6-24	
	後輪		16.9-38	
車体	クラッチ方式		油圧式湿式多板	
	制動装置		一系統左右独立，湿式ディスク油圧式	
	かじ取り方式		全油圧式パワーステアリング	
	差動方式		かさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式		主変速：シンクロシフト，油圧シフト	
変速段数		（段）	前進 16，後進 16 ［クリープ付：前進 24，後進 24］	前進 32，後進 32 ［クリープ付：前進 48，後進 48］
走行速度		前進 (km/h)	2.35 ～ 34.1 ［クリープ付：0.42 ～ 34.1］	1.94 ～ 34.1 ［クリープ付：0.35 ～ 34.1］
		後進	2.37 ～ 34.4 ［クリープ付：0.42 ～ 34.4］	1.96 ～ 34.4 ［クリープ付：0.35 ～ 34.4］
最小旋回半径（ブレーキ使用時）		m	3.7	
PTO	PTO 回転速度	１段 rpm	540/2205	
		２段	1000/2388	
	軸寸法	mm	JIS 35	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール，ドラフトコントロール，ミックスコントロール	
	装着方式		三点リンク JIS ２形	

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

（km/h：エンジン定格回転）

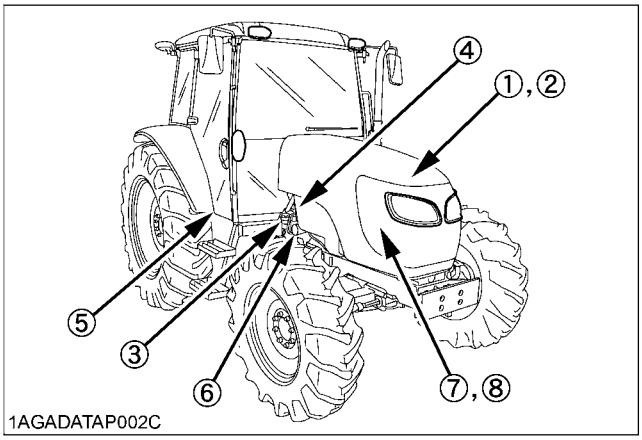
型式			M108W					
販売型式			M108W-DTQ		M108W-DTQDS			
後輪タイヤ			16.9-38					
副変速	主変速		前進	後進	前進		後進	
					デュアル Hi（高速）	デュアル Lo（低速）	デュアル Hi（高速）	デュアル Lo（低速）
クリープ（オプション）	🐢	1	0.42	0.42	0.42	0.35	0.42	0.35
		2	0.54	0.54	0.54	0.44	0.54	0.45
		3	0.66	0.67	0.66	0.55	0.67	0.55
		4	0.73	0.74	0.73	0.60	0.74	0.61
	🐇	1	0.94	0.94	0.94	0.77	0.94	0.78
		2	1.19	1.20	1.19	0.99	1.20	0.99
		3	1.47	1.48	1.47	1.21	1.48	1.22
		4	1.63	1.64	1.63	1.34	1.64	1.36
L	🐢	1	2.35	2.37	2.35	1.94	2.37	1.96
		2	2.99	3.02	2.99	2.48	3.02	2.50
		3	3.69	3.72	3.69	3.05	3.72	3.08
		4	4.08	4.12	4.08	3.38	4.12	3.41
	🐇	1	5.22	5.27	5.22	4.32	5.27	4.36
		2	6.65	6.71	6.65	5.50	6.71	5.55
		3	8.20	8.27	8.20	6.78	8.27	6.84
		4	9.07	9.20	9.07	7.50	9.20	7.61
H	🐢	1	8.20	8.30	8.20	6.80	8.30	6.86
		2	10.5	10.6	10.5	8.60	10.6	8.76
		3	12.9	13.0	12.9	10.7	13.0	10.7
		4	14.3	14.4	14.3	11.8	14.4	11.9
	🐇	1	18.3	18.4	18.3	15.1	18.4	15.2
		2	23.2	23.4	23.2	19.2	23.4	19.3
		3	28.6	28.9	28.6	23.7	28.9	23.9
		4	※ 34.1	※ 34.4	※ 34.1	26.2	※ 34.4	26.5

※エンジン最高回転時

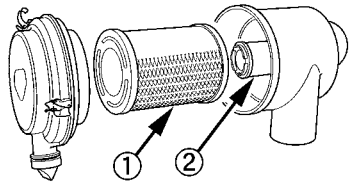
■標準付属品

品　　名	数量 / 台	備　考
取扱説明書	1	
取扱説明確認カード	1	
保証書	1	
メンテナンスブック	1	
前輪切れ角調整ボルト類	1	
メインスイッチキー（２個）	1	
ニップル（油圧取出し用）	1	
O リング（油圧取出し用）	1	
トップリンク後ピンアッシ	1	
CD プレーヤ取外し金具	1	使用方法は 62 ページ参照

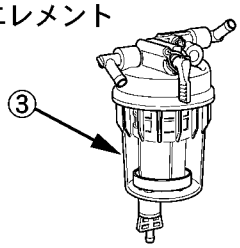
主な消耗部品一覧表（純正部品を使いましょう）



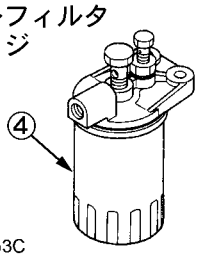
エアクリーナエレメント



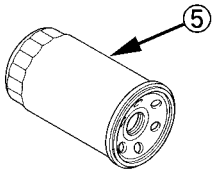
セパレータエレメント



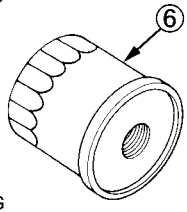
フューエルフィルタ
カートリッジ



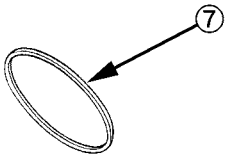
油圧オイルフィルタカートリッジ



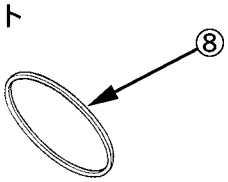
エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



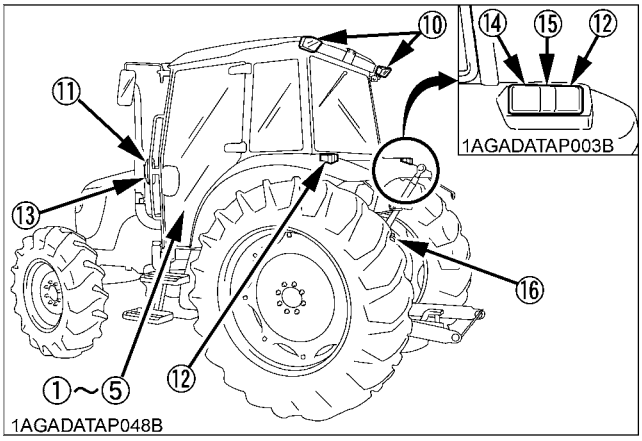
ファンベルト

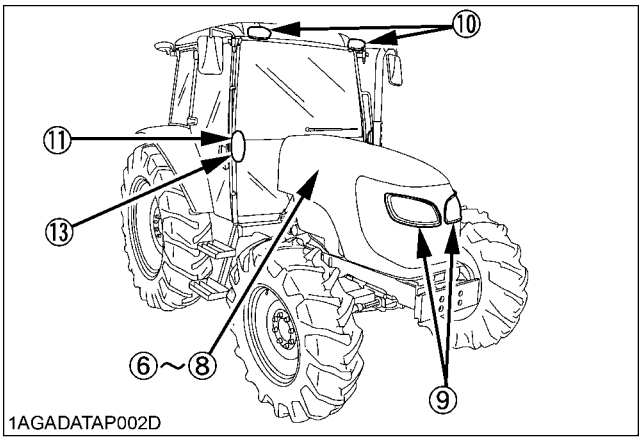


エアコンベルト

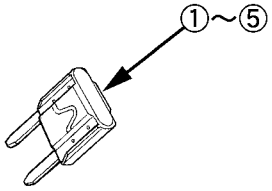


図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
①	エアクリーナエレメント（アウター）	59700-2611-2	⑤	油圧オイルフィルタカートリッジ	33960-8263-0
②	エアクリーナエレメント（インナー）	55231-2615-0	⑥	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	1C020-3243-4
③	セパレータエレメント	RD451-5194-0	⑦	ファンベルト	1G541-9701-0
④	フューエルフィルタカートリッジ	16631-4356-2	⑧	エアコンベルト	3C581-7932-0



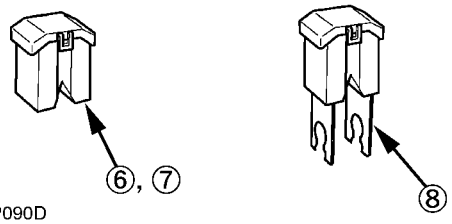


ヒューズ（ミニ）



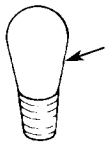
1AQAAAAAP033E

スローブローヒューズ
［プラグインタイプ］　［ネジ止めタイプ］



1AGADAPAP090D

電球



⑨（ヘッドライト）
⑩（作業灯）
⑪（ウインカ前）
⑫（ウインカ後）
⑬（車幅灯）
⑭（ブレーキランプ）
⑮（尾灯）
⑯（バックランプ）

1AQAAAAAP030L

図番	品　名	品　番	図番	品　名	品　番
①	ヒューズ（ミニ 5A）	T1060-3043-0	⑨	電球（60/55W）（ヘッドライト）	3C081-7581-0
②	ヒューズ（ミニ 10A）	T1060-3044-0	⑩	電球（35W）（作業灯）	T1275-9106-0
③	ヒューズ（ミニ 15A）	T1060-3045-0	⑪	電球（21W）（ウインカ前）	T1880-9911-0
④	ヒューズ（ミニ 20A）	T1060-3046-0	⑫	電球（21W）（ウインカ後）	TA049-3004-0
⑤	ヒューズ（ミニ 25A）	TD069-3066-0	⑬	電球（5W）（車幅灯）	T1880-9914-0
⑥	スローブローヒューズ 30A（プラグインタイプ）	T1060-3051-0	⑭	電球（21W）（ブレーキランプ）	TA049-3004-0
⑦	スローブローヒューズ 60A（プラグインタイプ）	T1150-3050-0	⑮	電球（10W）（尾灯）	TA049-3003-0
⑧	スローブローヒューズ 120A（ネジタイプ）	3N300-7556-0	⑯	電球（21W）（バックランプ）	T2255-9912-0

アタッチメント一覧表（純正部品を使いましょう）

分類	品　番	品　名	用途・仕様	適応型式	備考
				M108W	
ウエイト	99651-1200-0	前部ウエイトアッシ (取付け台含まず)	ウエイト 25kg ×４枚 ボルト４枚用含む	○	
	3F860-1210-0	前部ウエイトアッシ (取付け台含まず)	ウエイト 45kg ×４枚 ボルト４枚用含む	○	
	3R600-1210-0	前部ウエイトアッシ (取付け台含まず)	ウエイト 45kg ×８枚 ボルト８枚用含む	○	
	99651-1211-0	前部ウエイト単体	25kg	○	
	3F860-1208-2	前部ウエイト単体	45kg	○	
	99651-1213-0	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 45kg ×４枚用	○	ウエイトは含まない
	99651-1212-0	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 45kg ×６枚用	○	ウエイトは含まない
	35452-2181-2	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 45kg ×８枚用	○	ウエイトは含まない
	3A259-2179-0	ボルト（前部ウエイト）	ウエイト 45kg × 10 枚用	○	ウエイトは含まない
	99881-1500-0	後輪ウエイトアッシ	ウエイト 50kg ×４枚 取付けボルト含む	○	板金ディスク用
	99881-1511-0	後輪ウエイト単体	50kg	○	
その他	3N695-9743-0	トレーラ用コネクタ キット（メス用）	トレーラ側オスカプラ	○	3N695-9779-0 と共着不可
	3N695-9745-0	トレーラ用コネクタ キット（メス用）	トレーラ側オスカプラ	○	ヨーロッパタイプ
	3N695-9765-2	リヤデフォッガガラス キット		○	
	3N695-9727-0	クリープキット		○	
	3N695-9773-0	トレーラ用ブレーキキット		○	3N695-9743-0 と共着不可
	3N695-9791-2	アシストシリンダキット	ダブルアシストシリンダ	○	

補助コントロールバルブ一覧表

		品　名	品　番	1連目追加	2連目追加	3連目追加	備　考
バルブ	1	単複切換えバルブ	3N695-9781-2	○※	○※	○	
	2	セルフキャンセルデテントバルブ	3N695-9783-2	○	○	○	
	3	フローティングバルブ	3N695-9784-2	○	○	○	
	4	流量調整バルブ (フローコントロールバルブ)	3N695-9018-3	-	-	-	流量制御したいバルブの下に装着する
レバーキット	5	レバーキット（3連目取付用）	3N695-9788-2	-	-	○	
カプラ	6	カプラキット (3/8)	3G700-9790-0	○	○	○	7 ～ 12 部品各 2 セット含む
	7	カプラメス (3/8)	R1401-7997-0	○	○	○	
	8	カプラオス (3/8)	R1401-7996-0	○	○	○	
	9	キャップオス (3/8)	3G700-9771-0	○	○	○	
	10	キャップメス (3/8)	3G700-9772-0	○	○	○	
	11	油圧取出しニップル (3/8 用)	3R600-8242-0	○	○	○	
	12	0 リング	04817-00140	○	○	○	
	13	カプラキット (1/2)	3G700-9799-4	○	○	○	14 ～ 19 部品各 2 セット含む
	14	カプラメス (1/2)	39727-3504-0	○	○	○	
	15	カプラオス (1/2)	39727-5504-0	○	○	○	
	16	キャップオス (1/2)	R1401-7978-0	○	○	○	
	17	キャップメス (1/2)	R1401-7979-0	○	○	○	
	18	油圧取出しニップル (1/2 用)	39782-5884-0	○	○	○	
	19	0 リング	04817-00140	○	○	○	
	20	カプラキットクイックタイプ (1/2)	3G900-9790-2	○	○	○	21 ～ 23 部品各 2 セット含む
	21	カプラメスアッシ	3C001-8201-0	○	○	○	
	22	カプラオスアッシ	35861-8219-2	○	○	○	
	23	ブッシング (1/2 × 3/8)	39708-5543-1	○	○	○	
	24	油圧取出しニップル (3/8 用)	3G700-9793-0	○	○	○	エルボ (45 度), 6 部品用
	25	油圧取出しニップル (1/2 用)	3G700-9794-0	○	○	○	エルボ (45 度), 13 部品用

※標準装備

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成22年度
農業・食品産業技術総合研究機構

型式名：クボタ　ＩＣ１０８Ｗ

合格番号：２１００２８

種　　類：安全キャブ

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

１．型式名

クボタ M108W

２．主要諸元（最大トラクター）

■型式名		：	クボタ M108W
■種類		：	４輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	3410
■軸距	mm	：	2435
■機関出力／回転速度	kW{PS}/rpm	：	79.4{108}/2600

Ⅱ　構造の概要

１．構造及び装着法

供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してクラッチハウジング部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

ウインドスクリーン，ドア（両側），側窓，後窓を装備。

２．主な装備

シートベルト（２点式），換気・暖冷房装置，電動ワイパー（前・後）

３．主要寸法　※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	95.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	148.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅		：	106.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	122.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	70.0 cm
	（中部）	：	75.5 cm
	（下部）	：	33.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	137.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	53.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	268.0 cm
■キャブの全幅		：	148.0 cm
■座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	32.0 cm

※１．クボタ M108W（タイヤサイズ ： 前輪 13.6-24 6PR　後輪 16.9-38 8PR）に装着時。
２．トラクターシートの銘柄型式 ：GRAMMER, DS85H/90
３．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

４．主要材料

■主フレーム ： STKM 11 A, STKR 400, STK 400, STKMR, SS 400, SPHC, SPCC
■装着ブラケット ： SS 400, SPHC
■組立・装着ボルト ： S 45 C

Ⅲ　検査成績

１．強度試験

１）水平負荷試験は，キャブの後部左側，側部右側に対して実施。

■基準質量	：	3500 kg
■所要吸収エネルギー	：	後部負荷　4.90 kJ {500 kgf･m}
	：	側部負荷　6.13 kJ {625 kgf･m}
■圧壊力	：	70.00 kN {7138 kgf}

２）試験後のキャブの永久変位

■後部（前方へ）	：	右側	0.0 cm	左側	9.5 cm
■前部（前方へ）	：	右側	0.5 cm	左側	9.5 cm
■側部（左側方へ）	：	前側	9.0 cm	後側	12.5 cm
■上部（下方へ）	：	前部　右側	0.0 cm	左側	1.5 cm
		後部　右側	0.5 cm	左側	2.0 cm

３）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 10.0 cm

２．騒　　音　※

■ 80.0 dB(A) ［クボタ M108W］

※ 7.5km/h に近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

Ⅳ　付　記

本キャブは，任意鑑定受験機（平 22 任鑑 7 号，コードⅠ）であり，強度試験については，任意鑑定の試験成績を転用した。

本成績表のⅡの３．主要寸法における座席基準点は，平成 22 年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり，従来の座席基準点とは位置が異なる。

索引

英数字

100 時間ごとの点検・整備 80
1500 時間ごとの点検・整備 94
１年ごとの点検・整備 94
200 時間ごとの点検・整備 85
２年ごとの点検・整備 95
300 時間ごとの点検・整備 90
3000 時間ごとの点検・整備 94
400 時間ごとの点検・整備 91
50 時間ごとの点検・整備 78
600 時間ごとの点検・整備 92
800 時間ごとの点検・整備 94
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ 57
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤの不調と処置 104
AM / FM ラジオ付き CD プレーヤ本体の外し方 62
CD を聴くには 60
DT スイッチ 22
Dual speed（デュアルスピード）
変速スイッチ 20
PTO 43
PTO 回転計 27
PTO 回転計の設定と確認 29
PTO クラッチコントロールレバー 43
PTO 軸カバー，PTO 軸キャップ 44
PTO 変速レバー 43

あ行

アクセルレバーとアクセルペダル 22
アタッチメント一覧表
（純正部品を使いましょう） 110
安全キャブとシートベルト 12
アンテナ 62
イージーチェッカ 24
インジェクタの点検 94
インテークエアヒータの点検 94
インプルメントの装着 63
インプルメント用操作ボックスの取付 63
ウインカスイッチ 14
ウエイト（別売） 48
ウォッシャ液の補充 99
運転席周りの調節 12
運転中の作動確認 24
運転前の点検 4
運転免許 3
エアクリーナエレメントの交換 94
エアコン 53
エアコンコンデンサの詰まり 89
エアコン配管，ホースの点検 94
エアコンベルトの張り 89
エキゾーストパイプ及びマフラの状態 84
エンジンオイル・ミッションオイル 69
エンジンオイルの交換 90
エンジンオイルの量及び汚れ 71
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 92
エンジン回転計 25
エンジン始動システムの点検 78
エンジンの始動確認 84
エンジンの始動と停止 5
エンジンの排気の状態 84
エンジンの不調と処置 102
エンジンバルブクリアランスの点検 94
オイルクーラホースの交換 96
オイルクーラホースの点検 85
オートグロー 5
お問合わせ（AM/FM ラジオ付 CD プレーヤ） .. 62
主な消耗部品一覧表
（純正部品を使いましょう） 108

か行

外気フィルタの清掃 88
外部電源取出端子 16
外部油圧取出し 37
格納 100
寒冷時の始動のしかた 9
寒冷時の暖機運転 10
寒冷時のワイパの使用 51
キースイッチ 5
吸気ホースの交換 96
吸気ホースの点検 85
給油（水）一覧表 68
クォータウインド 50
クラッチハウジングの水抜き 79
クラッチペダル 18
グリース 69
グリースの注入 83
クリープレバー（オプション） 21
けん引ヒッチ（ドローバ） 42
検査成績表 112
後輪 45
後輪ウエイト（オプション） 48
後輪輪距 46
小型特殊自動車取得の届出と
標識（ナンバープレート）の取付け 3
小型特殊自動車としての取扱い 3
ご相談窓口 1

さ行

サービスと保証 1
サイドカバーの取り外し 70
坂道での運転 32
作業機昇降装置 35

索引

作業機落下速度の調整 36
作業機を取付けないときの注意 42
作業灯スイッチ（後） 15
作業灯スイッチ（前） 15
サプライポンプの点検 94
三点リンク 39
サンバイザ 52
シート 12
シガライタ 52
室内エアフィルタの清掃 87
始動のしかた 5
車速係数の入力 30
シャトルレバー 20
車幅灯・尾灯 15
主変速レバー 19
主要諸元 105
状況に応じた操作 31
水温計 26
推奨オイル・グリース一覧表 69
ストッパボルトの調整 47
スピードメータ 27
スローブローヒューズの交換 98
セパレータの清掃 91
セパレータの水の排出 73
旋回のしかた 31
洗車時の注意 64
前部ウエイト（オプション） 48
前部デフケースのオイル交換 93
前部デフケースの前後遊びの調整 93
前輪 45
前輪切れ角の調整 47
前輪ケース回動トルクの調整 94
前輪ケース左・右のオイル交換 93
前輪輪距 46
走行速度表 106
損害賠償保険について 3

た行

ターボチャージャの点検 94
タイヤ 44
タイヤの空気圧 44
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 74
タイヤ取付けボルトの点検 79
ダブルエアクリーナエレメントの清掃 82
チェックチェーン 42
駐車ブレーキ 23
駐車ブレーキの作動点検 77
駐車ブレーキの点検・調整 83
駐車ブレーキワイヤの交換 96
注油 99
長期格納時の手入れ 100
チルトステアリングハンドル 13
定期点検箇所一覧表 66
停止のしかた 9
停車・駐車 23
デフロックの使い方 31
電源取出し 16
ドア 49
ドア・窓の開閉とロック 49
灯火類の操作 13
道路走行中の注意 32
トーイン調整・タイロッドの点検 86
トップリンク 40
トラクタの主要諸元 105
トラクタの給油（水） 68
トラックへの積み・降ろし 33
ドラフトコントロールレバー 35
ドラフトストッパ 35
トレーラカプラ電源 16
トレーラ用カプラ（オプション） 16

な行

ならし運転（最初の約 50 時間） 11
日常点検 71
燃料計 25
燃料タンクの水抜き 87
燃料の空気抜きのしかた 96
燃料の補給 78
燃料フィルタカートリッジの交換 91
燃料ホースの交換 96
燃料ホースの点検 79

は行

廃棄物の処理について 64
バキュエータバルブの清掃 73
ハザードスイッチ 14
バックミラー 13
バックランプ 15
発進・走行 17
バッテリあがりの処置 10
バッテリ電解液の点検 80
パワーステアリングの取扱い 33
パワーステアリングホースの交換 96
パワーステアリングホースの点検 79
必要に応じた点検・整備 96
ヒューズの交換 97
表示の切替え 27
標準付属品 107
ファンベルトの点検・調整 82
副変速レバー 19
不調と処置 102
ブレーキオイルの交換 93
ブレーキオイルの量 73

ブレーキシール１，２の交換 96
ブレーキの空気抜き 97
ブレーキペダル 17
ブレーキペダルの遊び・点検 76
ブレーキホース / ブレーキタンクホースの交換 96
ブレーキランプ 15
フロントワイパ・ウォッシャスイッチ 51
ヘッドライトスイッチ 13
ヘッドランプの交換 99
防虫網の清掃 75
ホーンボタン 14
ポジションコントロールレバー 35
補修用部品の供給年限について 2
ほ場への出入り時の注意 32
補助コントロールバルブ一覧表 111
補助コントロールバルブ単複切換えつまみ .. 38
ボンネットの開閉 70

ま行

マスタシリンダ / イコライザキットの交換 .. 96
ミックスコントロール 36
ミッションオイルの交換 92
ミッションオイルの量及び汚れ 72
メータ・ランプ類の作動 77
モニタランプ 5

や行

油圧オイルフィルタカートリッジの交換 86
油圧ブレーキの点検 83
油圧補助コントロールレバー 37

ら行

ラジエータホースの交換 96
ラジエータの洗浄 96
ラジエータホースの点検 85
ラジオを聴くには 59
ランプ一覧 99
リフトロッド（左）の長さ調整 40
リフトロッド（右）の調整 41
リヤウインド 50
リヤデフォッガスイッチ（熱線リヤスイッチ）（オプション） 51
リヤワイパ・ウォッシャスイッチ 51
輪距 3
輪距の調整 45
ルームランプ 50
冷却水の交換 95
冷却水の量 72
冷媒（ガス）量の点検 100
ロアーリンク取付け穴の選択 40
ローダ作業 34

わ行

ワイパ 51
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点検・交換 74

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

購入先名 担当 電話番号（　　）　　－		型式名 区分 車台番号（製造番号） エンジン型式 エンジン番号
ご購入日	キーナンバー	その他装着型式 機械番号

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

北海道事務所：電(011)376-4434	〒061-1274	北海道北広島市大曲工業団地３－１
秋田事務所：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所：電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182－１
東京事務所：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２－36
新潟事務所：電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所：電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956－１
名古屋事務所：電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所：電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所：電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846－１
株式会社四国クボタ本社：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647－３

株式会社クボタ

国内農機カスタマーセンター：電(072)241-1375　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64

M108W
AR. J. 5-6. 1. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

品番　3N695-9971-5

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号